

鍋沢元蔵書誌

小川正人・遠藤志保・大坂 拓

- 目次
- 1 まえがき
 - 2 鍋沢元蔵氏による筆録・著作
 - (1) 鍋沢元蔵氏による筆録ノート
 - (2) 公刊された図書（筆録ノートの活字化を含む）
 - 3 鍋沢元蔵氏による口演の録音
 - 4 鍋沢元蔵氏が製作した民具
 - 5 鍋沢元蔵氏から採録した記録
 - (1) 筆録ノート
 - (2) 公刊された図書（筆録ノートの活字化を含む）
 - 6 その他の鍋沢元蔵氏に関する文献
 - 7 参考
 - (1) 鍋沢元蔵氏によるテキスト
 - (2) 鍋沢元蔵氏略年譜

Key Words

書誌 (Bibliography)、アイヌ口承文芸 (Ainu oral literature)、アイヌ祭具 (Ainu ritual utensils)、アイヌ史 (History of Ainu Peoples)、個人史 (Personal history)

1 まえがき

(1)

鍋沢元蔵氏（1886～1967年）は、北海道沙流郡の新平賀（現在の日高町福満）に生まれ、のち富川に転居し旅館を営み、この地で生涯を終えた。アイヌ文化との関わりでは、自ら口頭文芸の筆録に尽力し、『アイヌ叙事詩クドネシリカ』等を著したことで知られる。そしてもちろん、新平賀や富川の地域社会にあって、近現代の北海道の歴史のなかを歩んできた人でもある。

本稿は、この鍋沢氏の著作、鍋沢氏が製作した民具及び鍋沢氏に関する記述を有する文献・記事等を目録形式でまとめたものである。

(2)

本稿を編むに至った契機は、北海道博物館の総合展示の中に7箇所設けている「クローズアップ展示」⁽¹⁾の一つで、2016年4月から7月まで実施した、「伝承者が生きた近現代 鍋沢元蔵さん」と題した展示である。「伝承者が生きた近現代」というタイトルは、冒頭でも述べたとおり、従来のアイヌ文化研究において「伝承者」として知られる人々について、伝統文化の記録や継承などに従事した側面とともに、それぞれが生活者として時代のなかを生きた側面を意識して付けたもので、北海道博物館の総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」全体を通して注意を払った点でもある⁽²⁾。展示を製作する過程で集約できた情報を、この機会に補訂しまとめておくことで、今後の調査や学習の足がかりになればと考え、ここに発表する次第である。

小川正人：北海道博物館アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

遠藤志保：北海道博物館アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

大坂 拓：北海道博物館アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

(1) 「クローズアップ展示」は、おおよそ展示ケース1台相当（幅120cm～300cm）のスペースを使って、比較的短期間（1、2ヶ月～半年程度）ごとにテーマを決めて展示を入れ替えていく、言わばミニ企画展を実施するコーナーである。

(2) このような注意を意識した背景には、既往のアイヌ文化・アイヌ史の記述では、いっぽうで「アイヌ民族の歴史や文化を、伝統的な文化のステレオタイプな捉え方のみで認識してはならない」と唱えつつ、実際の記述では、近現代のアイヌ民族を「伝統文化の継承と変容」「先住民族としての抵抗と活動」といった限定的な指標だけで捉えたり、「アイヌ文化」という言葉で指し示すものが、暗黙のうちに伝統文化とその継承に限定されていたり、ということになりがちだったとの反省がある。

従って、例えば総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」の中に設けた「見て 聞いて アイヌ文化の世界」という物語や歌、楽器の演奏などの視聴覚コーナーにおける「語り手紹介」でも、紙幅の制約もありまだまだ不十分ではあるが、各プログラムの出演者を単純に「伝承者」と紹介するだけにはならないようにしている。

文学や歴史などの分野では、注目すべき足跡を遺した人物に関して、業績や関連する情報をまとめた書誌がたくさん編さんされている。しかしアイヌ民族に関しては、これまでのところ、知里幸恵、知里真志保などごく少数にとどまる。本稿が、これからの基礎的資料・情報の整備の一端になればと願う。

(3)

鍋沢氏が記したノートや著作には、鍋沢氏自身と鍋沢氏が暮らしてきた地域についての、具体的で詳細な記録が見られることが特徴の一つである。それは自らが学び覚えたこと、見聞し体験してきたことをしっかりと遺しておくという鍋沢氏の意味によるものと推察する。

いっぽうで、このような特色ゆえに、これらの記録には、個人情報やプライバシーに関わるおそれのある情報も多く含まれていることに、十分な注意を払うべきと考える。本稿でも、鍋沢氏ならびに既に種々の著作等で氏名が広く知られている人名を除き、個人情報となりえるおそれのある記述は省略している。これからも、鍋沢氏による記録の利用にあたっては、この点について相当に慎重な態度で臨むことが、強く求められる。

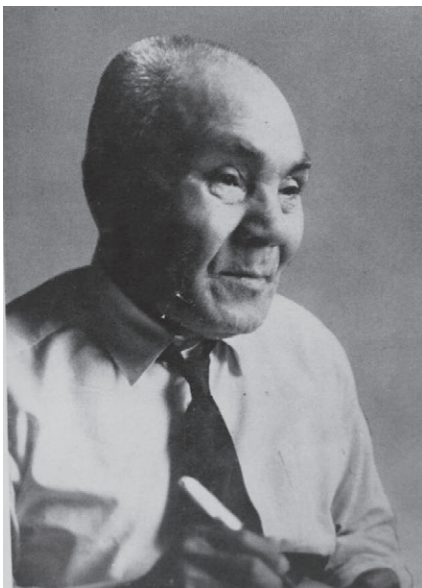
(4)

本稿は、「2」「3」「5」及び「7」の(1)を遠藤、「4」は大坂が作成した。「6」は、主に口承文芸研究に関するものを遠藤が、その他の文献を小川がとりまとめたものを整理して作成した。「1」及び「7」の(2)は、小川が作成した草稿を他の二名とともに検討し、加筆・補正して作成した。前述したクローズアップ展示は、大坂の着想・提案によるもので、主な展示資料は大坂と遠藤が整えた。

本稿をまとめるにあたり、多くの方々から、調査の視野と視点、資料の所在などについて教示をいただいたことに感謝する。また、鍋沢元蔵氏の生涯を北海道博物館の展示で紹介することにご了解くださった、孫にあたる鍋沢剛さんのご厚意に、あらためて深く感謝したい。

凡例

- 鍋沢元蔵氏の姓について、既刊の文献では「鍋沢」「鍋澤」の2通りが確認できるが、ここでは「鍋沢」に統一した。また原則として鍋沢元蔵氏にのみ「氏」を付した。
- 本書誌内で既出文献を挙げる際、「鍋沢元蔵遺稿ノート」(2-(1)-1) No.1) については「遺稿ノート」、自筆ノートについては「所蔵先+ノート」(例 民博所蔵ノート)、そのほかについては基本的に本題のみで表記した。
- 鍋沢氏の自筆ノートの「内容」については、鍋沢氏の表記をそのまま写した。そのため、アイヌ語カナ表記においては、「チャ」を「ザ」、「イエ」や「ウエ」を「エ」や「エ°」とする表記や、小書きカナを使用していないなど、現在一般的に用いられるアイヌ語カタカナ表記とは異なる場合があるが、いずれもその都度の注記はしていない。ただし、明らかな脱字については備考欄に記した。なお、日本語表記においてはしばしば日本語北海道方言の影響を受けている部分や、漢字の誤記も見られるが、それも含めて鍋沢氏の表記のとおりに記している。ただし、わかりにくいと判断したものについては備考欄に記した他、表記が固定されている場合は、初出のみに記した。



鍋沢元蔵氏 (『アイヌの祈詞』口絵写真)



関係地域図

2 鍋沢元蔵氏による筆録・著作

〈凡例〉

・「表題」はそれぞれの記載から表題に該当すると判断した部分を転記した。ただしカッコ等は適宜省略した。該当する記載が確認できない場合は、内容の要約を〔 〕で括弧して示した。

2- (1) 鍋沢氏による筆録ノート

2- (1) -1) 鍋沢元蔵遺稿ノート (日高町立門別図書館郷土資料館所蔵)

〈概要〉

原資料は日高町立門別図書館郷土資料館所蔵。現在、閲覧利用については道立図書館が所蔵する原資料のコピー (マイクロフィルム。請求記号 M364~366) によることとなっており、本リストもこのマイクロフィルムにより作成した。本ノートは、その一部が門別町郷土史研究会より出版されている (後述 2-(2)「公開された図書」参照) が、未公開のテキストも多い。また、鍋沢氏による、出版物の送付先のメモなども残されており、鍋沢元蔵という人物の背景や周辺情報がうかがえる情報も記載されていることが特徴である。

〈凡例〉

・「No.」は、門別町 (現日高町) に寄贈された際の整理時に付されたと考えられる題箋 (「鍋澤之蔵 [マ] 遺稿ノート」と記載されている) に記載のものである。

・「表題 (門別町による整理)」ならびに「体裁」、「年月日」は、門別町による本ノート整理時の記録と思われる、ノートのタイトル一覧 (北海道立図書館北方資料室マイクロフィルム (HM364) に記載) によった。ただし、同マイクロフィルムにてノートの内容などを確認した結果、適宜修正を行った箇所もある。

・「内容」は、鍋沢氏によるテキスト・項目のタイトル等に相当すると判断した部分の記述を、仮名遣いなども含めてそのまま記入した。タイトルの記載が確認できない場合は、適宜〔 〕に入れて記した。

| No. | 道立図書館 請求記号 (掲載順序) ページ (鍋沢氏によるノンブル) | 年月日 | 表 題 (門別町による整理) 内 容 | 表 題 (鍋沢氏による記載) 備 考 | 体裁 |
|-----|---|-------------------|---|--|--------|
| 1 | M364 (1) 1~30 (1~32) | 1965 (昭和40) .12 | カムイオйна 第1分冊 第一オйна おいな神自から物語 | オйнаカムイ物語 アイヌ語のみ。 | B5判ノート |
| | M364 (2) 1~32 (33~65) | 1965 (昭和40) .12 | カムイオйна 第2分冊 第2号 [ノート1の続き] | — アイヌ語のみ。 | B5判ノート |
| 3 | M364 (3) 1~32 (66~98) | 1965 (昭和40) .12 | カムイオйна 第3分冊 [ノート2の続き] | — アイヌ語のみ。 | B5判ノート |
| | M364 (4) 1~32 (99~130) | 1965 (昭和40) .12 | カムイオйна 第4分冊 [ノート3の続き] | 第4号 (序) (オйна) アイヌ語のみ。ノンブル103~105の一部のみ日本語訳が 付されている | B5判ノート |
| 5 | M364 (5) 1~28 | 1965 (昭和40) .12 | カムイオйна 第5分冊 [ノート4の続き] | 第5号 (序) (オйна) アイヌ語のみ。 | B5判ノート |
| | M364 (6) 1 2~70 2~34 (1~33) 35~69 (34~68) 70 (69) | 1966 (昭和41) .1 | ボンオйна 目次 カムイ第2オйна 第二 伝承神物語 ・[第一段] ・天国から神降りた 第二段 ・説明 | 富川町福満平賀サタモ語/カムイ ボ ン オйна アイヌ語+日本語訳。 アイヌ語+日本語訳。 「説明」の意。日本語解説。 | B6判ノート |
| 7 | M364 (7) 1~9 1~8 9 10 | 1966 (昭和41) | カンナカムイ (雷神の歌) 雷神の歌 ・[雷神の神謡] ・あとがき [白紙] | 雷神の歌 神謡のテキスト。アイヌ語+和訳にサケへも本文に付さ れている。『北海道の文化』13号所収となる神謡の原資料 か。 日本語解説。 | B5判ノート |
| | M364 (8) 1 2~46 47~85 86~131 | 1962 (昭和37) .10 | クドネシリカ 1~3段 [中表紙] ユーカラ 一号カラ第三号 クドネシリカ/オッココイドレン/アツパケへ始まり/第一号 (テ キスト) クドネシリカ/ラッコエイクカ/ラッコ泥棒第二号 クドネシリカ/第三号/台/ウコセタ、サバ、ロシキ | ユーカラ 台 クドネシリカ 第一段第二段第三段 英雄叙事詩「クドネシリカ」の物語テキスト。アイヌ語 のみ。 アイヌ語+日本語訳。 アイヌ語+日本語訳。「台」は「題」の意として使われて いる。以下、同じ。 | B5判ノート |
| 9 | M364 (9) 1~66 (1~66) 67~157 (67~158/200) 158~210 (159/201~253) 211~212 | 1962 (昭和37) .10 | クドネシリカ 4~6段 クドネシリカ 四段 ラクコ 退治 第四段 ホシキ・アフンベ/イヨシ・アフンベ クドネシリカ/五段/ニサブタスム クドネ シリカ/チワシベツ・ウンクル/フレ マフボ/六段 [白紙] | クドネシリカ 第四段 アイヌ語+日本語訳。 アイヌ語+日本語訳。 アイヌ語+日本語訳。 | B5判ノート |
| | (掲載なし) | 1962 (昭和37) .10 | クドネシリカ 6~7段 | (未確認) 北海道立図書館所蔵のマイクロフィルムには記載されて いないが、同マイクロフィルム (M364) 記載の門別町教 育委員会作成による「ノート一覧」によると、「クドネシ リカ 6~7段」が書かれたノートが「No.10」となって いる。 | B5判ノート |
| 11 | M364 (12) 1 2 | 1965 (昭和40) .3.13 | イモンカオヤンマツ (メノコユカラ) [中表紙] 神姫メノコユウカラ/台 イモンカオヤンマツ [白紙] | 東京の山路先生に 原稿を書いた/神 姫物語ユーカラ/台 トリカブト 表紙の「山路先生に」書いた原稿とは、『アイヌ・モシリ』 17号 (2-(2)-1) 参照) 所収の同題のメノコユカラのこと であろう。 | A5判ノート |

| No. | 道立図書館 請求記号 (掲載順序) ページ (鍋沢氏によるノンブル) | 年月日 | 表 題 (門別町による整理) | 表 題 (鍋沢氏による記載) | 体裁 |
|-----|--|-------------------|---|--|--------|
| | | 内 容 | | 備 考 | |
| 11 | 3~76 3~23 24~76 77~78 (1~2) 79 80~83 | | 姫神メノコユウカラ ・第一段 台 イモンカオヤンマツ ・第二段 あとがき 〔トリカブトの毒について〕 〔白紙〕 | アイヌ語+日本語訳。 アイヌ語+日本語訳。 鍋沢氏の書き込みのある用紙が貼付されている。『アイヌ・モシリ』17号(2-(2)-1) No.8, 9 参照の「あとがき」(p.51)に掲載されているものと、表現は多少違うものの、同じ内容であることから、『アイヌ・モシリ』に投稿した原稿だと考えられる。 | |
| 12 | M364 (10) 1~81 1~54 (1~30) 55~81 82~86 | 1963 (昭和38) .3.2 | ライヘネヤ、モコロヘネヤ 第1号 ボンヤウベ物語/ユウカル ・〔フリハヨクベ〕 ・〔フリハヨクベ〕 〔白紙〕 | アイヌ語ユウカラ/語る人 萱野力造 | A5判ノート |
| 13 | M364 (11) 1 2~125 2~33 (1~32) 34~89 (33~88) 90~125 (89~215) 126 | 1964 (昭和39) | イベウエンキンラ 〔目次と前書き〕 ユウカラ/ボイヤウンベ物語り/台 イベウエ°ンキンラ/夢中に食べた ・〔第1段〕 ・第二段/台エテスケ・モシリ(二)/台 それた鳥 ・第三段/台エテスケモシリ/ウタラバ・ウコイキ 〔白紙〕 | — | B5判ノート |
| 14 | M364 (15) 1 2~100 (1~99) 2~24 (1~23) 35~88 (24~87) 89~100 (88~99) 101~105 (100~104) 101~105 (100~104) 105 (104) | 1963 (昭和38) .4 | ライヘネヤ、モコロヘネヤ 〔目次〕 ボイヤウンベ、ユウカラ/ボイヤウンベ物語 ・台 ライヘネヤ、モコロヘ。ネヤ/台 死んだか眠たか/第1段 ・台 ドムンチ、カムイ、アホトイエ°カラ/台 魔神呼ぶ/第二段 ・台 フウリ・ハヨクベ/台 大鷲金鎧/第三段 ユウカラあとがき ・ユウカラについて(その1~その9) ・脱明(その1~その2) | 東京の山路先生に 原稿を見せた/(見出 鷲鎧)/ユウカラ集典/アイヌ語と和語 「昭和38年4月20日に聞いた」「ユウカラ 語る人 萱野力造」とある。 英雄叙事詩のテキスト。『アイヌの叙事詩』(2-(2)-4) No.3参照) 203ページには、「筆録ノート二冊のうち一冊は、このユウカラの下書きで対訳でなくアイヌ語で書き流してあるが、後に他の一冊に浄書したものがあ」とある。「ライヘネヤ」のノートは、このNo.14とNo.12とがあるが、筆録年月が遅いことと、このノートでは対訳が整備されていることから、このノートが「浄書」のほうであると推定できる。 アイヌ語+日本語訳。 アイヌ語+日本語訳。 アイヌ語+日本語訳。ノンブルは109の次が200に飛んでいる。 | B5判ノート |
| 15 | M364 (13) 1~29 1~29 (1~29) 30 (30) | 1965 (昭和40) .9 | イヨチウンマツ (余市姫) ユウカラ/イヨチ ウンマツ 物語り ・第一号 メノコ ユウカラ/余市 神姫物語 〔白紙〕 | ユウカラ イヨチウンマツ | B5判ノート |
| 16 | M364 (14) 1~66 1~22 (1~22) 23~49 (23~49) 50 (50) 51~66 (51~66) | 1965 (昭和40) .10 | ニタイパカイエ ユウカラ ・第1 ニタイパ・カイエ°/ドムンチ・エカシ・イレス/魔神に育てた ・第2 カント・オルン・ボヤウベアエキラ/天国え奪ばわれに ・〔白紙〕 ・3段 イヨシリコテ/恋心 | — | B5判ノート |
| 17 | M364 (16) M365 (1) | 1966 (昭和41) .1.10 | サクソモアイエプアコイキ | ユウカラ/魔の龍退治 | B5判ノート |

| No. | 道立図書館 請求記号 (掲載順序) ページ (鍋沢氏によるノンブル) | 年月日 | 表 題 (門別町による整理) | 表 題 (鍋沢氏による記載) | 体裁 |
|-------|---|------------------|---|--|--------|
| | | 内 容 | | 備 考 | |
| 19 | 54~56 (57~59) | | イモシ・カムイ/イモシ・大神尊 | ノンブル57の下部にイモシ神の説明あり。 | |
| | 57~59 (60~62) | | フリ・カムイ/去場川東の鷲大神 | ノンブル60下部にフリの説明あり。 | |
| | 60~62 (63~65) | | シヌタイ・クンネ・シドンベ/シノダイ・丘黒稲荷大神 | ノンブル62~63のページ下部にシノタイの狐の説明あり。 | |
| | 63~65 (66~68) | | モベツ・レタル・シドンベ・カムイ/門別崎白狐大神 | ノンブル66のページ下部に門別の狐の説明あり。 | |
| | 66~68 (69~71) | | イモシ・カムイ/チシナブ・神の命神 | ノンブル69のページ下部に「其訳」としてイモシカムイの説明あり。 | |
| | 69~72 (72~75) | | サンマサル・コロ・カムイ/海岸船附場守神 | ノンブル72のページ下部にサンマサル神の説明あり。 | |
| | 73~74 (76~77) | | トマリ・コロ・カムイ/港大神 | ノンブル75のページ下部に「まいがき」(まえばき)として港の神の説明あり。 | |
| | 75~78 (78~81) | | モアザウンクル/モアザウンクル主明神の尊 | ノンブル78のページ下部に「モアザウンクル」の説明あり。 | |
| | 79 (82) | | 前書き | 熊祭りについての説明。 | |
| | 80~85 (83~88) | | 熊祭り祈詞 | 昭和4年3月10日のもの。 | |
| | 86 (90) | | 前書訳 | 「昭和26年」に熊を送るための「祈詞を捧げた」顛末。ただし、その祈詞にあたる次項「熊送る祈詞」の最後には「昭和20年10月」のものだと記されている。 | |
| | 87~93 (91~87) | | 熊送る祈詞 | 鍋沢氏によるノンブルは「91」の次が「82」、以下「83」「84」……となっている。 | |
| | 94 | | 目次 | | |
| 20 | M365 (3) | 1965 (昭和40) .7 | 顔面神経痛呪阻祈詞法典 | 顔面神経痛呪阻祈詞法典 (アイヌ語と和語) | A5判ノート |
| | 1 | | 準序 | 「順序」の意。 | |
| | 2~7 (1ページ欠+2~6) | | 一 カムイフチ・コイタク/顔面神経痛祈詞/ボタラ・イタク | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 7 (6) | | あとがき/第一 | | |
| | 8~12 (7~9+2ページ欠) | | 第二 ナイコロカムイ・コイタク/泉ノ神水神祈詞 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 12 | | あとがき/呪阻 説明/第二 | 「呪阻」は「呪詛」の意か。ただし本ノートを含め、鍋沢氏は「呪阻 (呪詛)」を「のろい」の意味ではなく、「となえごと」のような意味で記しているようである。 | |
| | 13~19 (10~16) | | 第三 ドレブニカムイ・モソソ/桑樹神入魂祈詞 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 20~23 (17~20) | | 第四 ミムタル・コロカムイ・コイタク/外庭先・権神祈詞 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 23 (20) | | 権神呪阻 あとがき | | |
| | 24~27 (21~24) | | 第五 イレス・フチ・コイタク/火の神に語祈詞 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 27 (24) | | あとがき/第四/家に戻り祈り/説明 | | |
| | 28~31 (25~28) | | 第六 桑樹神呪阻神え神昇祈詞 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 32 | | あとがき/第五 桑樹神に 感謝を唱えて昇神させる | | |
| 21 | M365 (4) | 1965 (昭和40) .9.5 | 病気のときエンチュウ樹神入魂祈詞 附 月の数え | 病氣人の時えんちう樹神入魂祈詞/ (月数え表/道の開く初り) | A5判ノート |
| | 1 | | 準序 | 「順序」の意。 | |
| | 2~4 (1~3) | | 第一 モシリコロフチ 火の神 (国持姥神) | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 5~7 (4~6) | | 第二 ヌサコロカムイ 祭壇の神 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 8~11 (7~10) | | 第三 チクベニ カムイ ニスク えんちう樹神招魂 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 12~13 (11~12) | | 第四 モシリコロフチ/アヌレイタク 国持姥に報告 火の神 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 14~17 (13~16) | | 第六 チクベニ カムイ/アリワクテ/えんちう神昇魂 | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 17 (16) | | 説明/あとがき | | |
| | 18~19 (17~18) | | 第五 モシリコロフチエウン/カムイ リワクテ アヌレ/神の招魂を、育て姥神に知らせる | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 20 (19) | | 沙流の月数え | 1~12月にあたるアイヌ語を並べたもの。 | |
| | 21 | | 白老の月数え | 1~12月にあたるアイヌ語を並べたもの。 | |
| | 22 | | 樺太月数え | 1~12月にあたるアイヌ語を並べたもの。 | |
| | 23 | | 千島の月数え | 1~12月にあたるアイヌ語を並べたもの。 | |
| 24~25 | | 気車の初まり、道開拓使初まり | 道庁の役人の名前や、北海道の名前が付いた年月、屯田兵が初めて北海道に来た年月、道内で稲作の始まった年月が記される。 | | |
| 26 | | [白紙] | | | |

| No. | 道立図書館 請求記号 (掲載順序) ページ (鍋沢氏によるノンブル) | 年月日 | 表 題 (門別町による整理) | 表 題 (鍋沢氏による記載) | 体裁 |
|------------------|--|--|--|--|---------|
| | | 内 容 | | 備 考 | |
| 22 | M365 (20) | 1964 (昭和39) .7 | 老女の冥土渡し | 老女に冥土渡 | A5判原稿用紙 |
| | 1~6 | 霊魂送り或は冥土渡し/ボロスクブ・マツ・モシリ・ホババ・イヨイタク・コテ・カムイオロンイタク/老女の方死亡の時神に向ふ祈詞 | | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 7 あとがき 8~15 16 あとがき 17 〔白紙〕 | 伯母イヨイタクコテ・イタク 老女伯母の死屍に冥土 | | アイヌ語+日本語訳。 | |
| 23 | M365 (5) | 1964 (昭和39) .7 | 川の溺死者の冥土渡し | 川に溺れ死の冥土 | A5判原稿用紙 |
| | 1~10 | 霊魂送る/サラク・カムイオッタ・カムイオロン イヨイタクコテ イタク/川え溺れ死屍の時神に向ふ祈詞 | | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 11~15 15 16 アトガキ 〔白紙〕 | サラク・カムイ・オイタクコテ/川に溺れて死人の冥土渡し | | アイヌ語+日本語訳。 | |
| 24 | M365 (6) | 1964 (昭和39) .7 | 火災の災難に高声の祈詞 | 火災の災難に高声の祈詞 | A5判原稿用紙 |
| | 1~11 12 | チセウファイ オッタ カマイ オロイタク/火災の災難時祈詞 | | アイヌ語+日本語訳。 | |
| 25 | M365 (7) | 1965 (昭和40) .5 | メノコエシムケブ他3篇 | オキクルミ ウエ [°] ベケル/アイヌ ウ エ [°] ベケル/ユカラ | B5判ノート |
| | 1~8 | (ボンクツ) ウエ [°] ベケル/メノコ・エシムケブ/古い昔し語り | | アイヌ語+日本語訳。「ウエ [°] ベケル」(散文説話)とあるが、内容的には伝説に近いものか。 | |
| | 9 あとがき 10~17 18 あとがき | オキクルミ・イソイタク オキクルミ物語 | | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 19~26 27~44 | 北見湯別/イクレスイエ [°] ・イソイタク/イクレスイエ [°] の物語/ウエベケル (第一) 北見湯別 厚けす/第二 イクレスイエ [°] とカステンと会た話/ウエ [°] ベケル) | | アイヌ語+日本語訳。 アイヌ語+日本語訳。 | |
| 26 | M365 (8) | 1965 (昭和40) .5 | ユベツウイクレスイエ 他4篇 | ウエ [°] ベケル/アイヌ昔話/第2号/アイヌ語と和語 | B5判ノート |
| | 1 | 〔目次〕 | | | |
| | 2~16 (1~15) | ウエベケル/ユベツ ウン イクレスイエ [°] /湯別のイクレスイエ物語 | | アイヌ語+日本語訳。目次でのタイトルは「湯別 イクレスイエ [°] 裸女」。 | |
| | 17~48 (17~48) | ウエベケル/石狩/トキツカント/トキツカント 物語 | | アイヌ語+日本語訳。目次でのタイトルは「石狩 トキツカント ひと食人・魔の犬・魔の女退治」。 | |
| | 49~64 (49~64) | 第二 ウエベケル/名前 (イクレスイエ) /イクレスイエ物語 | | アイヌ語+日本語訳。目次でのタイトルは「石狩 イクレスイエ [°] 鳥(ガラス)・鼠(ネツミ) 大軍〔マ〕」。 | |
| | 65~70 (66~71) | ウエ [°] ベケル 厚真/ラベインカル コル ウエ [°] ベケル/ラベインカル物語 | | アイヌ語+日本語訳。目次でのタイトルは「厚真 ラベインカル 弟殺し魔熊」。 | |
| 72~77 (72~78) | ウエ [°] ベケル/イクレスイエ・イソイタク/北見の湯別イクレスイエ [°] 物語 | | アイヌ語+日本語訳。目次でのタイトルは「湯別 イクレスイエ [°] 柚小屋(ソマゴヤ)に穴ほつてまち熊」。 | | |
| 27 | M365 (9) | 1966 (昭和41) .6 | イクレスイエ 他1篇 | ウエ [°] ベケル 昔語り/No. 3 | B5判ノート |
| | 1~35 36 | 題ウエ [°] ベケル (イクレスイエ [°]) 昔し物語 | | アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 37~57 | 説明 イクレスイエ ウエベケル/イクレスイエ昔語り | | 直前の散文説話の日本語解説。 アイヌ語+日本語訳。 | |
| | 58 | 第二 ウエベケル 語る人イクレスイエ 昔し語/説明 | | 直前の散文説話の日本語解説。 | |
| 28 | M365 (10) | 1964 (昭和39) .3.30 | アヨロ 他15篇 | ウボボ 女の座り歌 | A5判ノート |
| | 1~16 | ウボボ 座り歌 | | | |
| | 1 | ・ 1 アーヨロ・ウーウウ・ホウワ、あとがき | | 以下、タイトルがないため、それぞれ本文の1行目をタイトル代わりに挙げた。 | |
| | 2 | ・ 2 ツブカアワーカムイラン | | | |
| | 3 | ・ 3 アアードイソーオウーカタア | | | |
| | 4 | ・ 4 ボンランコー・オオ・カムイーヒヤオロン | | | |
| | 5 | ・ 5 ボンン・レブン・カムイ・ヘイヨウ | | | |
| | 6 | ・ 6 ニシ・スッスルケエー・スッスルケエー | | | |
| | 7 | ・ 7 エーコイカアアウン | | | |
| | 8 | ・ 8 カネボン・クト シントコ | | | |
| | 9 | ・ 9 ヘシ カヤ マフ ホオチウ | | | |
| | 10 | ・ 10 レーラ・マフカ・ソビウ | | | |
| | 11 | ・ 11 アウワブバアアウワブ | | | |
| | 12 | ・ 12 キナアースツ・ヘイヨウー | | | |
| | 13 | ・ 13 ヒヤオーシノトーオオ | | | |
| | 14 | ・ 14 フブザオーホレレレー | | | |
| | 15 | ・ 15 フン・チイカブ・フントリイー | | | |
| 16 | ・ 16 ウシシ キナア ホーホー | | | | |
| 29 | M366 (2) | 1964 (昭和39) | シンコさん 他5篇 | 北海道伝説 | B5判ノート |
| | 1 | 〔白紙〕 | | | |
| | 2~3 | 門別町内で、ある話 (シンコさん) | | 「今から、凡そ二百年余り」前の「慶応時代」に「ビタルバ」にいた「酋長」の話のあらすじが日本語で書かれる。 | |
| | 4~7 | 門別町の話 (1) (シンコさん) その (1) ~ (4) | | 「慶応時代」に「ビタルバ」にいた「酋長」の話 (4篇)のあらすじが日本語で書かれる。 | |
| | 8~9 | あとがき | | シンコさんの伝説について。 | |
| | 10~15 | 沙流川の伝説 | | 「鍋澤モトアンレクの先祖の話」のあらすじが日本語で書かれる。 | |
| | 16 あとがき 17 〔白紙〕 | | | 「紫雲古津村の人食い熊の退治した話」について。 | |
| 18~20 | 沙流門別にあつた古い話 | | 人を殺した熊を退治した話のあらすじが日本語で書かれる。 | | |
| 21~23 | 沙流郡の話 | | 祖父から聞いた話のあらすじが日本語で書かれる。 | | |

| No. | 道立図書館 請求記号 (掲載順序) ページ (鍋沢氏によるノンブル) | 年月日 | 表 題 (門別町による整理) | 表 題 (鍋沢氏による記載) | 体裁 |
|-------|---|--------------------------------|-------------------------------------|---|--------|
| | | 内 容 | | 備 考 | |
| 29 | 24 | あとがき | | 祖父から聞いた話について。 | |
| | 25 | [白紙] | | | |
| | 26~37 | 不孝と孝行の話／鶴川と沙流の話 | | 鶴川に孝行息子と不孝な息子の兄弟がおり、孝行息子が「大鷲」を退治したという話のあらすじが日本語で書かれる。 | |
| 30 | M365 (11) | 1958 (昭和33) .6 | 福満村の履歴 | お観音様の履歴／福満村の履歴 | B5判ノート |
| | 1~4 | お観音様の履歴と福満部落の履歴 | | 表紙は鍋沢氏の筆跡だが、本文は鍋沢氏の筆跡ではない。見開きの片ページにのみ記載があり、2ページ分は白紙。 | |
| 31 | M365 (12) | 1965 (昭和40) .8.8 | アイヌに関する歴史調査説明 | 説明集典／アイヌに関する 歴史調査集典 | B5判ノート |
| | 1 | [中表紙] | | 「40年11月13日 更科源蔵先生 見ました」というメモがある。 | |
| | 2~3 | アベカムイ／火の神 訳 | | 火の神についての説明。 | |
| | 4~8 | アエオイナ神の訳 | | アエオイナカムイについての説明。 | |
| | 9~11 | アアタマ／呪阻法、あとがき | | 「呪阻」は「呪詛」の意。ただしここでは、「となえごと」のような意味で記されている。難産時のまじないについての説明。 | |
| | 12~14 | カムイノミ ニ (神に捧げ御酒礼拝)／アチクカ | | チッカ (儀礼時に酒を捧げる動作) についての説明。 | |
| | 15~17 | モシリ (国) ホッパ (去) 不幸／アエイヌベオ | | 死装束、墓標など葬送儀礼についての説明。 | |
| | 18 | [白紙] | | | |
| | 19 | アコ (私) シラッキ (守) カムイ／説明 | | シラッキカムイについての説明。 | |
| | 20 | [白紙] | | | |
| | 21~22 | ビリカ (良い) ヌワブ (案産) | | 「案産」は「安産」の意。安産のために祈詞を唱えることなどについての説明。 | |
| | 23~24 | アミプ 着物 | | 着物の名称など。 | |
| | 25 | アエヤイカムイ問答集 | | 「アエヤイカムイ」という言葉の意味についての説明。 | |
| | 25 | エサマン 魔法 | | 「エサマン」が恐ろしい言葉であることについての説明。 | |
| | 26 | アエサバムエブ 男の冠り 女の頭巾 | | かぶりものについての説明。 | |
| | 27 | 沙流語 アシニ 墓標 | | 墓標のアイヌ語、立て方などについての説明。 | |
| | 27 | アエドネブ 魔物・化物 | | 化物物についての説明。 | |
| 28 | [白紙] | | | | |
| 29 | アエニヌイベ (枕) | | まくらの材料などについての説明。 | | |
| 30 | [白紙] | | | | |
| 31 | 音引当用漢字表 | | ノート自体に印刷されているようである。 | | |
| 32 | M365 (13) | 1966 (昭和41) .7 | 植物語い | 植物名度 | A5判ノート |
| | 1~7 | [植物語集] | | 植物名をアイヌ語・日本語対訳で一覧にしたもの。見開きのうち片ページのみに筆記。 | |
| 33 | M365 (14) | 1965 (昭和40) .4~ | 無形文化財目録 (伝承目録) | 古代 (?) 数々資料研究 | A5判ノート |
| | 1~15 | 古代研究数々物語名台表 | | 鍋沢氏が記したものと思われるテキストのタイトルをアイヌ語・日本語対訳で一覧にしたもの。番号は114まで振ってあるが、途中番号が飛んでいるため、全部で105篇。途中まで、見開きのうち片ページのみに筆記。(後出7-(1)参照) | |
| 34 | M365 (15) | 1963 (昭和38) .11 | 有形文化財目録 (土俗品目録) | 教育郷土支委員会代表古物買上表 | A5判ノート |
| | 1~24 | [アイヌ民具買上表] | | 門別町の郷土史研究会がアイヌ民具を購入した記録か。 | |
| | 25 | 古物調査日記 | | 上記の買い上げ調査に関する交通費・買上費用等の記録か。 | |
| 35 | M365 (21) | 1965 (昭和40) .11 | アイヌ語説明 | 第二号 昔の説明集 | A5判ノート |
| | 1 | [中表紙] | | 「札幌 更科源蔵先生 見ました」というメモあり。 | |
| | 2~6 | アイヌの叙事詩の宣伝チラシ (1部) | | アエオイナカムイについての説明。 | |
| | 7 | 40年11月14日／第二号 アエオイナカムイ | | | |
| | 8~10 | [白紙] | | | |
| | 11~12 | 説明／ユウカラ 第1第2第3 | | | |
| | 13 | [白紙] | | | |
| 13 | 音引当用漢字表 | | ノート自体に印刷されているようである。 | | |
| 14 | [裏表紙] | | | | |
| 15~17 | [白紙] | | | | |
| 18 | アイヌの叙事詩のチラシ | | | | |
| 36 | M365 (16) | [1962 (昭和37) .1~] | 新聞スクラップ集 | 北辺から見た日本・十話／金田一京助 | B5判ノート |
| | 1 | [中表紙] | | 「金田一京助／北辺から見た日本・十話」／毎日新聞連載記事／一号〜十号まで／昭和三十七年一月」と記してある。本ノートの表紙ならびにこのページは鍋沢氏の筆跡ではない。裏表紙には、このスクラップブックを贈られた旨が記されていることから、スクラップを作成した人物の字か。 | |
| | 2~14 | [新聞記事のスクラップ] | | 金田一京助による連載記事。毎日新聞。 | |
| | 2~11 | ・北辺から見た日本・十話 (二) (一) (三) ~ (十) | | 鍋沢氏自著が紹介されている新聞記事。昭和40年11月23日、室蘭民報夕刊。 | |
| | 12 | ・沙流アイヌのユウカラ発刊 | | 久保寺逸彦による連載記事。昭和40年12月10日、北海道新聞。 | |
| 13 | ・北の村人たち／私の研究ノートから<中> | | バチェラー八重子の死を伝える新聞記事。昭和37年5月3日、北海道新聞。 | | |
| 14 | ・貴重な資料も埋もれそう／バチェラー・八重子さんの死 | | このスクラップを受け取った日付等の記述がある。 | | |
| 37 | M365 (17) | 1965 (昭和40) .11 | 印刷物メモ | 印刷物の数料／ユウカラ | A5判ノート |

| No. | 道立図書館 請求記号 (掲載順序) ページ (鍋沢氏によるノンブル) | 年月日 | 表 題 (門別町による整理) | 表 題 (鍋沢氏による記載) | 体裁 |
|-----|--|----------------|---|--|--------|
| | | 内 容 | | 備 考 | |
| 37 | 1~4 5 | | [著書『クドネシリカ』の贈呈先と冊数のメモ] 音引当用漢字表 | 昭和40年11月12日~16日の記録。 ノート自体に印刷されているようである。 | |
| 38 | M365 (18) | 1962 (昭和37) .3 | 引導渡し者名簿 | 引導渡し亡者名/悪魔の禍ひのまつな ひ | A5判ノート |
| | 1~9 10 11~13 14 | | 「死亡者のイントウ報ツル日記」 〔白紙〕 「悪魔の禍ひ」 〔白紙〕 | 見開きのうち片ページのみに筆記。 魔払いに関する記録。見開きのうち片ページのみに筆記。 | |
| | M366 (3) | 1965 (昭和40) | 鍋沢家系およびその他の家系 | 鍋沢家系 その他の研究 | A5判ノート |
| | 1 2 3 4 5 6 7 8 9~11 12~15 16 17 18 19 20 21~22 23 24 25 26~37 38 39 | | [アイヌ語・和語対応] 失火御詫び並に御見舞御礼 不思議の日記 〔家族の生年月日〕 メモ 〔中表紙〕 荷負本村 酋長 〔白紙〕 〔ウエペケレに登場する人物の名前か〕 系図 〔系図〕 〔系図〕 〔系図〕 〔系図〕 〔系図に出てくる人物名〕 〔白紙〕 〔中表紙〕 「移動日記」 〔中表紙〕 鍋澤祖先の家系 〔白紙〕 〔系図〕 | 2つの単語について、アイヌ語と日本語とが記される。 「更科源蔵」の名前と「注文パイプ」という字が見える。 ただし、全体を×で消している。 「鍋沢家系 其他の家系研究」と書かれている。 〔家族と鍋沢家先祖の家族の名前〕 〔引っ越し、火災、再建築の年月日〕 「鍋澤祖先の家系」と書かれている。 | |
| 40 | M366 (4) | (記載なし) | 同上 | メモ | B5判ノート |
| | 1 2~3 4~5 6 7 8 9 10~11 12 13 14~15 16 17 18~19 20~22 23 24~25 26 27 28 29 30 31 32~34 35~36 37 38~39 40 41 42 43~44 45 | | 平取村の家系 系図 平賀の系図 〔名前〕 家系図 〔鍋沢家の初代~8代までの名前〕 〔系図〕 〔系図〕 アイヌと和言葉と同じ語表 〔伝承メモ〕(魔神(ケカチ)の言葉、神の歌、神、国持姥の話 歌 及び山神歌、歌ウウワテンナ、ウワテンナ、伝令のお使へ、水神の 神姫の歌) 神に呼出し言葉 〔メモ〕 木類の名前 〔各部落の「酋長」一覧〕 小樽早川先生訪 五月4日 漁業小屋建立人名 カンナカムイ・アイヌ モシリ ヌカン ルスイ/雷神が下界を見 たくて 六月八日 元蔵 〔熊を送る祈詞を行った際の顛末〕 〔英雄叙事詩のあらすじ〕 ユカラ ユウカラ (人食イリウ) 台は ヘヤ イイ 死産の時祈詞 難産の祈詞 カムイ・コヤイアツクサイタク/神の部下え返礼祈詞 カムイ・コヤツヌサ/神に返礼祈詞 昭和三十六年 ■■■世界最初の文字 〔漢字の練習か〕 〔中表紙〕 | 鍋沢家の直系先祖の家系図。 先祖の名前か。 家系図。 このページのみ、筆跡が元蔵氏のものではない。 カネ(金)、ヤク(役)など、アイヌ語と日本語とで同じ 音になる単語が羅列される。 火の神などの祈詞での呼び方。 「魚の名前(シリカブ)」、「根室の酋長コシヤマインの戦」、 「初めて教育を身に付たフリエン」、松浦武四郎のこと。 日本語・アイヌ語対応の語彙表。 「早川先生」は早川昇のこと。日本語・アイヌ語対応の語彙表。 雷神の神話の途中まで、アイヌ語のみで記す。 イクレスイエの登場する散文説話の日本語あらすじを途 中まで記す。 熊祭りについての説明。『アイヌ祈道全集』(後出 2- (2) -2)) 所収の「熊送る祈詞」の「まえがき」。 『アイヌ祈道全集』(後出 2- (2) -2)) 所収の「熊送る祈 詞」の「まえがき」。 未詳のテキスト。クンネベツの女を殺したり、兄弟である オイナ神と戦ったりする物語。アイヌ語からテキスト は始まるが、途中から日本語でのあらすじになる。 登場人物名などのメモか。 タイトルは「人食イ龍」の意。アイヌ語からテキストは 始まるが、後半は日本語でのあらすじになる。 オキクルミの妹が病気になったときの神話に登場する神 名を羅列。全23柱。ヘヤ イイはサケへ。 祈り言葉1篇。アイヌ語のみ。 祈り言葉1篇。アイヌ語のみ。 アイヌ語のみ。 アイヌ語のみ。 | |

| No. | 道立図書館 請求記号 (掲載順序) | 年月日 | 表 題 (門別町による整理) | | 表 題 (鍋沢氏による記載) | | 体裁 |
|-----|------------------------|--------------------------------|----------------------|---------------|---|---|--------|
| | ページ (鍋沢氏によるノンブル) | | 内 容 | | 備 考 | | |
| 40 | 46~49 (39、41、45、47) | | ウボボの台 | | ウボボの歌詞14篇。このページのみ、端が切れた紙をノートに貼ってある。そのため、文字が欠けているところも多々みられる。 | | |
| | 50~51 (49、51) | | カムイユカラ (サケヘ アイヌシツチリ) | | 「バシクル」の神が津波の襲来を鳴き声で知らせるが、「サマユンクル」の村では相手にされず、「オキクルミ」の村では丁重に折られるという内容の神謡。アイヌ語のみで途中まで書かれている。 | | |
| | 52~54 (53、55、57) | | 案産の時祈詞 | | 祈り言葉1篇。「案産」は「安産」の意。 | | |
| | 55~56 (59、61) | | お産を守る神 | | 祈り言葉1篇。 | | |
| | 57~63 | | 〔住所録〕 | | 更科源蔵などの住所のメモ。 | | |
| 41 | M365 (19) | (記載なし) | メモ | | 38年度アイヌ部落訪て 参賀 扇谷氏 鍋沢元蔵 | | B5判ノート |
| | 1~2 | 昭和38年度事業報告」と「昭和39年度決算報告」 | | 門別町教育委員会のものか。 | | 全107点のうち、鍋沢元蔵氏提供による「トキの台 (黒ぬり)」が4点、「トキの台 (赤ぬり)」が1点、イタンキが2点ある。 | |
| | 3~6 | 門別町郷土史研究会の「昭和38年度 アイヌ民族資料蒐集目録」 | | | | | |

2- (1) -2) 鍋沢元蔵筆録ノート (国立民族学博物館所蔵)

〈概要〉

鍋沢氏による口承文芸の筆録ノート。ノート1ならびに2は、1928 (昭和3) 年に筆録されたノートであり、現在所在がわかっている鍋沢氏筆録のテキストとしては最も古いものである。

本リストでの「ページ数」「体裁」の情報は、同ノートについての報告書である『国立民族学博物館所蔵 鍋沢元蔵ノートの研究』(後述 2-(2)-5) No.5) によった。また、「備考」欄に「」書きで記した各テキストの概要も、同報告書からの引用である (以下、リスト中では引用ページのみを記載した)。

| No. | ページ | 年月日 | 表 題 | | 備考 | 体裁 |
|---------|-----------------------------------|--|---|--|----|------------------|
| | 目 次 | | 備 考 | | | |
| 1 | 全36丁 | 1928 (昭和3) .2 | アイヌ聖典全 | | | 大学ノート |
| | 表紙裏 | [表題] | 「神大古聖語 (傳 ユカル)」と記されている。 | | | |
| | 1丁表から18丁表 | ユカル | 英雄叙事詩のテキスト本文。アイヌ語のみ。「主人公が妹を育てている描写から始まる珍しい出だし」(p.9) の英雄叙事詩。 | | | |
| | 19丁表 | [表題] | 「神謡 (カムイユカラ) / 其語 (ノーウ)」と記されている。「ノーウ」はサケヘであろう。 | | | |
| | 19丁表~23丁裏 24~36丁 | 神謡 (カムイユカラ) / 其語 (ノーウ) 〔白紙〕 | 神謡のテキスト本文。アイヌ語のみ。ポンオキクルミが草人形の力で病気の神を追い払う話。 | | | |
| 2 | 全10丁 | 1928 (昭和3) .2 | 北海道沙流郡方面典 | | | 大学ノート |
| | 1丁裏 | [表題] | 「神傳 (カムイ ユカラ) / 其語……ツブドルマケ……ランラン ビウニタ/ビシビシ……ランラン ラブシタ/バケ………ピウニタ」と言」と記されている。「ツブドルマケ」以下はサケヘであろう。 | | | |
| | 2丁表~4丁裏 | 神傳 (カムイ ユカラ) | アイヌ語+日本語対訳。テキストの後に解説が日本語で書かれている。「天国の大神」が「病魔を退治するという内容」(p.10)。 | | | |
| | 5丁表 | [白紙] | | | | |
| | 5丁裏 | [中表紙] | | | | |
| | 5丁裏~9丁表 9丁裏 10丁表裏 | 神傳 (カムイ ユカラ) 〔神謡の解説〕 〔白紙〕 | 「神傳 (カムイ ユカラ) / 其語……ノーウオウウ」とある。ノーウオウウがサケヘであろう。アイヌ語+日本語対訳。「魔物になってしまった仔グマが主人公で、それをOkikurmiがえらい神様のところに行かせて、そこから親元に帰れるようにしてやったという話」(p.10)。 テキストの後に解説が日本語で書かれている。 | | | |
| 3 | 全23丁 (表・裏表紙含む) | 1954 (昭和29) .2 | ユカル 傳 | | | 和紙・仮綴じ (表紙のみ袋とじ) |
| | 表紙裏~23丁裏 | 宇野アネシ老母語ル (鍋沢元蔵書) / (ユカル) ニタイバカイエ ニタイバラマ | 英雄叙事詩のテキスト。アイヌ語のみ。内容は、『アイヌの叙事詩』(後出 2-(2)-4) No.3) 所収の「ニタイバカイエ」の別バージョンにあたる。 | | | |
| 4 | 全6丁 (表・裏表紙含む) | 1954 (昭和29) .3 | 火神祈道 澳(オキ)津(ツ)彦(ヒコノ)命(ミコト) 澳(オキ)津(ツ)姫(ヒメノ)命(ミコト) | | | 和紙・仮綴じ |
| | 1丁表~2丁表 | 火神ノ何時テモノ祈道 | 祈詞のテキスト。アイヌ語のみ。「火の神自身に向けて、一族の守護、家内の平和を祈る祈り言葉」(p.15)。 | | | |
| | 2丁裏~3丁表 | (ハルソイオ) / 風引キ又ワ流行病ノ オハラヒ | 祈詞のテキスト。アイヌ語のみ。病気の神に「食料を渡すことを火の神に依頼する祈詞」(p.15)。 | | | |
| | 3丁表 | 病ノ神ニ次ニ 悪神流行病ノ神ニ向フ事業 | 祈詞のテキスト。アイヌ語のみ。病気の神に対して「火の神から食料をもらって去るということを要請する祈詞」(p.16)。 | | | |
| | 3丁裏 | 急病ニ火神ニ奉ゲル祈道 | 祈詞のテキスト。アイヌ語のみ。「赤ん坊が急に具合が悪くなった時に、火の神に対して唱える祈詞」(p.16)。 | | | |
| 4丁表~4丁裏 | イレスカムイ/火ノ神様へ/ (エ`ンタラブ) 火神ニ夢見ノ時 祈道 | 祈詞のテキスト。アイヌ語のみ。「夢を見た時に、それが危険の兆候であつたら守ってくれるように、火の神に祈願する祈詞」(p.16)。 | | | | |
| 5 | 全10丁 (表紙・裏表紙含む) | 1959 (昭和34) .2 | ユカル 典 | | | 洋紙・大和綴じ |

| No. | 年月日 | | 表 題 | 備 考 | 体裁 |
|-----|---------|--|-----|--|----|
| | ページ | 目 次 | | | |
| 5 | 1丁表～8丁裏 | (ユカル) (ボンソヤ) ウンマチ イワン ロクンデウ ウコエタ イエ) 和人に なにわぶしと言 | | 英雄叙事詩のテキスト。アイヌ語のみ。タイトルは「ボイソヤウンマツと六隻の戦艦が引つ張り合う」の意(p.352)。 | |

2- (1) -3) 鍋沢元蔵筆録ノート (北海道大学アイヌ・先住民研究センター所蔵)

<概要>

1954 (昭和29) 年、1958 (昭和33) 年に書かれた、口承文芸テキスト。いずれも未公開。他のノートには掲載されていない物語も含まれている。

| No. | 年月日 | | 表 題 | 備 考 | 体裁 |
|-----|-----------------|---------------------------------------|--------------------------|--|----------------------|
| | ページ | 目 次 | | | |
| 1 | 1954 (昭和29) .3 | | ユカル大典 | | 洋紙・仮綴じ |
| | 1～19 | 語ル名 (エキル) エテシケモシリ | | 気を失っていた主人公が砂浜で意識を取り戻すと、美しい若い女が現れたという場面から始まる英雄叙事詩のテキストがアイヌ語のみで書かれる。 | |
| | 20 | [白紙] | | | |
| | 21～43 | [英雄叙事詩] | | 主人公がおぼと姉に育てられている場面から始まる英雄叙事詩のテキスト。アイヌ語のみで書かれる。汚れ(水濡れの跡)のため、タイトルは判読が困難である。 | |
| 2 | 1958 (昭和33) .12 | | [イモンカオヤンマツ] | | 洋紙・仮綴じ |
| | 1～52 | ユカルの名 (エキル) イモンカオヤンマチ (女神の名前) | | メノコユカラ「イモンカオヤンマツ」のテキストがアイヌ語のみで書かれる。 | |
| | 53～55 | [散文説話 (途中まで)] | | アイヌ語のみ。石狩川の川口近くに住む3人兄弟が海に出たところ、角のあるアメマスから、すぐに戻って湧別川の中流の村長を訪れるようにと助言される物語。鉛筆で書かれている。 | |
| | 56～72 | [白紙] | | | |
| 3 | | (記載なし) | [難産祈詞 (ユブケ・ヌワブ・コイタク) ほか] | | 原稿用紙 (400字詰め)・ホチキス止め |
| | 1～9 | 難産祈詞 (ユブケ・ヌワブ・コイタク) | | 祈り言葉のテキスト。以下、3篇ともに、アイヌ語+日本語対訳。アイヌ語はペン書きであるが、日本語のほうは鉛筆書きのようなもので書かれており、ところどころに赤で訂正がされている跡が見られる。『アイヌの祈詞』(後出 2-(2)-4) No.2) のための浄書原稿か。 | |
| | 10 | [白紙] | | | |
| | 11～15 | 神に返礼祈詞 (カムイ・コヤイアツサ・イタク) | | | |
| | 16～19 | 火の神の部下姫神に返礼祈詞 (カムイ・ドンチ・マツ・コヤイアツサ・イタク) | | | |

2- (1) -4) 鍋沢モトアンレクユーカラノート (金田一春彦旧蔵)

<概要>

北海道立図書館北方資料室にて本資料のコピー (マイクロフィルム) が所蔵・公開されている (請求記号M421)。同図書館による目録『北の資料7』にも記載がある。

| No. | 道立図書館 請求記号 (掲載順序) | 年月日 | 表 題 (道立図書館目録の記載) | | 表 題 (鍋沢氏による記載) | 体裁 |
|-----|-------------------|----------------|---|--|---|----|
| | ページ (鍋沢氏によるノンプル) | | 目次 (鍋沢氏の表記による) | | | |
| 1 | HM421 | 1959 (昭和34) .5 | オキクルミの妹姫の歌 | | 「東京の 金田一大先生へ」 | |
| | 1～14 (1～7) | | オキクルミの妹姫の歌/ホレ ホオレ/オキクルミ カムイ ツレシ マチ コロ シノツツザ | | 神話のテキスト。アイヌ語のみ。インクが裏移りしているため、見開きのうち片ページのみに筆記している。 | |
| | 15～17 (8～9) | | [「オキクルミの妹姫の歌」についての解説] | | 日本語での解説。インクが裏移りしているため、見開きのうち片ページのみに筆記している。 | |

2- (2) 公開された図書 (筆録ノートの活字化を含む)

2- (2) -1) 『アイヌ・モシリ』と『ウタサ・カンピ』

<概要>

どちらも山路廣明・山本多助編、アジア・アフリカ言語研究室・発行のアイヌ語同人誌。1957～1965年、全18号。鍋沢氏は「著者」のひとりとして参加している。謄写印刷で各号32部のみ発行だったが、1998 (平成10) 年に全号を取録した復刻版 (『アイヌ・モシリ 一幻のアイヌ語誌復刊』 釧路アイヌ文化懇話会編) が発行された。

<凡例>

・「掲載号」欄は、『アイヌ・モシリ』については号数を記載し、『ウタサ・カンピ』はこの書名のみを記載した。

| No. | 掲載号 | 発行年月日 | 表 題 (鍋沢氏による記載) | | ページ |
|-----|---------|-------------------|--|--|-------|
| | ジャンル | | 内 容 | | |
| 1 | 6 | 1959 (昭和34) .4.27 | アシリバ オッタ イランカラブ イタキ | | 21 |
| | 挨拶 (書簡) | | タイトルは「新年に挨拶の言葉」の意。「一九五九・一・一」に鍋沢氏によって書かれた新年の挨拶2篇。アイヌ語のみで日本語訳はない。 | | |
| 2 | 9 | 1960 (昭和35) .4.15 | (ウエ ^o ベケル) サンテクリ | | 1～17 |
| | 散文説話 | | 散文説話のテキスト。老爺に化けた熊神に育てられた女の子の話。アイヌ語のみで日本語訳はない。テキストの最後に「一九六〇年二月」との記載あり。筆録年月日か。 | | |
| 3 | 9 | | あとがき | | 18～19 |
| | | | 鍋沢氏による、日本語での「あとがき」。散文説話「サンテクリ」のあらすじなどが書かれている。 | | |
| 4 | 12 | 1963 (昭和38) .1.1 | アオヤモクテ・ユーカラ/アイヌ・モシッタ・ホロケウ・イソイタク | | 1～5 |
| | | | 昔、「アソロベツ」の近くにいた「モクコレ」という名のおばあさんがオオカミに遭遇した話のアイヌ語テキスト。三人称叙述で語られる、最初に「イノンノイタク」などについての簡単な説明が付されるなどの形式から、散文説話ではなく伝説・体験談に近い。アイヌ語のみで日本語訳はない。テキストの最後に「(一九六二・一・一〇)」との記載あり。筆録年月日か。 | | |
| 5 | 12 | 1963 (昭和38) .1.1 | (ウエベケル) イクレスイエ・イソイタク | | 6～10 |
| | 散文説話 | | 散文説話のテキスト。「イクレスイエ」が「エラスラスケ ポンヘカチ」(「カッパ (河童) の形に似た化け物」) を見るところから話が始まる。アイヌ語のみで日本語訳はない。 | | |

| No. | 掲載号 ジャンル | 発行年月日 | 表 題 (鍋沢氏による記載) 内 容 | ページ |
|-----|-------------|-------------------|---|-------|
| 6 | 12 | 1963 (昭和38) .1.1 | (ウエベケル) イクレスイェ・イソイタク | 11~17 |
| | 散文説話 | | 散文説話のテキスト。狩小屋に隠れていた悪い熊を退治する話。アイヌ語のみで日本語訳はない。テキストの最後に「(一九六二・十一)」との記載あり。筆録年月か。 | |
| 7 | 12 | 1963 (昭和38) .1.1 | あとがき | 18~19 |
| | 説明 | | 鍋沢氏による、日本語での「あとがき」。「ウエベケル」、「イクレスイェ」についての説明と、同号所載の散文説話に登場する「魔物」について、簡単に触れている。最後に「(一九六二・十一)」との記載あり。筆録年月か。 | |
| 8 | 17 | 1965 (昭和40) .5.15 | 「姫神メノコ・ユウカラ イモンカオヤンマツ」 | 1~48 |
| | メノコユウカラ | | 本誌は基本的にアイヌ語のみで誌面が構成されているが、「著者の要望」のため、「特に和訳を附した」(p.51)。 | |
| 9 | 17 | 1965 (昭和40) .5.15 | ユウカラあとがき | 49~51 |
| | 説明 | | 鍋沢氏による、日本語での「あとがき」。トリカブトについての説明と、同号所載の物語のあらすじ。 | |
| 10 | 18 | 1965 (昭和40) .6.15 | 「ユウカラ ポイヤウンベ」 | 1~63 |
| | 英雄叙事詩 | | 本誌は基本的にアイヌ語のみで誌面が構成されているが、鍋沢氏による「説明」によるとユウカラの言葉は「和訳に面倒」であるため、「一般の方々にもいくらか判るように」「和訳を書き入れた」(p.63)。 | |
| 11 | 『ウタサ・カンビ』 | 1965 (昭和40) .3.20 | 一九五九年四月十七日 | 4 |
| | 書簡 | | 「アイヌ・モシリ」を送ってもらったことに対する礼状。アイヌ語で書かれており、日本語訳はない。 | |
| 12 | 『ウタサ・カンビ』 | 1965 (昭和40) .3.20 | アシリバ オック イランカラブ イタキ | 8 |
| | 書簡 | | タイトルは「新年に挨拶の言葉」の意。「一九五九年一月一日」に書かれた新年の挨拶2篇。アイヌ語のみで日本語訳はない。「アイヌ・モシリ」6号に所収の挨拶文の再掲。 | |
| 13 | 『ウタサ・カンビ』 | 1965 (昭和40) .3.20 | 一九五九年六月二十七日 | 10~11 |
| | 書簡 | | 「アイヌ・モシリ」7号を送ってもらったことに対するお礼と感想(釧路と沙流のアイヌ語が違うことについて)、天気の話などがアイヌ語で書かれた手紙文。日本語訳はない。 | |
| 14 | 『ウタサ・カンビ』 | 1965 (昭和40) .3.20 | 一九五八年十月三十日 | 12 |
| | 書簡 | | 「アイヌ・モシリ」4号を送ってもらったことに対するお礼と近況などがアイヌ語で書かれた手紙文。日本語訳はない。 | |
| 15 | 『ウタサ・カンビ』 | 1965 (昭和40) .3.20 | 一九五九年八月八日 | 13 |
| | 書簡 | | 「アイヌ・モシリ」8号を送ってもらったことに対するお礼などがアイヌ語で書かれた手紙文。日本語訳はない。 | |

2- (2) -2 『アイヌ祈道全集』

〈概要〉

謄写印刷、出版社・出版年は記載なし。構成や内容は遺稿ノート19「アイヌ祈道全集」と同じで、テキストはすべてアイヌ語カナ書きに日本語対訳がついている。ただし、日本語部分で送りがない言葉遣いが整えられていたり、アイヌ語部分で「ン」を「ソ」と書き間違えていたりなど、細かい表現は異なっている。そのため、ガリ版を切ったのは鍋沢氏自身ではなく、ノート「アイヌ祈道全集」を底本として、第三者が作成・製本したものと推測される。

| ページ | 表 題 | 内 容 |
|-------|--------------------------------|--|
| (1~2) | [白紙] | |
| 3 | まえがき | ノート全体の前書きならびに、1つめのテキストにかかわる火の神についての説明。 |
| 4 | 目次 | |
| 5~7 | (カムイ フチ) (火 の 神) | 火の神への祈詞 |
| 8 | まえがき | 「シイラプシクル」について |
| 9~10 | (シイラプシクル) 神様の名前 | 家の神への祈詞 |
| 11 | (祭壇の神) まえがき | |
| 11~14 | ヌサ コロ カムイ 祭壇王 主の神 (八代龍神大命の尊) | 祭壇の神への祈詞 |
| 15 | まえがき | 「ニラピンナ カムイ」について |
| 15~18 | ニラピンナ カムイカト。名前 (大王樹明の神) | 木や草の「責任神」への祈詞 |
| 18 | まえがき | 「ハシナウ コロカムイ」について |
| 18~21 | ハウシ コロ カムイ 鳥の王 (山の大命姫の神) | 狩猟の神への祈詞。「ハウシ」は「ハシナウ」の脱字。 |
| 21~22 | まえがき | 「ニシカシルマツ」について |
| 22~24 | ニシカシルマツ (名前) 白狐大命神 | |
| 25 | まえがき | 水の神について |
| 26~27 | ワクカウシ カムイ 大川の王神 水明神王の尊 | 水の神への祈詞 |
| 28 | まえがき | 「コタン コロ カムイ」について |
| 28~30 | カムイ チカブ カムイ (梟鳥大命神) | シマフクロウの神への祈詞 |
| 31 | まえがき | 「ボロシリ ウンカムイ」について |
| 31~33 | ボロシリ ウンカムイ (ホロシリ岳大主の神) | |
| 33~34 | まえがき (大熊大命神) | 「メトツ ウシ カムイ」について |
| 34~36 | [大熊大命神] | 熊の神への祈詞 |
| 37 | まえがき | 「ハヨピラ」について |
| 38 | ハイヨピラ (ハヨピラ (山の名) 留守の神) | ハヨピラの神への祈詞 |
| 39 | まえがき | 「イモシ カムイ」について |
| 40~41 | イモシ カムイ (イモシ大神尊) | イモシ人形の神への祈詞 |
| 42 | [まえがき フリについて] | |
| 42~43 | フリ カムイ (去場川東の鷲大神) | フリ神への祈詞 |
| 44~45 | [まえがき シノタイの狐について] | |
| 45~46 | シノタイ クンネ シドソベ (シノダイ丘黒稲荷大命神) | シノタイの狐神への祈詞 |
| 47 | [まえがき 「門別岬の白狐大命神」について] | |
| 47~48 | [門別の白狐神への祈詞] | |
| 48 | まえがき | 「イモシ カムイ」について |
| 48~50 | イモシ カムイ (チシナブ。神の命神) | イモシ神への祈詞 |
| 50 | [「サンマサル」について] | |
| 51~52 | サンマサル コロ カムイ (海岸船付場守神) | 船着場の神への祈詞 |
| 53 | まえがき | 「港の大命神」について |
| 53~54 | トマリ コロ カムイ (港大命神) | 港の神への祈詞 |
| 54 | まえがき | 「モアザウシクル神」について |
| 55~56 | モアザウシクル (神様の名前) (モアザウシクル主明神の尊) | モアザウシクル神への祈詞 |
| 57 | まえがき | 「熊祭り」について |
| 57~61 | 熊祭り祈詞 | 「昭和四年三月十日」に行われた熊送りでの祈詞 |

| ページ | 表 題 | 内 容 |
|-------|-------|---|
| 61～62 | まえがき | 昭和26年10月に熊を送る「祈詞を捧げた」際の顛末。 |
| 62～65 | 熊送る祈詞 | 昭和26年10月に熊を送ったときの祈詞。なお、文末には「昭和二十年」とあるが、原本となる遺稿ノート19においても同様の齟齬が見られる。 |

2- (2) -3 『沙流川筋の祈禱集』

〈概要〉

謄写印刷。出版社・出版年は記載なし。構成や内容、表記は遺稿ノート22「老女に冥土渡」、同23「川に溺れ死の冥土」、同24「火災の災難に高声の祈詞」と同じで、テキストはすべてアイヌ語カナ書きに日本語対訳がついている。ただし、日本語部分で送りや言葉遣いが整えられていたり、アイヌ語部分に書き間違いがあったりなど、細かい表現は異なっている。そのため、ガリ版を切ったのは鍋沢氏自身ではなく、上記のノートを底本として、第三者が作成・製本したものと推測される。また、遺稿ノート22～24は他の遺稿ノートと異なり、原稿用紙に記されているが、これは、この私家本のため（グラ作成者に渡すため）に作成された原稿であるとも考えられる。

| ページ | 表 題 | 内 容 |
|-------|--|----------------|
| (1) | [白紙] | |
| 2～4 | 靈魂送り 或は冥土渡し／ポロスクブ マツ モシリ ホブ バ イヨイタク コテ カマイオルンイタク／老女の方 死 亡の時 神に向う祈詞 | |
| 5 | あとがき | |
| 6～9 | 伯母イヨイタクコテ イタク／老女伯母の死屍に冥土 | |
| 10 | あとがき | |
| 11～15 | 靈魂送る／サラク カマイオック カマイ オルン イヨイタク クコテ イタク／川へ溺水死屍の時 神に向う祈詞 | |
| 15～17 | サクラ カマイ オイタクコテ／川に溺れて死人の冥土渡し | 「サクラ」は「サラク」の意。 |
| 17～18 | あとがき | |
| 18～23 | チセウファイ オツタ カマイ オロイタク／火災の災難時祈詞 | |
| 23～24 | あとがき | |

2- (2) -4 鍋沢氏による筆録ノートを活字化したもの（含・複製） 単行本

| No. | 年月日 | 編著者 | 表 題 概 要・備 考 | 所 収 等 | ページ | 発行 |
|-----|-------------------|-------------------|---|-------|-----|------------|
| 1 | 1965 (昭和40).10.1 | 門別町郷土史研究会 (編) | 『アイヌ叙事詩 クドネシリカ (お化けの憑物、魔物の憑物)』 | | | 門別町郷土史研究会 |
| | | | 門別町文化財調査シリーズ第一集。遺稿ノート8～10「クドネシリカ」を「基にして、これをローマ字綴りに書き改め、更に加筆訂正した対訳を付けた」(凡例より)もの。扇谷昌康による「解題」では、「クドネシリカ」のバリエーションや類話、鍋沢氏の伝承経路についての説明も記されている。 | | | |
| 2 | 1966 (昭和41) .8.1 | 門別町郷土史研究会 (編) | 『アイヌの祈詞』 | | | 門別町郷土史研究会 |
| | | | 門別町文化財調査シリーズ第三集。遺稿ノートの祈詞と、鍋沢氏が「説述した資料を基礎にして、ローマ字綴りに書き改めて対訳を付し、さらに簡単な解説を加えたもの」(凡例)。「通常礼拝神への祈詞 (Use-onkami-kamuy ko-itak)」「尊貴礼拝神への祈詞 (Pase-onkami-kamuy ko-itak)」「祭儀における祈詞」の三部構成になっており、さらに「附篇 神の由来を解く詞 (Oyna-kamuy kamuy motoho pita itak)」という神謡を収載している。また、扇谷昌康による「アイヌの祈詞について」では、onkamiや使用するinawについての解説がされている。 | | | |
| 3 | 1969 (昭和44) .12.1 | 門別町郷土史研究会 (編) | 『アイヌの叙事詩』 | | | 門別町郷土史研究会 |
| | | | 門別町文化財調査シリーズ第四集。遺稿ノートの聖伝・英雄叙事詩のアイヌ語をローマ字綴りに書き改めて、加筆修正した対訳をつけたテキストト集。「KAMUY OYNA」「PON OYNA」「NITAY-PA KAYE」「HURI HAYOKPE」「IPE WEN KINRA」「SAK-SOMO-AYEP AKOYKI」「IYOCHI-UN-MAT」「IMONKA-OYAN-MAT」「WAKKA SAK SUKUP, APE SAK SUKUP」「SETA CHIRESU, WENPE CHIRESU」の各テキストのほか、扇谷昌康による『「鍋沢ノート」を整理して』では、鍋沢氏についてや、鍋沢氏による筆録ノートについての説明がされている。 | | | |
| 4 | 1998 (平成10) .3.31 | 釧路アイヌ文化懇話会 (編) | 『アイヌ・モシリ 一幻のアイヌ語誌復刊』 | | | 釧路アイヌ文化懇話会 |
| | | | 同人誌『アイヌ・モシリ』(1～18号)ならびに、継続後誌『ウタサ・カンピ』(前出 2-(2)-1)の複製。 | | | |

2- (2) -5 鍋沢氏による筆録ノートを活字化したもの（含・複製） 単行本・雑誌の一部

| No. | 年月日 | 編著者 | 表 題 概 要・備 考 | 所 収 等 | ページ | 発行 |
|-----|-------------------|------------------------|---|-------|-----|------------|
| 1 | 1965 (昭和40) | 鍋沢元蔵 (筆録) 扇谷昌康 (和訳) | 『北海道の文化』9 | | | 北海道文化財保護協会 |
| | | | 口承文芸テキストの翻刻・訳注である、「(物語り) ウエベケル/Menoko esimukep (女の下帯)」(pp.68-71) 所収。「下帯が天国の神々よら [?] 人間世界へ始めて伝えられた由来について」語る物語。アイヌ語 (ローマ字表記)、和訳に語注がついている。 | | | |
| 2 | 1967 (昭和42) | 鍋沢元蔵 (伝承) 扇谷昌康 (脚注) | 『北海道の文化』13 | | | 北海道文化財保護協会 |
| | | | 口承文芸テキストの翻刻・訳注である、「カムイ・ユーカラ/雷神の自ら歌った神謡」(pp.39-44) 所収。アイヌ語 (ローマ字表記)、和訳に語注がついている。 | | | |
| 3 | 2001 (平成13) .3 | 海山応援団 (編) | 『松浦武四郎が歩んだ沙流川流域』 | | | 海山応援団 |
| | | | 「資料8」として『アイヌ祈道全集』(前出 2-(2)-2)の影印を掲載している。 | | | |
| 4 | 2007 (平成19) .2.20 | 海山応援団 (編) | 『アイヌ祈道全集 沙流川の祈禱集 含』 | | | 海山応援団 |
| | | | 『アイヌ祈道全集』(前出 2-(2)-2)、『沙流川筋の祈禱集』(前出 2-(2)-3)を複製したもの。 | | | |
| 5 | 2016 (平成28) .3.7 | 中川裕、遠藤志保 (編) | 『国立民族学博物館調査報告 No.134 国立民族学博物館所蔵 鍋沢元蔵ノートの研究』 | | | 国立民族学博物館 |
| | | | 前出 (2-(1)-2)の鍋沢元蔵筆録ノート (国立民族学博物館所蔵)について、翻刻・訳注を行い、その内容を分析した報告書。「はじめに」、「国立民族学博物館所蔵鍋沢元蔵ノートの分析」、「鍋沢元蔵によるアイヌ語のカナ表記体系」、「翻刻と訳注」、「影印」からなる。中川裕「国立民族学博物館所蔵鍋沢元蔵ノートの分析」のなかでは「鍋沢元蔵について」もまとめられている。また、同館の学術情報レポジトリサイト (みんぱくレポジトリ)からもダウンロードできる (2017年現在)。 | | | |

3 鍋沢元蔵氏による口演の録音

3-1 『沙流アイヌの歌謡』(録音テープ・目録)

〈概要及び凡例〉

近藤鏡二郎らによって「昭和34・35・36年の3年間に、10回にわたり延べ26日のあいだ行われた」調査と昭和40年に行われた英雄叙事詩の調査、「合計272曲」が採録された音声資料。原資料は日高町(日高町門別図書館郷土資料館)所蔵であるが、利用については北海道立図書館の複製によることとされている。道立図書館の請求記号はT/SA/O-6-1~T/SA/O-11-11。門別町郷土史研究会による目録(『沙流アイヌの歌謡—録音資料目録とその解説—』1966年)が刊行されており、調査の経緯なども同書の中で触れられているので、ここでは目録とテープとを併せて紹介することとし、「演目」欄の左側に目録の記述を、右側にテープの内容を記載した。

鍋沢氏への調査は、いずれも近藤鏡二郎による単独調査のようである。目録では主に歌謡・物語の口演が記載されているが、録音テープのなかには、ユカクル(英雄叙事詩の語り手)の思い出話や、伝承経路や節回しなどといった、英雄叙事詩の伝承をめぐる話なども含まれている点特徴である。本リストは、目録記載の内容に沿いつつ、該当箇所の録音テープを確認したうえで、内容等の記載を行った。なお、各テキストの語りや解説の一部に鍋沢氏が短い付け足しをしているなど、メインの「出演」ではない項目については割愛した。

| No | 目録掲載ページ | 採録年月日 | 演 目 (目録) | 演 目 (音声資料) | 同席・共演者 |
|----|---------|----------------------------|---|---|--------|
| | テープ番号 | | | 備 考 | |
| 1 | 口絵 | 不明 | 鍋沢元蔵(撮影 近藤鏡二郎) | | |
| | | | 鍋沢元蔵氏の近影 | | |
| 2 | 10 | 1959(昭和34).7.11 | 14 ウポボ(すわり歌)「アヨロコタン」(わるい昔の歌) | ウポボ「アヨロコタン」 | |
| | 1巻A面 | 21'50"~22'40" | 目録にあるように鳩沢ワテケ氏も同席しているが、この歌の口演は別個行っている。 | | |
| 3 | 10 | 1959(昭和34).7.11 | 15 ウポボ(すわり歌)「ホウォー」(鳴きまね歌) | ウポボ「ホウォー」 | |
| | 1巻A面 | 23'39"~24'44" | | | |
| 4 | 10 | 1959(昭和34).7.11 | 16 ウポボ(すわり歌)「ホウォー」(鳴きまね歌)(輪唱) | ウポボ「アヨロコタン」(ウコウク) | 鳩沢ワテケ氏 |
| | 1巻A面 | 24'50"~25'40" | 鳩沢ワテケ氏とのウコウク。目録では「ホウォー」となっているが、音声資料での曲目は「アヨロコタン」。 | | |
| 5 | 10 | 1959(昭和34).7.11 | 19 イユタ・ウポボ(白つき歌)(輪唱) | イユタ・ウポボ | 鳩沢ワテケ氏 |
| | 1巻A面 | 27'11"~27'41" | | | |
| 6 | 10 | 1959(昭和34).7.11 | 20 ユーカラ(英雄詞曲)「ラッココイキ」(ラッコ退治) | 英雄叙事詩「ラッココイキ」 | |
| | 1巻A面~B面 | 27'46"~1:05'11"0'20"~2'36" | 英雄叙事詩「クトゥネシリカ」の「第1段」のこと。 | | |
| 7 | 11 | S34.9.5-6 | 23 ホリッパ(踊り)「ホイヤー・ハウオオ」 | 「ホイヤーオー」 | 鳩沢ワテケ氏 |
| | 1巻B面 | 6'48"~7'50" | 鳩沢ワテケ氏がメインで歌い、鍋沢氏は合いの手を入れている。 | | |
| 8 | 11 | 1959(昭和34).9.5-6 | 24 ホリッパ(踊り)「ホイヤー、ホイヤー・ヘッサオーヘッサ」 | 「ホイヤーオー ホイヤ・ヘッサオーヘッサ」 | 鳩沢ワテケ氏 |
| | 1巻B面 | 7'50"~8'46" | 鳩沢ワテケ氏がメインで歌い、鍋沢氏は合いの手を入れている。 | | |
| 9 | 11 | 1959(昭和34).9.5-6 | 27 カムイ・ユーカラ(神謡)(オキクルミの神) | 神謡(サケへ「チクリボ、ウコパイエパイエ、ウコシクンシクン、ウララパコ、ネンケタンケ、スクシノトヤフン」) | |
| | 2巻A面 | 0'21"~8'26" | アイヌ語での口演。ただし、途中までである。 | | |
| 10 | 12 | 1959(昭和34).10.17-18 | 35 カムイ・ユーカラ(神謡)「シシリムカ・イシカルン」(沙流の女神)~サケへ「ホレホレ」 | 神謡(サケへ「ホレホレ」)「オキクルミの妹」日本語解説 | |
| | 3巻B面 | 14'31"~15'41" | 神謡の主人公とあらすじの説明。 | | |
| 11 | 12 | 1959(昭和34).10.17-18 | 35 カムイ・ユーカラ(神謡)「シシリムカ・イシカルン」(沙流の女神)~サケへ「ホレホレ」 | 神謡(サケへ「ホレホレ」)「オキクルミの妹」 | |
| | 3巻B面 | 15'42"~24'03" | ほぼテキスト全体を語っているが、神謡の結句(「〜と誰々が語った」)の部分に欠いている。韻文で語る部分だけを語り、散文による結句を省いたものか。 | | |
| 12 | 12 | 1959(昭和34).10.17-18 | 35 カムイ・ユーカラ(神謡)「シシリムカ・イシカルン」(沙流の女神)~サケへ「ホレホレ」 | 神謡(サケへ「ホレホレ」)「オキクルミの妹」日本語解説 | 鳩沢ワテケ氏 |
| | 3巻B面 | 24'03"~31'45" | 物語の内容を日本語で説明している。 | | |
| 13 | 12 | 1959(昭和34).10.17-18 | 36 ユーカラ(英雄詞曲)「クドネシリカ」(いたどり丸)~その第1段「ラッコ・コイキ」(ラッコ退治)と第2段の解説 | 英雄叙事詩「クトゥネシリカ」第2段(散文語り) | |
| | 3巻B面 | 31'45"~1:01'18" | 英雄叙事詩「クドネシリカ」のうち、第2段「ラッコ泥棒」の部分アイヌ語の散文で語っている。ただし物語の途中までである。 | | |
| 14 | — | 1959(昭和34).10.17-18 | — | [英雄叙事詩の語り手について ほか] | 平賀サタモ氏 |
| | 6巻A面 | 6'20"~1:02'20" | 目録には項目記載なし。鍋沢氏らの伝承経路のひとりでもある鍋沢ワカルバやチクブシリなど、英雄叙事詩の語り手や語り方の特徴などについて、平賀サタモ氏による日本語での解説に、鍋沢氏も途中から参加している。 | | |
| 15 | — | 1960(昭和35).10.16 | — | [シヌタプカについて ほか] | |
| | 6巻B面 | 0'09"~1:00'45" | 目録には項目記載なし。A面に引き続き、平賀サタモ氏とともに、英雄叙事詩に出てくる地名や、英雄叙事詩の語り手などについての日本語での解説に、鍋沢氏も参加している。 | | |
| 16 | — | 1960(昭和35).10.16 | — | [金田一京助について ほか] | |
| | 7巻A面 | 0'02"~11'16" | 目録には項目記載なし。金田一京助や久保寺逸彦が誰のところで調査をしたのか、また鍋沢氏がテレビ番組に出演した際の話についてなどについて、日本語で説明している。 | | |
| 17 | — | 1960(昭和35).10.16 | — | [昔の子どもの遊び] | |
| | 7巻B面 | 54'55"~59'51" | 目録には項目記載なし。平賀サタモ氏とともに、昔の子どもの遊びにどのようなものがあったか、そのやり方についての日本語での解説に、鍋沢氏も参加している。 | | |
| 18 | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 58 ウポボ(こどもの歌)「オッタテシケ」 | ウポボ「オッタテシケ プルプルケ」 | |
| | 7巻B面 | 1:00'38"~1:01'05" | 採録者からのリクエストで歌ったものだが、旭川のウポボであって、沙流川流域では聞かないと説明している。 | | |
| 19 | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 60 ウェベケレ(昔話)「ヌプリベツ・ウバシクマ」 | ウバシクマ「登別の伝説」 | |
| | 8巻A面 | 2'04"~14'10" | ウバシクマ(伝説)をアイヌ語で語ったあと、調査者・近藤鏡二郎が日本語訳を朗読している。また、導入部には鍋沢氏の自己紹介なども入る。 | | |

| No | 目録掲載ページ | 採録年月日 | 演 目 (目録) | 演 目 (音声資料) | 同席・共演者 |
|----|---------|----------------------------------|---|---------------------------------|---------------|
| | テープ番号 | | | 備 考 | |
| 20 | — | 1960(昭和35).10.16 | — | [ウバシクマについて ほか] | |
| | 8巻A面 | 0'06" ~ 2'04" 14'10" ~ 30'25" | 目録には項目記載なし。平賀サタモ氏とともに、ウバシクマとウエベケレの違いなど、ジャンルについての説明や、昔のユカラクル（英雄叙事詩の語り手）についての日本語での解説に、鍋沢氏も参加している。 | | |
| 21 | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 61 カムイ・ユーカラ (神謡)「シシリムカ」(沙流川を恋うる神の曲) (サケヘ：ホレホーレ) | 神謡 (サケヘ「ホレ ホーレ」)「オキクルミの妹」 | |
| | 8巻A面 | 31'34" ~ 40'42" | アイヌ語による語り。ただし、途中までである。 | | |
| 22 | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 61 カムイ・ユーカラ (神謡)「シシリムカ」(沙流川を恋うる神の曲) (サケヘ：ホレホーレ) | 神謡 (サケヘ「ホレ ホーレ」)「オキクルミの妹」 日本語解説 | |
| | 8巻A面 | 40'45" ~ 49'15" | 神謡の内容について、日本語での解説。 | | |
| 23 | 14 | 1960(昭和35).10.16 | — | [神謡について ほか] | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻A面 | 49'15" ~ 51'24" | 目録には項目記載なし。平賀サタモ氏とともに、沙流地方の神謡や散文説話について説明している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 62 イヨルイカ (子守歌)「イテキチシノ・モコロモコロ」 | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻A面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「イヨルイカ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 63 イヨルイカ (子守歌)「ホーチツバ・ホー」 | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻A面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「イヨルイカ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 64 イヨハイオチシ (悲歌) (男の歌) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「イヨハイオチシ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 65 イヨハイオチシ (悲歌) (女の歌)「キモヤケル」 | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「イヨハイオチシ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 66 ヤエカテカラ (恋歌)「ウタリ・コシカロン・シノツチャ」(ふるさとを思う歌) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「ヤエカテカラ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 67 ヤイサマ (馬追い歌)「クチワコチャンチャン」(サラエおじさんの歌つた歌) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「ヤイサマ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 68 イウタウボボ (白つき歌)「ホッホー、ヘッサー、ホッホー、ヘスヘス」(四人でつく歌) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「イウタウボボ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 69 イウタウボボ (白つき歌) (三人でつく歌) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「イウタウボボ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 70 イウタウボボ (白つき歌) (二人でつく歌) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「イウタウボボ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 71 イウタウボボ「ソーソー」(輪唱のしかた) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「イウタウボボ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 72 シノ・ウタサ・イタク (二人のかけあい歌) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「シノウタサイタク」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14 | 1960(昭和35).10.16 | 73 シノ・ウタサ・イタク (二人のかけあい歌)「トイタサオ・ノチウ」(なまけ者の星) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「シノウタサイタク」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 14-15 | 1960(昭和35).10.16 | 74 カムイ・ユーカラ (神謡)「アワッカタレ・ヘカチ」(月のなまけ坊や) (サケヘ：サンタソーソー) | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏 |
| | 8巻B面 | — | 目録では鍋沢氏の口演となっているが、「カムイユーカラ」の口演は平賀サタモ氏による。鍋沢氏は録音に同席し、説明部分では話に参加している。 | | |
| — | 19 | 1961(昭和36).4.24-27 | 120 ウボボ (祝いの歌)「ヒヤオルン」～ユーカラ・シノツチャの一つ。鍋沢元蔵も歌っている。 | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏・鳩沢ワテケ氏 |
| | 12巻A面 | — | 目録では鍋沢氏も参加しているようにも読めるが、音声資料では平賀サタモ氏と鳩沢ワテケ氏の2人によるウコウクである。 | | |
| — | 19 | 1961(昭和36).4.24-27 | 122 ウボボ (祝いの歌)「アヨロコタン」(輪唱)～ユーカラ・シノツチャの一つ。鍋沢元蔵も歌っている。 | (鍋沢氏による口演なし) | 平賀サタモ氏・鳩沢ワテケ氏 |
| | 12巻A面 | — | 目録では鍋沢氏も参加しているようにも読めるが、音声資料では平賀サタモ氏と鳩沢ワテケ氏の2人によるウコウクである。 | | |
| 24 | 39 | 1961(昭和36).5.20-21 | 202 オイナ (神曲)「ブンカラ・カムイ・シント」(アドーツルの神籠) | オイナ「ブンカラシント」 | |
| | 19巻A面 | 0'06" ~ 38'18" | 拍子を取りながら語っている。 | | |

| No | 目録掲載ページ | 採録年月日 | 演 目 (目録) | 演 目 (音声資料) | 同席・共演者 |
|----|---------|--------------------|-------------------------------------|-------------------|--------|
| | テープ番号 | | | 備 考 | |
| 25 | 39 | 1961(昭和36).5.20-21 | 203 ウポボ (歌)「ボンレブンカムイ」(若い海の神) | ウポボ「ボンレブンカムイ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 26 | 39～40 | 1961(昭和36).5.20-21 | 204 ウポボ「ボンランコ・カムイ」(若いカツラの神) | ウポボ「ボンランコカムイ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 27 | 40～41 | 1961(昭和36).5.20-21 | 205 ウポボ「アヨロ・ウポボ」(アヨロの歌) | ウポボ「アヨロ・ウポボ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 28 | 41 | 1961(昭和36).5.20-21 | 206 ウポボ「コノユン・ノユン」(曲げ曲げ遊ぶ) | ウポボ「コノユン・ノユン」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 29 | 41～42 | 1961(昭和36).5.20-21 | 207 ウポボ「クドシントコ」(宝の入物) | ウポボ「カネポンクトシントコ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 30 | 42 | 1961(昭和36).5.20-21 | 208 ウポボ「ニシスルケ」(嵐の前) | ウポボ「ニシスルケ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 31 | 42 | 1961(昭和36).5.20-21 | 209 ウポボ「ワシベドン・チャシ」(ワシベツの城) | ウポボ「ワシベトウン・チャシ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 32 | 42～43 | 1961(昭和36).5.20-21 | 210 ウポボ「タマクチ」(玉のひも) | ウポボ「タマクチ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 33 | 43 | 1961(昭和36).5.20-21 | 211 ウポボ「ノカン・カイボ」(小さい波) | ウポボ「ノカン・カイボ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 34 | 43 | 1961(昭和36).5.20-21 | 212 ウポボ「カヤマウ」(帆風) | ウポボ「カヤマウ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 35 | 43 | 1961(昭和36).5.20-21 | 213 ウポボ「アディソーカタ」(海の上で) | ウポボ「アトウイソ・カ・タ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 36 | 43～44 | 1961(昭和36).5.20-21 | 214 メノコ・ユウカラ (婦人詞曲)「イヨチウン・マツ」(余市の女) | メノコユカラ「イヨチウンマツ」 | |
| | 19巻A面 | | | | |
| 37 | 44 | 1961(昭和36).5.21 | 214 付：後半に「ブンカラシタ」の解説 | オイナ「ブンカラシタ」日本語解説 | |
| | 19巻B面 | | | | |
| 38 | — | 1961(昭和36).5.21 | — | [ウポボとオイナ、ユカラについて] | |
| | 19巻B面 | | | | |

3-2) アイヌ伝統音楽

〈概要〉

日本放送協会(編)、1965『アイヌ伝統音楽』(日本放送出版協会)。採録内容・調査結果をまとめた図書と、付属のソノシートからなる。ここに掲載・収録のアイヌ音楽・口承文学のなかに、鍋沢元蔵氏によるものが含まれている。図書とソノシートを一括して掲載する。

| No. | 掲載ページ | 訪問・採録年月日 | 項目名 | 内 容 (書籍) |
|-----|---------|-----------------|-----------------------------|--|
| | 付属ソノシート | | 音声資料演目 (書籍記載) | 内 容 (音声資料) |
| 1 | 436～439 | 1961(昭和36).4.25 | 譜例402 hore hore yupinekur … | 神謡のアイヌ語口演。伝承者の名前は記載されていないが、地域(「沙流川流域・門別富川」)ならびに内容から鍋沢元蔵氏によるものと推定できる。 |
| | 7面 56 | | | |

3-3) アイヌの音楽

〈概要〉

放送業務局資料部音楽資料課(編)、1967『アイヌの音楽』(日本放送協会)。日本放送協会(編)、1965『アイヌ伝統音楽』(日本放送出版協会)の「第2部レコード篇として、およそ2,000曲の収録曲の中から、240曲を選定、30センチLP10枚1組に編集した」もの(p.1)。ここに掲載・収録のアイヌ音楽・口承文学のなかに、鍋沢元蔵氏によるものが含まれている。解説とレコードを一括して掲載する。

| No. | 解説掲載ページ | 訪問・採録年月日 | 音声資料演目 (解説記載) | 内 容 (書籍) |
|-----|---------------|-----------------|---------------------------------|--|
| | 付属レコード | | 備 考 | 内 容 (音声資料) |
| 1 | 17, 47-48 | 1961(昭和36).4.25 | 詞曲4 (menoko yukar) iyochi kotan | アイヌ語による英雄叙事詩の口演。韻文語り、レパ(拍子)もある。途中までの内容となっている。解説は更料源蔵によるもので、日本語でのあらすじが書かれている。 |
| | 9 (VDL192) A面 | | | |

3-4) 増田又喜採録資料(『アイヌのふるさとに歌を求めて』)

〈概要〉

増田又喜、2010『アイヌのふるさとに歌を求めて』(文芸社)。『アイヌ歌謡を尋ねて』(近代文藝社、1996年)(後出 5-(2) No.22)を改題改訂し、CDを付けている。著者が各地の人々を訪ねた際の見聞等をまとめた本。本文中で鍋沢元蔵氏に触れた箇所があり、付属CDにその際の録音が取録されている。ここでは図書とCDを一括して掲載する。なお採録地はいずれも、「門別町富川」。

| No. | 掲載ページ | 訪問・採録年月日 | 項目名 | 内 容 (書籍) |
|-----|------------|-----------------|---------------|--|
| | 付属CD収録トラック | | 音声資料演目 (書籍記載) | 内 容 (音声資料) |
| 1 | 126～130 | 1957(昭和32).1.12 | 鍋沢元蔵さんとの出会い | 鍋沢氏との出会いについて、付属CDに所収の「オロイタク」の背景等の説明、鍋沢氏が彫刻も多く残していること、鍋沢氏の筆録による公開資料の紹介。 |
| | 7 | | | |
| 2 | 202～203 | 1959(昭和34).8.30 | 鍋沢元蔵さんの挨拶について | 付属CDに所収の「挨拶」を鍋沢氏が語った様子や、「挨拶」はメロディーに乗せて語られることが説明される。また付属CDに所収の「挨拶」の日本語訳も掲載。 |
| | 15 | | | |
| 3 | 217～218 | 1960(昭和40).1.8 | 鍋沢元蔵さんを訪問 | 訪問時に聞いた話の内容について。CDには収録されていない。 |

3-5) 更科源蔵資料 (北海道博物館所蔵)

<概要>

いずれもオープンリールテープ (15min)。北海道開拓記念館 (編・発行)、1990『北海道開拓記念館一括資料目録 第22集 更科源蔵氏資料目録』に資料の概要の記載がある。

| No. | 収蔵番号 | 資料名 | 表書き | | 探録地 | 探録年月日 |
|-----|------------------------------------|--|---|--|-----------|-----------------|
| | 時間 | | 内 容 | | | |
| 1 | 89620 | 録音テープ | 富川 鍋沢モトアンレク ① ②menoko yukara, 余市姫物語和訳 | | 門別町 富川 | 1961(昭和36).4.26 |
| | 1面01'04"~23'09" | 「鍋沢元蔵さんのメノコユカラの後半の説明」。メノコユカラ「イヨチウンマツ」のうち、イヨチウンマツがボイヤウンベの様子(戦った後)を見に行くところからの筋を日本語で説明している(途中でテープが切れている)。冒頭で「昨日の続き」とあるのは、『コタン探訪帳』(後出 5-(1)-1) No.4)に記載のある4月25日分の調査を指していることであろう。 | | | | |
| | 2面24'19"~28'37" | 「鍋沢元蔵さんのメノコユカラの後半の説明」の続き。メノコユカラ「イヨチウンマツ」の筋を日本語で説明している。 | | | | |
| 2 | 89621 | 録音テープ | 富川 鍋沢モトアンレク「エクレスイの話」 uebekere | | 門別町 富川 | 1961(昭和36).3.31 |
| | 1面00'49"~09'59" | 散文説話をアイヌ語で語る。「魔熊(ヌプリクセンクル)」がイクレスイエを殺そうと、狩小屋に3年も潜んでいたが、見破られて殺されたのち、イクレスイエの守り神になった話。 | | | | |
| | 1面10'00"~12'16" 2面12'25"~21'57" | 直前の散文説話の日本語訳。テープが途中で切れている。 散文説話の日本語訳の続き。 | | | | |
| 3 | 89666 | 録音テープ | ②富川・鍋沢モトアンレク「ペナンベ、パナンベ」 | | 門別町 富川 | 1961(昭和36).3.30 |
| | 2面11'13"~17'59" | パナンベペナンベ譚をアイヌ語で語っている。同日の日付が記してある『コタン探訪帳』(後出 5-(1)-1) No.3)に記載のパナンベペナンベ譚の原録音であると考えられる。 | | | | |

4 鍋沢元蔵氏が製作した民具

<概要>

博物館等において公刊された目録などで、鍋沢元蔵氏作とされている、ないしその可能性が高い民具を掲載した。

<凡例>

・「登録番号」は所蔵館における資料番号である。「名称」は所蔵館の目録に記載されているものを転記した。

<参考>

北海道博物館所蔵の4点は、更科源蔵が収集した資料で、入手先として鍋沢元蔵氏の名が記載されているもの。更科源蔵『コタン探訪帳』12(本稿5-(1)-1)には1959(昭和34)年9月4日に鍋沢元蔵氏から聞き取り調査をおこなった記録があり、日付が資料に記載されたものと一致することから、当該資料を調査の際に鍋沢元蔵氏が製作し更科に譲渡した可能性が高いと判断してここに含めた。

| No. | 所蔵機関 | 登録番号 | 名称 | 備考 |
|-----|--------------|----------------|-----------|---|
| 1 | 北海道大学植物園・博物館 | 17672 | 捧酒箸 | キケウシパスイ。平取(ママ)平賀 鍋沢元蔵 |
| 2 | 北海道博物館 | 89548 | 削りかけ付き捧酒篋 | キケウシパスイ。裏面に「平賀サンロカ カムイノミの印三四九四 門別町富川 鍋沢元蔵氏より」等の記載。 |
| 3 | 北海道博物館 | 89549 | 削りかけ付き捧酒篋 | キケウシパスイ。裏面に「鍋澤家ノ神拝(カムイノミ)ノ印三四九四 富川町 鍋沢元蔵氏より」等の記載。 |
| 4 | 北海道博物館 | 89550 | 削りかけ付き捧酒篋 | キケウシパスイ。裏面に「平賀バレアシノのカムイノミの印三四九四 門別町富川 鍋沢元蔵氏より」等の記載。 |
| 5 | 北海道博物館 | 89551 | 削りかけ付き捧酒篋 | キケウシパスイ。裏面に「鳩澤サカンレキのカムイノミの印三四九四 門別町富川 鍋沢元蔵氏より」等の記載。 |
| 6 | 二風谷アイヌ文化博物館 | NAH-M-19910605 | クワ 杖 | 「鍋澤作」の彫刻が施される。萱野茂1978『アイヌの民具』p.75に写真と実測図が掲載され、「これは平取町紫雲古津に住んでおられた鍋澤元蔵さんが作ったもので」との解説がある。 |

5 鍋沢元蔵氏から採録した記録

(1) 筆録ノート

5-(1)-1) 更科源蔵『コタン探訪帳』(弟子屈町立図書館所蔵)

<概要>

更科源蔵が行った「アイヌ文化に関する昭和20~40年代のまとまった調査」(齋藤 2002:80)の記録。鍋沢元蔵氏もインフォーマントのひとりとなっている。内容の一部は更科源蔵の著作のなかで用いられている。また、内容についての詳細な目録として、齋藤玲子、2002「更科源蔵氏『コタン探訪帳』の概要について—弟子屈町立図書館所蔵資料の紹介—」『北海道立北方民族博物館研究紀要 第11号』がある。なお、同論稿ではプライバシーに配慮し「インフォーマント」はすべてイニシャルで記されているが、鍋沢元蔵氏については、鍋沢氏自身が著作を公刊する等、既に氏名は広く公にされていることから、ここでは鍋沢氏からの採録部分を掲載して差し支えないと判断した。

| No. | ノート番号 | ページ数 | タイトル | | 探録地 | 探録年月日 |
|-----|---------|-------------|--|-----------|-----|----------------|
| | ページ | | 項 目 名 | 内 容 ・ 備 考 | | |
| 1 | No12 | 33~37 | 富川(元沙流太) 紫雲古津生 ainu Rek Motoanrek/鍋沢元蔵 明治19年生 | | 富川 | 1959(昭和34).9.4 |
| | 33 | 地名(幾千世/地獄穴) | | | | |
| | 33 | オキクルミ | | | | |
| | 33 | 鹿の角 | | | | |
| | 33 | 地名(沙流川/門別川) | | | | |
| | 34 | カ(厚別川/十勝川) | | | | |
| | 34 | カムイミントラ | | | | |
| | 34~35 | フリー伝説 | | | | |
| | 35 | 柏原 | | | | |
| | 35 | サルンクル | | | | |
| | 35 | イモセカムイ | | | | |
| | 35 | お産のイナウ | | | | |
| | 36 | ソコンニ | | | | |
| | 36 | 病気のとき | | | | |
| | 36 | オイナとユカラ | | | | |
| | 36 | 刀 | | | | |
| | 36 | パシュイ | | | | |
| 36 | ポリッパ | | | | | |
| 37 | syuto打 | | | | | |
| 37 | tukunay | | | | | |

| No. | ノート番号 ページ | ページ数 項目名 | タイトル 内 容 | 採録地 備 考 | 採録年月日 |
|-------|--|---|--|------------|-----------------|
| 2 | No12 | 38~39 | 富川 鍋沢元蔵 | 富川 | 1959(昭和34).9.5 |
| | 38 | 沙流太コタン | | | |
| | 38 | 部落と姓 | | | |
| | 38 | Kotan Kar kamuy/三石のイマニチ | 『アイヌ伝説集』所収「三石の焼串岩」(p.118)の原資料。日本語訳のみ。 | | |
| | 38 | 紫雲古津の伝説 | | | |
| | 38 | 津波伝説 | | | |
| 3 | No12 | 126~137 | 佐瑠太 鍋沢モトアンレク 76才 | — | 1961(昭和36).3.30 |
| | 126 | [家の中の平面図と、各部のアイヌ語名称] | | | |
| | 126~127 | ウエベケレに出る人々 | | | |
| | 127 | ペナンベ ペナンベのウエベケレ | | | |
| | 127~131 | ペナンベ | ペナンベペナンベ譚のテキスト。『アイヌ民話集』、『コタン生物記III』「クモ」の項に掲載されているテキストの原資料。日本語訳のみ。 | | |
| | 131~134 | エクレスイニシパ (uepekere) | 『コタン生物記II』「悪いクマ」の項に掲載されているテキストの原資料。同年3月31日録音の音声資料(前出 3-5) No.2)に所収の同題の散文説話のうち、鍋沢氏による日本語解説とも同じ内容である。日本語訳のみ。 | | |
| | 134 | 鳥と北寄貝 | | | |
| | 134~135 | 蓬 | アエオイナカムイの伝説。日本語のみ。 | | |
| | 136 | 子供の教育と遊び (Sirikappu sinot/uko tereke sinot/誰がよいか?/tomunci Kamuy sinot/Unin topute sinot) | | | |
| 137 | 蓬 | | | | |
| 137 | 葬式 | | | | |
| 4 | No12 | 182~191 | NHKにて/富川 鍋沢モトアンレク 76才 | 富川 | 1961(昭和36).4.25 |
| | 182~189 | イヨチウンマツ(余市人の妹)のmenoko yukara(鞆の上 赤く燃え 白く燃える形) | メノコユカラのテキスト。日本語訳のみ。「NHKにて」の調査であることや、内容の一致から、『アイヌの音楽』(前出 3-3)に所載の音源を録音した際の内容であると考えられる。 | | |
| | 189 | Kamuy yukar | オキクルミの妹が沙流川を恋しく思うという内容の神話のテキスト。日本語訳のみ。「NHKにて」の調査であることや、内容の一致から、『アイヌ伝統音楽』(前出 3-2)に所載の音源を録音した際の内容であると考えられる。 | | |
| | 190~191 | オキクルミの妹の病気の時のKamuy Oyna/he-yay | オキクルミ(アエオイナカムイ)の妹が病気になったので、その「もと」をたどるといふ内容の神話のテキスト。「he-yay」はそのサケヘ。日本語のみ。 | | |
| 5 | No19 | 6~12 | 富川 鍋沢元蔵老 | 富川 | 1965(昭和40).9.8 |
| | 6 | 8月6日付/イナウとはどういふ意味かとの問への返事 | 鍋沢氏から送られたものと思われる葉書が貼付されている。 | | |
| | 6 | 子供の呼び名 | | | |
| | 7 | [鍋沢元蔵氏からの葉書を添付] | 内容は、9月1日に「おはがき」をもらったことへの礼、「病気の時」と「突然の事故」のときにイナウの材料にする樹種について、11日に更科の訪問を待っている旨。 | | |
| | 7 | 病魔払ひ(イモセカムイ) | | | |
| | 7~8 | 病魔掃るとき | | | |
| | 8 | 気狂ひなほしinau(wen inauとかwen nusaといふ) | | | |
| | 8 | 普通のinauの木 | | | |
| | 8 | 悪いときのinau(wen inau) | | | |
| | 8 | Kamuyにする木 | | | |
| | 8 | 蛇の祟るとき | | | |
| | 9 | 家の神(chise kor inau) | | | |
| | 9 | 葡萄皮(sito kap) | | | |
| | 9 | コクワの蔓 | | | |
| | 10 | 木幣小刀(ipirikep) | | | |
| | 10 | 祈りのときの川の呼名 | | | |
| | 10 | Pase onkami | | | |
| 10 | 人間の善悪 | | | | |
| 11 | 個人の守神 | | | | |
| 11 | 難産のとき | | | | |
| 11 | 幽霊のamappo | | | | |
| 11 | 津波 | | | | |
| 11 | 痘瘡 | | | | |
| 6 | No19 | 19~26 | チクベニカムイをつくるときの祈り 鍋沢元蔵 | — | — |
| | 19~20 | (1) 火の神への祈り | アイヌ語+日本語対訳。ただし一部、日本語訳が付いていない行もある。内容・表現は遺稿ノート21所収の祈詞テキストと同じであることや、アイヌ語の表記は鍋沢氏のものに近い(鍋沢氏に特徴的な「エ」などが使われている)ことから、同ノートの筆写である可能性が高い。ただし、原ノートでの「バ」が「パ」になっているなど、一部に表記の変更が見られることや、筆跡は更科のものと思われることから、同ノートを更科が書写したと考えられる。以下、この項のテキスト6篇について、同様にアイヌ語+日本語対訳。ただし一部、日本語訳が付いていない行もある。 | | |
| | 20~21 | (2) 祭壇の神への祈り | アイヌ語+日本語対訳。ただし一部、日本語訳が付いていない行もある。 | | |
| | 21~22 | (3) 槐樹神招魂 | アイヌ語+日本語対訳。ただし一部、日本語訳が付いていない行もある。 | | |
| | 22~23 | (4) 火の神への報告(mosir kor huchi anure itak) | アイヌ語+日本語対訳。ただし一部、日本語訳が付いていない行もある。 | | |
| | 23~24 | (5) 火の神に神の(mosiri kor huchi eun kamuy riwakute anure) | アイヌ語+日本語対訳。ただし一部、日本語訳が付いていない行もある。 | | |
| 24~26 | (6) チクベニカムイ(chikupeni kamuy ariwak te) | アイヌ語+日本語対訳。ただし一部、日本語訳が付いていない行もある。 | | | |

| No. | ノート番号 | ページ数 | タイトル | | 採録地 | 採録年月日 |
|-----|-------|--|---|--|-----|------------------|
| | ページ | 項目名 | 内 容 | | 備 考 | |
| 7 | No19 | 27~33 | 富川 鍋沢元蔵 | | 富川 | 1965(昭和40).11.13 |
| | 27 | 貞操帯 | 鍋沢氏による自筆ノート(前出2-(1)-1) No.31)に「40年11月13日 更科源蔵先生見ました」というメモがあることから、この自筆ノートを見ての調査であったことが推測される。ただし、項目は一部不一致で、更科による記述のほうが項目数が多いことから、単にノートを書き写したのではなく聞き取りによる調査の結果も含まれていると考えられる。 | | | |
| | 27 | 死んだ女の行くさき | | | | |
| | 27 | 幽霊 | | | | |
| | 28 | 墓標 | | | | |
| | 28 | 火葬(火葬にした骨の葬り方(近年になつてからのものと思ふ) / 神をたのむ) | | | | |
| | 28~29 | コクワの神(tunasi nisok) | | | | |
| | 29 | pasuyとinau | | | | |
| | 29~30 | 気狂(気狂ひは狐の悪いのかパウチが憑くから) | | | | |
| | 30 | 肺病 | | | | |
| | 30 | 呪はれたとき | | | | |
| | 31 | 舟の模様 | | | | |
| | 31 | 祭壇 | | | | |
| | 31 | 子さづけ呪術(aatama) | | | | |
| | 31~32 | 先祖祭 | | | | |
| | 32 | 葬 | | | | |
| | 32 | 墓標 | | | | |
| | 32 | 守神 | | | | |
| | 32 | 着物 | | | | |
| | 33 | 鉢巻 | | | | |
| 33 | 辨当入 | | | | | |
| 33 | 頼魔法 | | | | | |
| 33 | 枕 | | | | | |

5- (1) -2) 久保寺逸彦文庫(文書資料)(北海道博物館アイヌ民族文化研究センター所蔵)

〈概要〉

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター(旧北海道立アイヌ民族文化研究センター)が寄贈を受けた、久保寺逸彦の旧蔵資料。目録(『北海道立アイヌ民族文化研究センター 資料目録5 久保寺逸彦文庫 文書・写真資料目録』2001年3月)にて概要を確認できる。一部は北海道博物館にて閲覧することができ、その他についても、今後、順次公開を進める予定である。

| No. | 旧道立アイヌ民族文化研究センター資料番号(目録所収) | 資料名 | タイトル | ページ | 年月日 |
|-----|----------------------------|---|--|---------|--------------------|
| | 北海道博物館資料番号 | | | | |
| 1 | KD5176-1 | [タイプ写し] | 鍋沢元蔵氏祈禱集 | 1~110 | 1966(昭和41).2.16 |
| | 177766 | 『アイヌの祈詞』と同内容のテキスト(一部のテキストは欠)のタイプ原稿。ローマ字表記によるアイヌ語のみ。刊行本とはローマ字表記などに違いが見られること、1ページ目右肩に記された年月日が刊行本の発行年月日より早いことから、鍋沢氏による筆録ノート(あるいは刊行本用に浄書された原稿)におけるアイヌ語カナ原稿を久保寺がローマナイズしてタイプしたものである可能性が高い。 | | | |
| 2 | KD5176-3 | [封筒] | | | |
| | 177768 | 「鍋沢元蔵翁神禱詞集」と書かれた封筒。(KD5176-1は、この封筒に入っていたものか?) | | | |
| 3 | KD5133 | [アイヌ総合調査・平取町] | 「元蔵系/motoanrek」ほか | 55~65 | 1954(昭和29).8.20~21 |
| | 177405 | 久保寺逸彦が行った調査の記録。神への祈りに対する調査の中で、鍋沢元蔵氏の系統についての記載もある。「元蔵系/motoanrek」のケケウシパスイの図(0055)、「元蔵」系統ほか全部で4つの系統のパセオンカミにおける神の列挙(0056)、祈詞(アイヌ語ローマ字表記)やその説明(0057~65)。また、このうちの一部は、久保寺によるタイプ製本(KD2399-0055~0065)もある。 | | | |
| 4 | KD2399 | アイヌ叙事詩 神禱詞集IV | 「アイヌ叙事詩 Kamuinomiitak(神禱詞IV)」「二谷国松他誦呪/久保寺逸彦採集対訳」 | 664~669 | 1958(昭和33).8.20 |
| | 177205 | 久保寺逸彦が行った調査の記録(KD5133)を浄書したタイプ打ち原稿を製本したもの。4つの系統のパセオンカミにおける神の列挙、アイヌ語ローマ字表記のみによる、祈詞テキストとなっている。 | | | |
| 5 | KD2400 | アイヌ叙事詩 神禱詞集V | 「アイヌ叙事詩 Kamuinomiitak(神禱詞V)」「二谷国松他誦呪/久保寺逸彦採集対訳」 | 966~969 | — |
| | 177206 | 久保寺逸彦によるタイプ打ち原稿(KD2399)の項目をまとめてタイプし直したもの。 | | | |
| 6 | KD5314 | 「ここに鐘は鳴る」 | ここに鐘は鳴る 第八回(決定稿) | | |
| | 178258 | 金田一京助が出演したテレビ番組のシナリオ。昭和34年5月4日(月)午後7時30分~8時放送。鍋沢元蔵氏も出演しており、「鍋沢モトアンレク翁ユーカラをしている」シーン、鍋沢氏と金田一の「対面」シーン、鍋沢氏が金田一の喜寿の祝辞をアイヌ語で行うシーン、などがあったことがわかる。 | | | |

5- (1) -3) 知里真志保ノート(北海道立文学館所蔵)

〈概要〉

北海道立文学館に収蔵されている知里真志保の野帳やノート。北海道立図書館による目録(北海道立図書館北方資料室(編)、1974『北の資料』9号(北海道立図書館))や、細目録(北原次郎(他編)、2012『北海道文学館所蔵「知里真志保遺稿ノート」の細目次』『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第18号)にて概要を確認できる。

| No. | 資料番号 | 資料名 | タイトル | 年月日 |
|-----|-------|--|--------|------------------|
| | ページ | | | |
| 1 | CM063 | 近文A | イケマ | 1952(昭和27).11.16 |
| | 49 | 「イケマを使う時 上の様に inonno itakする。/(新平賀 鍋沢元蔵翁)」として、アイヌ語ローマ字表記によるテキストが記されている。 | | |
| 2 | CM073 | [虹の祈詞] | [虹の祈詞] | — |
| | 1~2 | 「虹は魔物で 近よれば臭い」など、虹についての説明が日本語で書かれ、さらに虹に追われた時の呪文がアイヌ語ローマ字表記で記されている。知里真志保による論文「アイヌに伝承される歌舞詞曲に関する調査研究」(後出5-(2)No.5)中の「虹に追いかけられた時の呪文」の原資料。 | | |

| No. | 資料番号 ページ | 資料名 | タイトル 内 容 | 年月日 |
|-----|-------------|--|---|-----|
| 3 | CM144 | 〔カムイユカラ〕 | kamui-yukar (oinaとも) / sakehe: 'nou' / 新平賀 鍋沢元蔵 | — |
| | 1~10 | 1ページめは表紙(タイトル)。また、「cf. アイヌの神典 pp143-4」とある。2ページめ以降に、アイヌ語ローマ字表記による神謡のテキストが記されている。内容は、「Pon-okikurmi」が草人形の力で病気の神を追い払う話で、民博所蔵ノート(前出2-(1)-2) No.1参照)に掲載の「神謡」と同じである。しかし、表現は異なっているため、筆録ノートの筆写等ではなく、別バージョンのテキストであろう。「呪師とカワウソ」(後出5-(2) No.3) 所収の神謡の原資料だと考えられるが、サケヘは異なっている。 | | |
| 4 | CM154 | 〔カムイユカラ〕 | Kamui yukar / atui pa wa ho — Sakehe | — |
| | 1~2 | アイヌ語ローマ字表記による神謡のテキストが記されている。各行の下に日本語訳が付されている。自叙神の妹が病気になったため、その「根元」となっている神の由来を解くという内容。「痲瘡神に関する資料」(後出5-(2) No.13) 所収の神謡の原資料。 | | |

5- (2) 公刊された図書(筆録ノートの活字化を含む)

| No. | 年月日 | 編著者 | 表 題 備 考 | 所 収 等 | 発行 |
|-----|--|----------|--------------------------------------|--|--|
| 1 | 1937(昭和12).4(初出) | 知里真志保 | 「いぢめ文句」 | 『アイヌ民俗研究資料(第二)』 『知里真志保著作集』2 | 227~229 平凡社 |
| | 「謎をかけて相手が答へられない場合」に唱える「相手の嫌がるやうな文句」(p.227)の例として、鍋沢氏による伝承をあげている。 | | | | |
| 2 | 1940(昭和15).5(初出) | 名取武光 | 削箸・祖印・祖系・祖元及び主神 折より見たる沙流川筋のアイヌ | 『アイヌと考古学(二) 名取 武光著作集II』 | 84 北海道出版企画センター |
| | 「祖印」などと「削箸の型式とを結び付けた報告」のなかで、「ピラカ」の「ナベザワモトゾウの祖印」についての説明と「削箸」(キケウシパスイ)の図がある。 | | | | |
| 3 | 1952(昭和27).3(初出) | 知里真志保 | 〔オйнаカムイが自ら歌つたという 神謡〕 | 『呪師とカワウソ』『知里真志 保著作集』2 | 214~216 平凡社 |
| | 「小オキクルミ」が「草人形の神」の力で病気の神を追い払う話。サケヘは「アプトサスンサスン」。 | | | | |
| 4 | 1960(昭和35).2.25 | 扇谷昌康 | 「シノタイ岬 沙流川河口における アイヌの遺跡」 | 『北海道地方史研究』35号 | 2~10 北海道地方史研究会 |
| | 「キテ」(回転式離頭鉗)の仕組みや、シノタイにも漁業をする人がいて、ホタテ、ホッキ、コンブ、チノザメ、クジラ等がいた、といった情報を鍋沢元蔵氏から得た旨が記されている。 | | | | |
| 5 | 1960(昭和35).10(初出) | 知里真志保 | 「虹に追いかけられた時の呪文」 | 『アイヌに伝承される歌舞詞曲 に関する調査研究』『知里真志 保著作集』2 | 16 平凡社 |
| | 虹が魔物であることなど、虹についての説明が日本語で書かれ、さらに虹に追われた時の呪文がアイヌ語ローマ字表記と日本語訳とで記されている。調査先については「日高国新平賀村の例」と書かれているだけだが、前出(5-(1)-3) No.2)の原資料より、鍋沢元蔵氏への調査に基づくテキストであることがわかる。 | | | | |
| 6 | 1962(昭和37).8.10 | 近藤鏡二郎 | 「ユーカー伝承系図(明治以降) ほか | 『アイヌのユーカー 沙流地方 の伝承』 | 音楽之友社 |
| | ・「ユーカー伝承系図(明治以降)」のなかに鍋沢氏の名前がある。 ・「アイヌのユーカー」の「yukar: 英雄詩曲」の項で、kutunesirka「虎杖丸」の伝承者のひとりとして名前が挙げられている(p.6)。 ・「郷土アイヌの民俗歌謡」中で、「ユーカーを現に伝える人」のひとりとして、鍋沢氏の名前を挙げている(p.14)。 ・「英雄詩曲『ラッコ退治』」において、鍋沢氏と、彼の伝えたkutune sirkaのテキスト(日本語訳のみ)と採譜した譜面(冒頭部)を掲載している。また、語り方(「うたいぶり」)の様子についても記載がある。 | | | | |
| 7 | 1962(昭和37).11.20 | 扇谷昌康 | 「佐瑠太のオマンルパロ <佐瑠太 アイヌの伝説をたずねて>」 | 『北海道地方史研究』第45号 | 18~24 北海道地方史研究会 |
| | 「数少ない古老より折にふれ収集した」(p.18)沙流地方の「オマンルパロ」の伝説を紹介した論稿。このうち「第二話」の妻に先立たれた夫がコンブ拾いに行ったところ、亡き妻を見て、逃げる妻を追って穴に入っていく、死者に暮らす世界についてしまい、戻ってきたものの6日後に死んでしまったという話を、「富川町在住 鍋沢元蔵翁よりの聞きによる」ものとして紹介している。また、原稿の最後に「本稿を纏めるに当たっては特に富川町鍋沢元蔵翁より聞きし、御教示に依るものが多い」(p.24)と追記している。 | | | | |
| 8 | 1963(昭和38).9(初出) | 更科源蔵 | 「上の者と下の者 I」 | 『アイヌ民話集』 | 30~32 (みやま書 房版) 北書房→みやま書 房 |
| | パンペベナンペ譚の日本語訳テキスト。大きなエゾマツに登ったことで運がよくなった、というところから物語が始まる。更科源蔵による『コタン探訪帳』(前出5-(1)-1)に記載がある。 | | | | |
| 9 | 1968(昭和43) | 児玉作左衛門他 | アイヌ服飾の調査 | 『アイヌ民俗資料調査報告』 | 36~38 北海道教育委員会 |
| | 「門別地方のアイヌ服飾」として、「昭和三十九年八月」他3回実施された調査の報告が記される。「話者」のひとりとして「佐留太 鍋沢 元蔵」も挙げられており、「アイヌ衣の名称」や「色置置文衣(ルウンベ)その他に関して」の説明をしている。 | | | | |
| 10 | 1970(昭和45).9.16 | 早川昇 | 「沙流の水音」 | 『民俗民芸双書54 アイヌの民 俗』 | 2~3, 181~191 岩崎美術社 |
| | 「アイヌ古老のお話の中から、……一部をまとめ」たもの(※原著は「一部」に傍点)(p.1)。このうち「第十四話 沙流の水音」は鍋沢元蔵氏からの聞き取り調査のまとめ。内容は、鍋沢氏との出会いと思い出、「カムイ・コタン」という地名、「神知らせ(イラメ・オク)と神判(サイモン・キレ)と」、「葬法のあらまし」、「前代の世界観(1) 神の国、(2) 人の国、(3) 地下の国、(4) 地底の国」。また、「はじめに」(pp.2-3)にも、鍋沢氏自身の作った「彫刻杖」をもたらした思い出が記される。 | | | | |
| 11 | 1971(昭和46).9(初出) | 更科源蔵 | 「沙流川の文化神」、「沙流川の巨 鳥」、「三石の焼串岩」(第6話) | 『アイヌ伝説集』 | 78~79, 79~80, 118 (みや ま書房版) 北書房→みやま書 房 |
| | 「門別町富川・鍋沢モトアツレク翁伝」の物語のあらすじが所載。いずれも更科源蔵による『コタン探訪帳』(前出5-(1)-1)に記載がある。 | | | | |
| 12 | 1973(昭和48).2.25 | 更科源蔵 | 「逢神の歌」 | NHKブックス177『アイヌ文 学的生活誌』 | 158~160 日本放送出版協会 |
| | 「文化神オキクルミの子供のボンオキクルミ」が草人形の力で痲瘡神を追い払う話。サケヘは「アプト サスン サースンケ」。 | | | | |
| 13 | 1973(昭和48).8.24 | 知里真志保 | 「神謡 Kamui-yukar (Atui-pa wa hō)」 | 『痲瘡神に関する資料』『知里 真志保著作集』2 | 325 平凡社 |
| | 自叙神の妹が病気になったため、その「根元」となっている神の由来を解くという内容の神謡の日本語による梗概。 | | | | |
| 14 | 1976(昭和51).12 | 更科源蔵・更科光 | 「悪いクマ」 | 『コタン生物記II』 | 358 法政大学出版局 |
| | 「悪いクマ」の項目中に、「日高の富川に伝わる」「悪い熊に関する昔話(ウチャシクマ)」として、「北見湧別の英雄イクレスエを殺そうとした悪熊が、炉の中に穴を掘ってかくれていたが、それを見破られて頭から熱湯をかぶせられ、降参してイクレスエの守神になった」というあらすじが紹介されている。語り手の名前は明記されていないが、『コタン探訪帳』(前出5-(1)-1)に記載のある話と同内容であることから、鍋沢氏による散文説話を紹介していることが推測できる。 | | | | |

| No. | 年月日 | 編著者 | 表題 備考 | 所収等 | 発行 |
|--|--|-----------|----------------|------------------------|---------------------|
| 15 | 1977(昭和52).2 | 更科源蔵・更科光 | 「クモ」 | 『コタン生物記Ⅲ』 | 751～753 法政大学出版局 |
| | 「クモ」の項目中に、口承文芸にクモが「文化神に協力する善神」としてあらわれる例として、「日高富川の伝承者鍋沢モトアンレク翁の『川上人(ペナンベ)と川下人(パナンベ)』の物語」の、ほぼ全文の和訳をあげている。更科源蔵による『コタン探訪帳』(前出 5-(1)-1)に記載がある話。 | | | | |
| 16 | 1982(昭和57).10.10 | 河崎宏太郎 | 「鍋沢元蔵氏の話」 | 『ユーカラのふるさと』 | 72～74 |
| 鍋沢氏を訪ねた際に、ユーカラの発祥地は浜益であるという話を聞いたという話が対話文形式で記されている。筆者は「富川に行った折、三回鍋沢氏と胸襟を開いて話し合った事があった」(p.72)とのこと。 | | | | | |
| 17 | 1985(昭和60).10.20 | 名取武光 | | 『アイヌの花矢と有翼酒箸』 | 201 六興出版 |
| 第2部「アイヌの有翼酒箸」中の4-4「沙流川筋のアシベ家紋」における家紋の分類図のなかで「ピラカ」の「モトゾウ家」の「家紋」があげられている。 | | | | | |
| 18 | 1986(昭和61).1.20 | 河崎宏太郎 | | 『先住民族の文化遺産 『ユーカラ』への慕情』 | 51～59、71 |
| 鍋沢氏を訪ねた際に、ユーカラの発祥地について、「浜益に行って見れば発祥地はわかる」という話を聞いたというエピソードが簡潔に記される。51～59ページは「ユーカラの昌[マ?]頭部分」の引用。また、「おわりに」には鍋沢氏への謝辞(p.71)も書かれる。 | | | | | |
| 19 | 1988(昭和63).8.20 | 扇谷昌康・島田健一 | 「富川地区」ほか | 『沙流郡のアイヌ語地名Ⅰ』 | 北海道出版企画センター |
| 「富川地区」などの項で「鍋沢元蔵翁が伝えていた名」として、「トイフル」「ボンモノタイ」などのアイヌ語地名を紹介している。 | | | | | |
| 20 | 1995(平成7).2.15 | 増田又喜 | アイヌ伝統音楽を尋ねて(三) | 『北海道の文化』67 | 45～46 北海道文化財保護協会 |
| 増田又喜『アイヌのふるさとに歌を求めて』(前出3-4)の初出記事。1957(昭和32)年1月12日に初めて鍋沢元蔵氏の経営する鍋沢旅館に宿泊した際のことや、鍋沢氏の筆録による公開資料などが紹介されている。 | | | | | |
| 21 | 1996(平成8).3.15 | 増田又喜 | アイヌ伝統音楽を尋ねて(四) | 『北海道の文化』68 | 40～41 北海道文化財保護協会 |
| 前項の続きにあたる連載記事だが、末尾の「すばらしい彫刻も多く残して」いる旨以外は、増田又喜『アイヌのふるさとに歌を求めて』(前出3-4)には未収録。1957(昭和32)年1月12日の出来事の続きとして、鍋沢氏から送られたという『アイヌ・モシリ』第17号の内容を紹介している。 | | | | | |
| 22 | 1996(平成8).8.20 | 増田又喜 | | 『アイヌ歌謡を尋ねて～私の場合～』 | 96～98、145～148 近代文芸社 |
| 前々項、前項の連載記事などをまとめた本。96～98ページは1957(昭和32)年1月12日に初めて鍋沢元蔵氏の経営する鍋沢旅館に宿泊した際のエピソード、145～148ページは昭和34年8月29～30日に「鍋沢モトアンレクさんを再訪」した際に聞いた歌や「挨拶」などについて記されている。 | | | | | |

6 その他の鍋沢元蔵氏に関する文献

(凡例及び注)

- ・鍋沢元蔵氏について言及された図書、論文、記事等のうち、本稿2、3、5に未収録の図書、雑誌論文、記事等を掲載した。
- ・目録は、(1)「公開された図書」(単行本・逐次刊行物)と(2)「未公開の図書・文書」とに分けた。
- ・鍋沢元蔵氏の経営する旅館の名称と電話番号だけ掲載した文献(電話帳、日本交通公社時刻表など)の類は割愛した。
- ・雑誌、新聞のコーナータイトルは、[]で括弧して示した。

6- (1) 公開された図書(単行本・逐次刊行物)

| No. | 年月日 | 編著者 | 表題 備考 | 所収等 | 発行 |
|---|------------------|------------|------------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| 1 | 1928(昭和3).3.29 | | [消息] | きよめの友 第1104号 | 8 聖書学院 |
| 江賀寅三の伝道活動を伝える中で「同兄の導によりて救ひを受けし同族の鍋沢之〔ママ〕蔵兄」に触れ、「旭川の近文にてよき證をなし」等と紹介。 | | | | | |
| 2 | 1962(昭和37)(初出) | 金田一京助 | 口誦伝承の世界 | おりおりの記 | 152～154(金田一京助全集版) 『金田一京助全集』15 |
| 金田一京助による随筆。「ユーカラをみずからペンをとって紙の上へ書きおろす試みをしたアイヌの翁」として鍋沢元蔵氏が紹介される。大正10年ごろに、鍋沢氏による「私のみた最初のアイヌのユーカラ記録」と出会ったことや、「五冊の筆録」をもらったことなどが記されている。 | | | | | |
| 3 | 1964(昭和39).7.1 | 森山論 | | アイヌ教育家、牧師、江賀寅三伝 戦うコタンの勇者 | 172～173 日本イエス・キリスト教団東京教会出版部 |
| 江賀寅三の生涯を小説風に書いた本。このなかで「新平賀コタンの鍋沢元蔵兄の家庭」が「堅く信仰に立っていた」旨が描かれる。 | | | | | |
| 4 | 1965(昭和40).11.23 | | [新聞記事]沙流アイヌのユーカラ発刊 | 室蘭民報(夕刊) | |
| 門別町文化財調査シリーズの第1集『クトネシリカ』が発刊されたことを紹介する記事。第2集以降が準備されていることや、「クトネシリカ」のあらすじなども記されている。 | | | | | |
| 5 | 1966(昭和41).1.5 | 井黒弥太郎 | [書評]ユーカラ「クドネ・シリカ」と元蔵老 | 北海道郷土資料研究会々報 資料通信 第16号 | 12～16 北海道郷土資料研究会 |
| 「I」「II」の二部構成。「I」は『アイヌ叙事詩「クドネシリカ」(門別町郷土史研究会、1965年)の書評。「著者たち」「内容」「感想」からなる。「II」は、金田一京助から鍋沢元蔵氏宛て葉書(「昭和18年1月17日に、老から借りたハガキをうつしておいたもの」とあり。1928年3月5日消印とある)及び「ラムヌサコロカムイの祈禱」(「昭和18年1月17日 元蔵筆記」とあり。井黒が鍋沢氏に舟のことを尋ねたい、「うるさく(幼稚な)たずねるものだから、自分の鉛筆をとって、ザラ紙に書いてくれたのが上記である。」)等とあり。 | | | | | |
| 6 | 1970(昭和45).1.31 | 久保寺逸彦 | [新聞記事]門別町文化財調査シリーズ刊行によせて | 北海道新聞(夕刊) | |
| 門別町文化財調査シリーズ4冊(『アイヌ叙事詩「クトネシリカ」』『沙流アイヌの歌謡』『アイヌの祈詞』『アイヌの叙事詩』)を「貴重なアイヌ資料集」として紹介する。久保寺逸彦による記事。 | | | | | |
| 7 | 1973(昭和48).10.5 | 今野蔭 | 郷土が生んだユーカラクル/鍋沢元蔵翁の不滅の業績を讀める | 百年記念写真誌 | 76～77 門別町 |
| 掲載時の著者の肩書きは「前教育長」。 | | | | | |
| 8 | 1973(昭和48).10.31 | 道立図書館北方資料室 | | 北の資料 第7号 | 北海道立図書館 |
| 「鍋沢モトアンレク・萱野よね子ノート」(p.39)、「鍋沢元蔵遺稿ノート」(pp.40-42)(マイクロフィルム)も含まれた簡易目録。 | | | | | |

| No. | 年月日 | 編著者 | 表題 | 所収等 | 発行 |
|-----|-------------------|------------------------------|--|--|-----------------------------|
| | | | 備考 | | |
| 9 | 1974(昭和49).6.1 | 道立図書館北方資料室 | | 北の資料 第9号 | 北海道立図書館 |
| | | | 「知里ノート」(前出 5- (1) -3) の内容目録。「73 [虹の祈詞]」(p.7)、[144 カムイユーカラ] (p.11) などに鍋沢元蔵氏の名前が見られる。 | | |
| 10 | 1978(昭和53).5 | ボン・フチ | [火の神への祈り言葉] | ユーカラは甦える アイヌ語世界への入門 | 65~66 (改訂版) 新泉社 |
| | | | 『アイヌの祈詞』(前出 2- (2) -4) No.2) からの引用とある。「火の神」(pp.13-15) にあたるテキストだと考えられるが、和訳は変更されている。またアイヌ語本文も多少変更があり、原文のままではない。 | | |
| 11 | 1978(昭和53).5 | ボン・フチ | 「オキクルミ・カムイ・コッ ドレシ」 | ユーカラは甦える アイヌ語世界への入門 | 129~132 (改訂版) 新泉社 |
| | | | 「オキクルミ・カムイの妹が語るうた」という神話。北海道立図書館所蔵マイクロフィルム(前出 2- (1) -1) 遺稿ノート) 所載のテキストを筆者が書き起こして、和訳を施したものである。 | | |
| 12 | 1978 (昭和53) .7.15 | 萱野茂 | クワ 杖 | アイヌの民具 | 75 すずざわ書店 |
| | | | 「クワ 杖」の項目の中で「平取町紫雲古津に住んでおられた鍋沢元蔵さんが作ったもの」の写真と図が紹介されている(前出4参照)。 | | |
| 13 | 1979(昭和54).10.1 | 末岡外美夫 | マッコイワケー流れ星ー | 旭川叢書12 アイヌの星 | 257~258 旭川振興公社 |
| | | | 「マッコイワケー流れ星ー」の項目のなかで、鍋沢氏による祈詞のテキスト(『アイヌの祈詞』(前出 2- (2) -4) No.2) 所収の「結婚における祈詞(1)」が挙げられている。 | | |
| 14 | 1983(昭和58).11.3 | 早川昇 | 小樽という地名について | 早川昇一周忌論文集(木ノ内洋二編) | 23, 30~31 私家本(早川たけ) |
| | | | 「小樽」の語源についての論考。このなかで「富川に住む鍋沢元蔵、アイヌ名をモトアンレクというアイヌ老人の説」を紹介している(p.23)。鍋沢氏についての注(pp.30-31)も付されている。 | | |
| 15 | 1983(昭和58).12.10 | | [項目]鍋沢元蔵 | 文献上のエカシとフチ | 43 札幌テレビ放送 |
| | | | 鍋沢元蔵氏の略歴(生没年、生誕・生活地)ならびに、鍋沢氏によるテキスト、鍋沢氏に関する文献の目録。 | | |
| 16 | 1986(昭和61).1 | アイヌ無形文化伝承保存会 | | 語りの中の生活誌 | 280~281 ほか アイヌ無形文化伝承保存会 |
| | | | テキスト目録のなかに、鍋沢氏のテキストが掲載された公刊本もある。 | | |
| | 1986(昭和61).10.6 | 梅木孝昭(編) | 江賀寅三遺稿 アイヌ伝道者の生涯 | | 271 北海道出版企画センター |
| | | | 江賀寅三にゆかりのある一人として鍋沢元蔵氏に触れた箇所がある。 52~58ページ 江賀が新平賀尋常小学校教員在職中に浦河准教員講習所に学んだときの「休業中の日誌」(1914年12月~15年1月)を掲載。その中に新平賀の人々が頻りに登場。鍋沢元蔵氏の名も複数箇所あり。 66~69ページ 江賀が新平賀から平取に転任した後、新平賀村の人々が浦河支庁長宛てに提出した、江賀を新平賀尋常小学校に再転任させてほしいとの「陳情書」(1918年4月)を掲載。請願者の中に鍋沢元蔵氏の名あり。 102~104ページ 「新平賀におけるアイヌの先覚者」の項に「(2) 鍋沢元蔵」あり。 130ページ 江賀の独立伝道に関する記述の中で、1925年の「伝道報告書」の一部の写真に掲載。写真中の「あいぬ独立教会建設費及伝道費 據金」者名の中に鍋沢元蔵氏の名あり。 140ページ 「恩寵の数々」の項に鍋沢元蔵氏に関する記述あり。 142~144ページ 鍋沢強己[マ]「先生と我家の出会い」掲載。 212ページ 「馬にも顕れた神の事績」の項に「新平賀コタンを巡回、定宿である鍋沢六[マ] 蔵兄の宅を訪れた」との記述あり。 | | |
| 18 | 1988 (昭和63) .3.31 | 社団法人北海道ウタリ協会アイヌ史アイヌ史編集委員会(編) | | アイヌ史 資料編1 図書資料所蔵目録 視聴覚資料所蔵目録 | 949~950 ほか 社団法人北海道ウタリ協会 |
| | | | 「図書資料」では、「北海道立図書館」の「アイヌ叙事詩クドネシリカ」「アイヌの叙事詩」「鍋沢元蔵遺稿ノート」「鍋沢モトアンレク(元蔵)筆録ユーカラ・ノート」(pp.97-99)、「門別町中央公民館図書室」の「鍋沢元蔵ノート原本」「門別町公民館図書室所蔵録音テープ」の目録(pp.949-950)、視聴覚資料では「北海道立図書館」の「沙流アイヌの歌謡」(pp.1111-1112)、「NHK札幌放送局」の「部内用アイヌの音楽LPレコード内容」(p.1271)に、それぞれ鍋沢元蔵氏によるテキスト・音声資料の情報が記載されている。 | | |
| 19 | 1989(平成1).12.10 | 稲田浩二、小澤俊夫(責任編集) | 「魅惑のアイヌラックル」(原題・IMONKA-OYAN-MAT, トリカブト) | 日本昔話通観 第1巻 アイヌ民族 | 432~438 ほか 同朋舎出版 |
| | | | 『アイヌの叙事詩』『アイヌ叙事詩 クドネシリカ』(2- (2) -4) No.1,3参照)等に所収の口承文芸テキストのあらすじが掲載。 | | |
| 20 | 1992(平成4).3 | 久保寺逸彦編 | | 平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート調査報告書(久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿) | 96 北海道教育委員会 |
| | | | 96ページ「ikaripe」の項目に、「海漁(inun 川漁)元蔵」とある。鍋沢氏からの調査によって得られた語彙か。 | | |
| 21 | 1995(平成7).3 | 門別町史編さん委員会 | 無形文化財 | 新門別町史 中巻 | 557~560 門別町 |
| | | | 門別町における「無形文化財」の項で、「門別町の偉大なユーカラの伝承者、鍋沢元蔵翁」が「貴重なユーカラを大学ノート四〇冊に筆録していた」ことが紹介されている。 | | |
| 22 | 2000(平成12).3.24 | 本田優子 | 吉田菊太郎資料の中の金成マツ筆録口承文芸目録 | 北海道立アイヌ民族文化研究センター紀要 第6号 | 91, 109 北海道立アイヌ民族文化研究センター |
| | | | 原資料は吉田菊太郎資料(2169〔雑記帳〕)(幕別町教育委員会)。「金成マツがいつ誰からどのような内容の口承文芸を聞き取ったかを記録した一種の目録であると考えられる」(p.75)。鍋沢氏の名前は、p.91(原資料13ページ)に「昭和十年四月六日鍋沢元蔵様ヨリ、ウエベケレニツ/1 Banambe moshiri ikkeu ne Sunku kitai/bakno nimu ○/〈川下の人が国土の背骨になっているエゾマツの頂上まで登る〉/2 Uraushnai un kuru kashiobiuki/〈ウラウシナイの人を助ける〉」とある。p.109は紹介されている資料のまとめ(一覧)である。 | | |
| 23 | 2006(平成18).3.15 | 中川裕 | アイヌ人によるアイヌ語表記への取り組み | 表記の習慣のない言語の表記 | 1~44 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 |
| | | | 研究者やアイヌ民族自身によるアイヌ語表記をまとめた論文。「4.2 ローマ字による表記」で門別町郷土史研究会より刊行の鍋沢氏のテキストについて、「4.3 カナによる表記」のなかで鍋沢氏も参加した『アイヌ・モシリ』におけるカナ表記について、それぞれ分析を行っている。 | | |
| 24 | 2009(平成21).1 | 末岡外美夫 | | 人間達(アイヌタリ)のみた星座と伝承 | 私家本(末岡由喜江) |
| | | | 220~224ページ、445~447ページ、486~487ページにそれぞれ掲載されているテキストの出典として「鍋沢元蔵、他」とあげられている。また、葬制の変化についての説明のなかで鍋沢氏の名前が挙げられている(p.362)。 | | |

| No. | 年月日 | 編著者 | 表題 | | 所収等 | 発行 |
|-----|--|-------------------------------|--|---|---------|----------------------|
| | | | 表題 | 備考 | | |
| 25 | 2009(平成21).2.28 | 遠藤志保 | アイヌの祈詞における語りの特徴 | 中川裕 編『アイヌ語韻文表現法』(千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第188集) | 83~101 | 千葉大学大学院人文社会科学研究所 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 26 | 2009(平成21).3.31 | 中川裕 | アイヌ英雄叙事詩成立過程の時間層—ユカラにおけるイシカラ人の役割 | 口承文芸研究 第32号 | 29~42 | 日本口承文芸学会 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げられている。 | | | | | |
| 27 | 2010(平成22).3.31 | 中川裕 | 英雄叙事詩に見られる時間層 | 伝承から探るアイヌの歴史 | 332~362 | 札幌大学附属総合研究所 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げられている。 | | | | | |
| 28 | 2010(平成22).9 | 遠藤志保 | 鍋沢元蔵筆録のアイヌ英雄叙事詩における虚辞ならびに韻律調整方法 | 千葉大学人文社会科学研究所 第21号 | 122~139 | 千葉大学大学院人文社会科学研究所 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 29 | 2011(平成23).3 | 遠藤志保 | アイヌ英雄叙事詩における来歴話—鍋沢元蔵氏のテキストから | 口承文芸研究 第34号 | 77~88 | 日本口承文芸学会 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 30 | 2013(平成25).9 | 遠藤志保 | アイヌ英雄叙事詩「ニタイパカイエ」の2種類のテキストに関する考察 | 千葉大学人文社会科学研究所 第27号 | 19~34 | 千葉大学大学院人文社会科学研究所 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 31 | 2014(平成26).2.28 | 遠藤志保 | アイヌ英雄叙事詩における登場人物の名称 | 中川裕 編『アイヌ語の文献学的研究(1)』(千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第273集) | 1~20 | 千葉大学大学院人文社会科学研究所 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 32 | 2014(平成26)~(公開中) | 片山龍峯(採録) 新井田セイノ・吉村冬子・鍋沢強己(語り) | アイヌ語鶴川方言 日本語—アイヌ語辞典 | 千葉大学人文社会科学研究所ホームページ (http://cas-chiba.net/Ainu-archives/mukawa/document/index.html) | | 千葉大学人文社会科学研究所 |
| | 「片山龍峯氏が新井田セイノ氏ならびに吉村冬子氏から、アイヌ語鶴川方言の日本語—アイヌ語辞典を作成することを目的として、語彙およびそれを用いた短文表現等にかんする聞き取り調査を録音した」カセットテープに収められた音声資料(公開サイト内「本資料について」より)。鍋沢氏の子息である強己さんも同席しており、アイヌ語についての助言や、子供の頃の生活体験などについて話をしている。そのなかに、父親である元蔵氏の思い出話(元蔵氏が頼まれて廣弘いをしたこと(11巻A面、18巻B面)、元蔵氏が暮らしていた場所(14巻A面)など)も含まれている。ただし、強己さんの発言箇所については、2017年3月現在、すべて非公開である。 | | | | | |
| 33 | 2014(平成26).3 | 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 | ニタイパカイエ | オルシベ・スウォブ2 | | 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 |
| | 動画DVD。また、出版元のホームページ上でも動画を公開している(2017年現在)。『アイヌの叙事詩』(前出2-(2)-4) No.3)に所収の同題の英雄叙事詩をアイヌ語教材としてアニメ化したもの。 | | | | | |
| 34 | 2014(平成26).3 | 遠藤志保 | アイヌ英雄叙事詩における結末:同一ストーリーにおける揺れを中心に | 口承文芸研究 第37号 | 141~152 | 日本口承文芸学会 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 35 | 2014(平成26).9.25 | 遠藤志保 | アイヌ英雄叙事詩における敵対者の復活—なぜ「童子たち」は一度しか現れないのか— | 千葉大学ユーラシア言語文化論集 第16号 | 65~88 | 千葉大学文学部ユーラシア言語文化論講座 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 36 | 2015(平成27).3 | 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 | オキクルミの妹 | オルシベ・スウォブ3 | | 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 |
| | 動画DVD。また、出版元のホームページ上でも動画を公開している(2017年現在)。『沙流アイヌの歌謡』(前出3-1)に所収の同題の神話をアイヌ語教材としてアニメ化したもの。 | | | | | |
| 37 | 2015(平成27).3 | 遠藤志保 | アイヌ英雄叙事詩におけるカムイという語の一用法 | 口承文芸研究 第38号 | 94~107 | 日本口承文芸学会 |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 38 | 2015(平成27).3.31 | 遠藤志保 | アイヌ語韻文文学における接続句 | アンナ・プガエワ、長崎郁(編)『アイヌ語研究の諸問題』 | 49~60 | 北海道出版企画センター |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |
| 39 | 2016(平成28).3 | 遠藤志保 | アイヌ口承文学に見られる表現 omommomoに関する一考察—沙流地方の英雄叙事詩を中心に— | 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第1号 | 43~56 | 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター |
| | 鍋沢氏のテキストも分析対象として取り上げている。 | | | | | |

6- (2) 未公開の図書・文書

| No. | 年月日 | 編著者 | 表題 | | 所蔵機関等 |
|-----|---|-------|--------------|---------|-------|
| | | | 表題 | 備考 | |
| 1 | 1931(昭和6) | 高橋直平 | 新平賀郷土誌稿 | 北海道立図書館 | |
| | 著者の高橋直平は執筆当時新平賀尋常小学校教員。1972(昭和47)年にこれを整理し道立図書館に寄贈した郷土史研究者・井黒弥太郎によれば、1937年の新平賀尋常小学校廃止に際し、統合先であった富川尋常高等小学校教員をつとめていた井黒が「廃棄された反故紙の中」に「誌稿のプリントアウトと未定稿を辛くも拾い集めることができた」もの。前半、第五章までが謄写印刷、それ以降は井黒による筆写であり、巻末に井黒による「解説」が付されている。 | | | | |
| 2 | | 井黒弥太郎 | アイヌ資料集 2 人物誌 | 北海道立図書館 | |
| | 郷土史家・井黒弥太郎が筆記・編さんした資料集の中の一冊。鍋沢元蔵氏に関する資料数件を含む。公開された文献(前出6-(1) No.5参照)の原稿と思われるもの。井黒は富川尋常高等小学校などに勤務した経歴を有する。 | | | | |

7 参考

7- (1) 鍋沢元蔵氏によるテキスト

〈概要〉

本項目は、鍋沢元蔵氏が筆録・口演した口承文芸等のテキストが、本書誌で取り上げたノート類のどこに記載されているかをまとめ、さらに、そのリライト・公刊・引用関係の流れを付記したものである。

「表題」の抽出にあたっては、「遺稿ノート」の33（「伝承目録」）をもとにし、これに記載されていないテキストを追加した上で、鍋沢氏によるジャンル区分にしたがい配列した。

「遺稿ノート」33は、物語テキストのタイトルが一覧になっており、鍋沢氏が筆録したテキストを記載したものであると考えられる。タイトルに振られている番号は全部で114にまで至るが、途中、番号が飛んでいるところがあり、総数は105タイトルとなっている。「伝承目録」記載番号に番号の記載のあるものが「遺稿ノート」33に記載のあるもの、「一」となっているものは記載のないものである。

リライト・公刊・引用の整理については、同一テキストの浄書・引用である場合は右矢印（→）で印し、別バージョン（パリエーション）である場合には、(1) (2) のように、別番号とした。ただし、公刊物に所収されたテキストが、更に別の出版物に引用・再掲されている場合については、本リストにおいては省いた。

「表題（公刊本記載など）」は、複数のタイトルを整理するために立てた便宜的なものである。また、公刊本に記載がない場合は、〔 〕内に編者によるタイトルを充てた。

| No. | 表 題（「伝承目録」記載のアイヌ語） （原文ママ） | | 表 題（「伝承目録」記載の日本語・備考） （原文ママ） | 表 題（公刊本記載など） |
|-----------------|------------------------------|---|--|-------------------------------------|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元／リライト・引用関係等／備考 | |
| 英雄叙事詩（ユカラ） | | | | |
| 1 | | クドネシリカ オコクコイドレン チホ マ イドレン | 英雄ボイヤウンベ・ユーカラ | クトゥネシリカ（虎杖丸の曲） |
| | 1 | 1962(昭和37).10 1965(昭和40).10.1 1959(昭和34).7.11 1962(昭和37).8.10 1959(昭和34).10.17-18 | (1) 遺稿ノート8、9、10「クドネシリカ」 →『アイヌの叙事詩 クドネシリカ』 (2) 『沙流アイヌの歌謡』「ラッココイキ」 →『アイヌのユーカラ 沙流地方の伝承』「英雄詩曲 ラッコ退治」（和訳のみと冒頭の譜面） (3) 『沙流アイヌの歌謡』英雄叙事詩「クトゥネシリカ」第2段 | |
| 2 | | ライヘネヤ・モロヘネヤ | 死んたか、生きた | フリハヨクベ（鷺鐘） |
| | 2 | 1963(昭和38).3.2 1963(昭和38).4 1965(昭和40).6.15 1969(昭和44).12.1 | (1) 遺稿ノート12「ライヘネヤ、モロヘネヤ」（下書き） 「萱野力造」から「昭和38年4月20日に聞いた」 →遺稿ノート14「ライヘネヤ、モロヘネヤ」（浄書）（→東京の山路先生に 原稿を見せた） →『アイヌ・モシリ』18「ユーカラ ボイヤウンベ」 『アイヌの叙事詩』「HURI HAYOKPE」 | |
| 3 | | イベウエン・キンラ | 大食（く）らえ | イベウエンキンラ（喰べ気違い） |
| | 3 | 1964(昭和39) 1969(昭和44).12.1 | (1) 遺稿ノート13「イベウエン・キンラ」 →『アイヌの叙事詩』「IPE WEN KINRA」 | |
| 4 | | ニタイバ・カイエ トムンチ・エカシ・イレス ニタイバ カイエ° | 魔老人に、育てた | ニタイバカイエ |
| | 4 102 | 1954(昭和29).2 2016(平成28).3.7 1965(昭和40).10 1969(昭和44).12.1 | (1) 民博所蔵ノート3「ニタイバ カイエ ニタイバラマ」 →民博報告書「yukar (2) ニタイバカイエ」 (2) 遺稿ノート16「ニタイバ・カイエ°」 →『アイヌの叙事詩』所収「NITAY-PA KAYE」 | |
| 5 | | ボイヤウンベ・レブネ・アDOIエ° | ボイヤウンベ、三つに斬られた | |
| | 5 | 1928(昭和3).2 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート1「ユカル」(?) →民博報告書「yukar (1) ユカル」 | |
| 6 | | レブシシリ・キヤンケル サクソモアイ エ°プエ | れぶん彦龍に食（く）はれた | サクソモアイエプアコイキ（魔竜退治） |
| | 6 108 | 1966(昭和41).1.10 1969(昭和44).12.1 (年月日不明) | 龍退治ユウカラ (1) 遺稿ノート17「シヤク・ソモアイエ°プ アコイキ」 →『アイヌの叙事詩』「SAK-SOMO-AYEP AKOYKI」 (2) 遺稿ノート40「ユウカラ（人食イリウ）」 | |
| 7 | | アトイソカタ シララ・カバシカタ ト ムンチ・サボ・イレス | 海上の磯上に、魔の姉育てた | |
| | 7 90 | アトイソカタ メノコ ボイヤウンベ アDOI ソカタ レス ユウカラ | 海のまん中の島に育てた | |
| 8 | | オタサムウンマツ ボイヤウンベ・カシオビ ウキ | 委員会の注文 三段続く (火なし育つ 水なし育つ) | ワッカサクスツプ、アベサクスツプ（水なしに育つ、 火なしに育つ） |
| | 109 | 1966(昭和41).4 1969(昭和44).12.1 | (1) 「語る日 41年3月26日」「物語る人 木村政吉」 →遺稿ノート18「ワッカ、サクスツプ、アベサク、スクプ」 →『アイヌの叙事詩』「WAKKA SAK SAKUP, APE SAK SAKUP」 | |
| 9 | | セタチレス・ウエ°ベチレス | 犬育て 悪者育つ 二たん これも委員会の | セタチレス、ウエンベチレス（犬育て、悪者育て） |
| | 110 | 1966(昭和41).4 1969(昭和44).12.1 | (1) 遺稿ノート18「セタチレス/ウエ°ベチレス」 →『アイヌの叙事詩』「SETA CHIRESU, WENPE CHIRESU」 | |
| 10 | | ランケエビシ、ホプニエビシ | — | ランケエビシ、ホプニエビシ |
| | — | 1921(大正10)頃 | ※大正10年頃、35歳の時にはじめて、金田一京助に見せたノートに書かれていた英雄叙事詩のタイトル(6-(1) No.2 参照)。 | |
| 11 | | — | — | ボンソヤウンマツ イワンロクンテウ ウコエタイ イエ |
| | — | 1959(昭和34).2 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート5「ボンソヤ ウンマチ イワン」ロクンデウ ウコエタイエ° →民博報告書「yukar (3) ボンソヤ ウンマチ イワン」ロクンデウ ウコエタイエ° | |
| 12 | — | (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40〔英雄叙事詩のあらすじ〕 | |
| 13 | | — | — | エテシケモシリ |
| | — | 1954(昭和29).3 | (1) 北大所蔵ノート1「エテシケモシリ」 | |
| 14 | | — | — | 〔おぼと姉に育てられる〕 |
| | — | 1954(昭和29).3 | (1) 北大所蔵ノート1（英雄叙事詩） | |
| 女性英雄叙事詩（メノコユカラ） | | | | |

| No. | 表 題 (「伝承目録」記載のアイヌ語) (原文ママ) | | 表 題 (「伝承目録」記載の日本語・備考) (原文ママ) | 表 題 (公刊本記載など) |
|-------------|---|--|--|----------------------|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元／リライト・引用関係等／備考 | |
| 15 | イモンカ・オヤンマツ ランケカント コ ロカムイ | | 中央天界の姫物語り | イモンカオヤンマツ |
| | 10 | 1958(昭和33).12 1965(昭和40).3.13 1965(昭和40).5.15 1969(昭和44).12.1 | (1) 北大所蔵ノート2「イモンカオヤンマチ」 (2) 遺稿ノート11「イモンカオヤンマツ」(→東京の山路先生に 原稿を書いた) →『アイヌ・モシリ』17「姫神メノコ・ユウカラ イモンカオヤンマツ」 『アイヌの叙事詩』「IMONKA-OYAN-MAT」 | |
| 16 | イヨチ・ウンマツ | | よいつの物語 ユーカラ | イヨチウンマツ |
| | イヨチウンマツ ユウーカラ ボニウネ レブブンシ ウンウル コイキ ユウーカ ラ ネルエ ^o ネ | | 更科先生 行き | |
| | 11 100 | 1965(昭和40).9 1969(昭和44).12.1 1961(昭和36).5.20-21 1961(昭和36).4.25 1961(昭和36).4.25 1961(昭和36).4.26 | (1) 遺稿ノート15「イヨチ ウンマツ」 →『アイヌの叙事詩』「IYOCHI-UN-MAT」 (2) 『沙流アイヌの歌謡』「メノコユカラ イヨチウンマツ」 (3) 『アイヌの音楽』「詞曲4 (menoko yukar) iyochi kotan」 →『コタン探訪帳』12「イヨチウンマツ (余市人の妹) のmenoko yukara (鞘の上 赤く燃え 白く燃える形)」 →更科源蔵音声資料「メノコユカラの後半の説明」(日本語訳) | |
| 聖伝 (オイナ) | | | | |
| 17 | オйнаカムイ・ツブカムイ・オロワ アレ ス | | お日様から。オйна神育てられた | カムイオйна |
| | オйнаカムイ ヤイカタ オйна ツブ カムイ レス | | 伝承の神御自心物語り | |
| 18 | 8 103 | 1965(昭和40).12 1969(昭和44).12.1 | (1) 遺稿ノート1~5「カムイオйна」(アイヌ語のみ) →『アイヌの叙事詩』「KAMUY OYNA」 | ボンオйна |
| | 二号 カムイ オйна | | アイヌラックル 天国の姫 | |
| 19 | 107 | 1966(昭和41).1 1969(昭和44).12.1 | (1) 遺稿ノート6「ボンオйна」 →『アイヌの叙事詩』「PON OYNA」 | ブンカラシクタ |
| | — 1961(昭和36).5.20-21 | | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「オйна ブンカラシクタ」 | |
| 神謡 (カムイユカラ) | | | | |
| 20 | オйнаカムイ・ドレシ ニセランマツ・コ タン・エシカルン | | オйна神の妹姫が沙流川恋物語 | オキクルミの妹 (ホレ ホーレ) |
| | 9 | 1959(昭和34).5 1978(昭和53).5 1959(昭和34).10.17-18 1960(昭和35).10.16 1961(昭和36).4.25 1961(昭和36).4.25 | (1) 金田一旧蔵ユーカラノート「オキクルミの妹姫の歌」 →『ユーカラは甦える』「オキクルミ・カムイ・コツ ドレシ」 (2) 『沙流アイヌの歌謡』「神謡「ホレ ホーレ」 オキクルミの妹」 (3) 『沙流アイヌの歌謡』「神謡「ホレ ホーレ」 オキクルミの妹」(途中まで) (4) 『アイヌ伝統音楽』「譜例402 hore hore yupinekur」 →『コタン探訪帳』12「Kamuy yukar」(和訳のみ) | |
| 21 | オйнаカムイ・トレシヒ タスムヒタ カ ムイ・コイタク | | オйна神の妹病気時の祈詞 | 神の由来を解く神謡 |
| | オйнаカムイ・トレシ・タスム オロタ イノンイタク カムユカラ | | 扇谷先生 かいだ | |
| 22 | 12 101 | (年月日不明) 1966(昭和41).8.1 1961(昭和36).4.25 (年月日不明) 1973(昭和48).8.24 | (1) 遺稿ノート40「台は へや イイ」(テキストそのものではなく登場する神名を並べる) (2) 『アイヌの祈詞』附篇「神の由来を解く詞」 (3) 『コタン探訪帳』12「オキクルミの妹の病気時のKamuy Oyna/he-yay」(和訳のみ) (4) 知里真志保ノート「Kamui yukar/atuipa wa ho」 →知里真志保「痘瘡神に関する資料」「神謡 Kamui-yukar (Atui-pa wa ho:)」 | |
| | オキクルミ・イコンヌ・ベウレブ・オマン デ・イタク | | オキクルミは小魔熊育て、送る祈詞歌 | [オキクルミが化け熊を送った話] |
| 23 | 38 | 1928(昭和3).2 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート2「神謡 (カムイユカラ) /其語・・・・ノウーオウウ」 →民博報告書「kamuyyukar3」 | |
| | リキナアークルル) サロルン・ウエ ^o ンベ・ハウエ ^o へ・イソイタク | | 怪鶴暴れて、熊と決闘する歌 | |
| 24 | 39 | | | |
| | サンクマ・カンカン・ラビブ・ラビブサーサ シノツ・イセボ・ビシタ・サン・シノツザ (サケヘ) サンクマカンカン・ラビブラビブササ イセボ・ビシタシノツ・エサン・イソイタク レブカムイ・マツネボ・タスム・イセボサン ベ エルスイ・エタシベ・タクエヤン | | 遊び兔浜辺に出た時の歌 兔が浜辺に遊ぶ時の語り歌 | [生き胆を取られそうになったウサギの話] |
| 25 | 40 55 | | | |
| | テンナフル オキクルミ・コロ・イナウサン イセボ・ ケブケビ | | 悪魔兔が祭壇囃み散免の歌 | [オキクルミの幣壇を囃んだウサギの話] |
| 26 | 41 | | | |
| | リクンカクタアン・カムチカブ・カムイユ カラ コンカネベ・トイトイ・ビシカント・ シロカネベ | | 天国住む鳥とりの語り歌 | |
| 27 | 56 | | | |
| | カンナカムイ ユカラ | | 雷神の歌 | 雷神の歌 |
| 27 | 114 | 1966(昭和41) 1967(昭和42) (年月日不明) | (1) 遺稿ノート7「雷神の歌」 →『北海道の文化』13「カムイ・ユーカラ／雷神の自ら歌った神謡」 (2) 遺稿ノート40「カンナカムイ・アイヌ モシリ ヌカン ルスイ」(途中まで) | |

| No. | 表 題 (「伝承目録」記載のアイヌ語) (原文ママ) | | 表 題 (「伝承目録」記載の日本語・備考) (原文ママ) | 表 題 (公刊本記載など) |
|--------------|-------------------------------|--|---|--|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元/リライト・引用関係等/備考 | |
| | — | — | — | [草人形の力で病気の神を追い払う話] |
| 28 | — | 1928(昭和3).2 2016(平成28).3.7 (年月日不明) 1952(昭和27).3 1973(昭和48).2.25 | (1) 民博所蔵ノート1「神謡 (カムイユカラ) / 其語 (ノーウ)」 →民博報告書「kamuyyukar1」 (2) 知里真志保ノート「kamui-yukar/sakehe: 'nou」 →知里真志保「呪師とカワウソ」「オйнаカムイが自ら歌つたという神謡」(サケへ「アプトサ スンサスン」) (3) 更科源蔵『アイヌ文学の生活誌』「蓬神の歌」(サケへ「アプト サスン サースンケ」) | |
| | — | 1928(昭和3).2 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート2「神傳 (カムイユカラ) / 其語・……ツドルマケ・……ランラン ビ ウニタ/ビシビシ・……ランラン ラブシタ/バケ・……ビウニタと言」 →民博報告書「kamuyyukar2」 | |
| 30 | — | 1959(昭和34).9.5-6 | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「神謡 オキクルミの神」(サケへ「チクリボ、ウコパイェパイェ、ウコシ クンシクン、ウララバコ、ネンケタンケ、スクシノトヤフン」) | |
| 31 | — | (年月日不明) | 遺稿ノート40「カムイユカラ (アイヌシツチリ)」(途中まで) | [カラス神が津波の襲来を教える話] |
| 32 | — | (年月日不明) | 遺稿ノート40〔伝承メモ〕「水神の神姫の歌」(日本語あらすじのみ。サケへ: ベツルウワ、ベツル) | [水の神が神々を酒宴に招く話] |
| 散文説話 (ウエベケレ) | | | | |
| 33 | — | クザチセオツタ・カムイ・シロウリ・イテレ ユベツ・ウン・イクレイエ°・コロ・イソ イタク | 北見湯別のイクレイエ°の活し | [イクレイエ°の狩小屋にクマが隠れていた話] |
| | 53 65 | 1961(昭和36).3.30 1961(昭和36).3.31 1976(昭和51).12 1962(昭和37).11 1965(昭和40).5 | (1) 『コタン探訪帳』12「エクレイエニシバ (uepekere)」 →更科源蔵音声資料「エクレイエの語uebekere」 →『コタン生物記II』「悪いクマ」の項 (2) 『アイヌ・モシリ』12「イクレイエ°・イソイタク」 (3) 遺稿ノート26「イクレイエ°・イソイタク/北見の湯別イクレイエ°物語」 | |
| 34 | — | イクレイエ° ウエ°シカムイ・ヘカチ・ コスンケ・イソイタク | イクレイエ°は魔物たまかした活し | [イクレイエ°が化け物をだました話] |
| | 54 | 1962(昭和37).11 | (1) 『アイヌ・モシリ』12「イクレイエ°・イソイタク」 | |
| 35 | — | メノコ・エシムケブ・ボンクツ・アナクネ・ ソノノ・タマサイ・アクカリ・イコロネル ズネナア | ボンクツの物語です | メノコ エシムケブ |
| | 57 | 1959(昭和34).9.5 1965(昭和40).5 1965(昭和40) | (1) 『コタン探訪帳』12「pon kut」 (2) 遺稿ノート25「(ボンクツ) ウエ°ベケル/メノコ・エシムケブ」 →『北海道の文化9』「(物語り) ウエベケル/Menoko esimukep (女の下帯)」 | |
| 36 | — | オキクルミ・コロ・カムイ・ウエ°ベケル チシナブ・カムイ・ボロシリ・カムイ | オキクルミ神と、ホロシリ岳の神との話 | [オキクルミとホロシリの神の話] |
| | 58 | 1965(昭和40).5 | (1) 遺稿ノート25「オキクルミ・イソイタク」 | |
| 37 | — | イクレイエ° カスンテ キムタ ウヌカル イソイタク | ユベツのイクレイエ°とカスンテの話 | [イクレイエ°とカスンテの話] |
| | 59 | 1965(昭和40).5 | (1) 遺稿ノート25「第二 イクレイエ°とカスンテと会った話」 | |
| 38 | — | イクレイエ° テルケイバ ト° ミ コホブニ | ユウベツのイクレイエ°と蛙る六〇の戦かひ | [イクレイエ°がカエルと戦った話] |
| | 60 | 1965(昭和40).5 | (1) 遺稿ノート25「北見湯別/イクレイエ°・イソイタク」 | |
| 39 | — | イクレイエ° イシカル・ルロケヘタ・アトサ・ メノコ・ニキタイ・アコシナベ ヌカル | イクレイエ°が裸の女木にむすばれて見た 親不孝者です | |
| | 61 | 1965(昭和40).5 | (1) 遺稿ノート26「ユベツ ウン イクレイエ°」 | |
| 40 | — | イシカルウントキツカントイソイタク キムン アイヌ・チチケウ・トムンチ メ ノコ・ライケ・イソイタク | 石狩のトキツカントの話し ・チチケウ (犬の化け物・人食人・山女とこ ろした はなし) | [トキツカントの話] |
| | 62 106 | 1965(昭和40).5 | ウエ°ベケル 四 言葉 (1) 遺稿ノート26「トキツカント 物語」 | |
| 41 | — | ユベツウンイクレイエ°ベトトル オイ カ・チブサンケウ・イシカルウン・ヤエサン オクカイボ・バシクル・エルム・アニライ | イクレイエ°が石狩川に鮭とり/鼠と鳥す に くわれた おとこ | |
| | 63 | 1965(昭和40).5 | (1) 遺稿ノート26「イクレイエ°物語」 | |
| 42 | — | アツマウン・ラベインカラ アキヒ・ウエ° ンカムイ・オロワ・アライケ | ラベインカラの弟が悪熊にくわれた 話し | |
| | 64 | 1965(昭和40).5 | (1) 遺稿ノート26「ラベインカラ コル ウエ°ベケル」 | |
| 43 | — | ウエベケル サカナ イクレイエ°イソ イタク | 勇別のイクレイエ°の物語り | |
| | 111 | 1966(昭和41).6 (年月日不明) | (1) 遺稿ノート27「(イクレイエ°) 昔し物語」 (2) 遺稿ノート40 [イクレイエ°の散文説話 あらすじ] (途中まで) | |
| 44 | — | イクレイエ° コロコトイェ カスンテ ウナヤンケ | イクレイエ° 語る | |
| | 112 | 1966(昭和41).6 | (1) 遺稿ノート27「イクレイエ° ウエベケル」 | |
| 45 | — | — | — | Banambe moshiri ikkeu ne Sunku kitai/bakno nimu (川下の人が国土の背骨になっているエゾマツ の頂上まで登る) |
| | — | 1935(昭和10).4.6 1961(昭和36).3.30 1961(昭和36).3.30 1963(昭和38).9 1977(昭和52).2 | (1) 「吉田菊太郎資料」中の金成マツ筆録口承文芸目録 (2) 更科源蔵音声資料「ベナンベ、パナンベ」 →更科源蔵『コタン探訪帳』12「ベナンベ」 →更科源蔵『アイヌ民話集』「上の者と下の者I」 更科源蔵『コタン生物記III』「クモ」の項 | |

| No. | 表 題（「伝承目録」記載のアイヌ語） （原文ママ） | | 表 題（「伝承目録」記載の日本語・備考） （原文ママ） | 表 題（公刊本記載など） |
|-----|------------------------------|---|--|--|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元／リライト・引用関係等／備考 | |
| 46 | — | — | — | Uraushnai un kuru kashiobiuki / 〈ウラウシナイの人を助ける〉 |
| | — | 1935(昭和10).4.6 | (1)「吉田菊太郎資料の中の金成マツ筆録口承文芸目録」 | |
| 47 | — | — | — | [海に出た三人兄弟の話] |
| | — | 1958(昭和33).12 | (1) 北大所蔵ノート2〔散文説話（途中まで）〕 | |
| 48 | — | — | — | [熊に育てられた女の話] |
| | — | 1960(昭和35).2 | (1)『アイヌ・モシリ』9「サンテクリ」 | |
| 祈詞 | | | | |
| 49 | コタン・エイノンノイタク | | 部落が神に守られる祈詞 | |
| | 14 | | | |
| 50 | イヨマンデ・イノンノイタク | | 熊祭の時、神に捧げ祈詞 | 熊祭りにおける祈詞 |
| | 15 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「熊祭り祈詞」(昭和4年3月10日) →『アイヌ祈道全集』『熊祭り祈詞』 『アイヌの祈詞』『熊祭りにおける祈詞』 | 熊を送る詞(1) |
| | 小熊に供捧で送る祈詞 | | カムイホブニレ・イタク | 熊祭りにおける祈詞 |
| 51 | 16 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「紫雲古津 熊送る祈詞」 →『アイヌ祈道全集』『熊送る祈詞』 『アイヌの祈詞』『熊祭りにおける祈詞』 | 熊を送る詞(2) |
| | クザコロ・オツタ・イタク | | 山狩に行き、神に捧げる祈詞 | |
| 52 | 17 | | | |
| | モシリコロ・フチ・コイタク | | 火乃神に捧げる祈詞 | 火の神への祈詞 |
| 53 | 18 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「カムイ・フチ 火の神」 →『アイヌ祈道全集』『カムイフチ 火の神』 『アイヌの祈詞』『カムイフチ(火の神)』 | |
| | | 1954(昭和29).3 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート4「火神ノ何時テモノ祈道」 →民博報告書「inonnoytak1」 | |
| | チセコロ・カムイ・コイタク | | 内神に捧げる祈詞 | 家の神への祈詞 |
| 54 | 19 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「シイラプシクル」 →『アイヌ祈道全集』『シイラプシクル』 『アイヌの祈詞』『シラプシクル(家の神)』 | |
| | ヌサコロ・カムイ・コイタク | | 祭壇の神に捧げる祈詞 | 幣場の神への祈詞 |
| 55 | 20 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「ヌサ・コロ・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』『ヌサ コロ カムイ』 『アイヌの祈詞』『ヌサコルカムイ(幣場の神)』 | |
| | ラムヌサ・コロカム・コイタク | | 樹林責任の神に捧げる祈詞 | 低い幣場の神への祈詞 |
| 56 | 21 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「大樹の神」 →『アイヌ祈道全集』『ニラビンナ カムイカト』 『アイヌの祈詞』『ニラビンナカムイ(低い幣場の神)』 | |
| | ハシナウ・コロカムイ・コオンカミ | | 山の神に、捧げる神詞 | 枝幣の神への祈詞 |
| 57 | 22 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「ハシウ・コロ・カムイ」[マ] →『アイヌ祈道全集』『ハウシ コロ カムイ』[マ] 『アイヌの祈詞』『ハシナウコルカムイ(枝幣の神)』 | |
| | コタン・コロ・カムイ・コイタク | | 梟鳥に捧げる祈詞 | 村の守り神への祈詞 |
| 58 | 23 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「カムイ・チカブ・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』『カムイ チカブ カムイ』 『アイヌの祈詞』『コタンコルカムイ(村の神)』 | |
| | ワッカウシ・カムイ・コイタク | | 水命神に捧げる祈詞 | 水の神への祈詞 |
| 59 | 24 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「ワッカウシ・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』『ワッカウシ カムイ』 『アイヌの祈詞』『ワッカウシカムイ(水の神)』 | |
| | コタン・エイノンノイタク・ハル・ソイオ | | 疫病を防ぐ、秘呪(まじない) 祈詞 | [流行病を払うときの祈詞] |
| 60 | 25 | 1954(昭和29).3 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート4「(ハルソイオ) / 風引キ又ワ流行病ノ オハラヒ」 →民博報告書「inonnoytak2」 | |
| | 25 | 1954(昭和29).3 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート4「病ノ神ニ次ニ 悪神流行病ノ神ニ向フ事業」 →民博報告書「inonnoytak3」 | |
| 61 | カバリ・エムウン・クンネ・シドンベ・コイタク | | 賀張奥黒稲荷大命神え祭る祈詞 | 賀張の神への祈詞 |
| | 26 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「ニシカナルマツ／白狐大命神」 →『アイヌ祈道全集』『ニシカナルマツ(名前) 白狐大命神』 『アイヌの祈詞』『賀張の神』 | |
| 62 | リクン・カント・コロカムイ・コイタク | | 上天国重き神え捧げる祈詞 | |
| | 27 | | | |
| 63 | ハヨビラ・ザシ・ブンキカムイ・コイタク | | 平取ハヨビ・守る神え捧げる祈詞 | ハヨビラを守る神への祈詞 |
| | 28 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「ハヨビラ」 →『アイヌ祈道全集』『ハヨビラ』 『アイヌの祈詞』『ハヨビラの神』 | |
| 64 | ボロシリ・ウン・カムイ・コイタク | | ほろしり岳の神に捧げる祈詞 | ボロシリの神への祈詞 |
| | 29 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「ボロシリウカムイ」 →『アイヌ祈道全集』『ボロシリ ウンカムイ』 『アイヌの祈詞』『幌尻の神』 | |
| 65 | ピラトル・アベツ・エムコウン・カムイ・コイタク | | 平取アベツ奥のチシナブ神に祭る | アベツの草人形の神への祈詞 |
| | 30 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「イモシ・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』『イモシ カムイ(イモシ大神尊)』 『アイヌの祈詞』『アベツのイモシカムイ(草人形の神)』 | |

| No. | 表題（「伝承目録」記載のアイヌ語） （原文ママ） | | 表題（「伝承目録」記載の日本語・備考） （原文ママ） | 表題（公刊本記載など） |
|---|----------------------------------|---|--|---------------|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元／リライト・引用関係等／備考 | |
| 66 | サルバ・レルケヘ・チカボヒ・カムイ・コイタク | | 去場村東側鷲の神に祈る | フリ神への祈詞 |
| | 31 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「フリ・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』「フリ カムイ」 『アイヌの祈詞』「フーリー神」 | |
| 67 | モーベツ・ノッド フ レタル・シド ンベ カムイコイタク | | 門別崎の白稲荷大命神え祈詞 | 門別の白狐の神への祈詞 |
| | 32 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「モベツ・レタル・シドンベ・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』「門別の白狐神への祈詞」(※最初の7行を欠く) 『アイヌの祈詞』「門別の白狐の神」 | |
| 68 | シヌタイ・エムコ・クンネ シド ンベ・カ ムイ・コイタク | | シノタイ 崎黒稲命神祭の祈詞 | シノタイの黒狐の神への祈詞 |
| | 33 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「シヌタイ・クンネ・シドンベ」 →『アイヌ祈道全集』「シヌタイ クンネ シドソベ」[マ] 『アイヌの祈詞』「シノタイの黒狐の神」 | |
| 69 | サルベツ・チワシ・チュブ エブンキネ チシナブカムイ | | 沙流川尻のチシナブ神に捧る祈詞 | 沙流川の草人形の神への祈詞 |
| | 34 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「イモシ・カムイ／チシナブ」 →『アイヌ祈道全集』「イモシ カムイ (チシナブ。神の命神)」 『アイヌの祈詞』「沙流川口のイモシカムイ (草人形の神)」 | |
| 70 | マサル・コロ・カムイ・コイタク | | 海岸辺・舟付場守る神の祈詞 | 海辺の神への祈詞 |
| | 35 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「サンマサル・コロ・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』「サンマサル コロ カムイ」 『アイヌの祈詞』「サンマサルコルカムイ (海辺の神)」 | |
| 71 | トマリ・ソッキ・エブンキネ カムイ コ イタク | | 湾の神拝し祭る祈詞 | 港の神への祈詞 |
| | 36 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「トマリ・コロ・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』「トマリ コロ カムイ」 『アイヌの祈詞』「トマリコルカムイ (港の神)」 | |
| 72 | ヤンケ・ソッキ・エブンキネ・カムイコイタク | | 中央の沖守る神に捧る祈詞 | 海の支配神への祈詞 |
| | 37 | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「モアザウンクル」 →『アイヌ祈道全集』「モアザウンクル」 『アイヌの祈詞』「モアザウンクル (海の支配神)」 | |
| 73 | ビリカ・ヌワブ・オッタ・カムイ・コイタク | | 案産の時に、火の神に拝する祈詞 | 安産の祈詞 |
| | 42 | (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40「案産の時祈詞 [マ] | |
| | | (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40「お産を守る神」 | |
| 1966(昭和41).8.1 | (1) 『アイヌの祈詞』「出産における祈詞 (1) 安産の祈詞」 | | | |
| 74 | ユブケ・ヌワブ・オッタ・イタク | | 難産の時火の神に拝する祈詞 | 難産の時の祈詞 |
| | 43 | (年月日不明) (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40「難産の祈詞」 →北大所蔵ノート3「難産祈詞 (ユブケ・ヌワブ・コイタク)」(※遺稿ノート40のテキストと基本的には同じだが、ところどころに付け足されている行が確認できる) →『アイヌの祈詞』「出産における祈詞 (2) 難産の時の祈詞」 | |
| | | (年月日不明) (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40「カムイ・コヤヤツサ」 →北大所蔵ノート3「神に返礼祈詞 (カムイ・コヤヤツサ・イタク)」(※遺稿ノート40のテキストと基本的には同じだが、ところどころに付け足されている行が確認できる) →『アイヌの祈詞』「出産における祈詞 (3) 神への感謝の詞」 | |
| | 1966(昭和41).8.1 | (年月日不明) (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40「カムイ・コヤヤツサ・イタク」 →北大所蔵ノート3「火の神の部下姫神に返礼祈詞 (カムイ・ドンチ・マツ・コヤヤツサイタク)」(※遺稿ノート40のテキストと基本的には同じだが、数行のみ違いも見られる) →『アイヌの祈詞』「出産における祈詞 (4) 部下の姫神への感謝の詞」 | |
| 75 | ホンオロマブ・ライワ・エヌワブ・イタク | | 死産の時神に向ふ祈詞 | 死産の時の祈詞 |
| | 44 | (年月日不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート40「死産の時祈詞」 →『アイヌの祈詞』「出産における祈詞 (5) 死産の時の祈詞」(※遺稿ノート40のテキストと基本的には同じだが、数行のみ違いも見られる) | |
| 76 | シンリツ・カムイ・アラババ・イタク | | 先祖仏に供祭る時念願の祈詞 | 祖先祭祀の祈詞 |
| | 45 | 1966(昭和41).8.1 1966(昭和41).8.1 | (1) 『アイヌの祈詞』「祖先祭祀の祈詞 (1) 火の神への詞」 (1) 『アイヌの祈詞』「祖先祭祀の祈詞 (2) 先祖を祀る詞」 | |
| 77 | シリコ・ウフイオッタ・イタク | | 家災に合った時の祈詞 | 火災の時の祈詞 |
| | 46 | 1964(昭和39).7 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート24「チセウフイ オッタ カムイ オロイタク」 →『沙流川筋の祈禱集』「チセウフイ オッタ カムイ オロイタク」 『アイヌの祈詞』「火災の時の祈詞」 | |
| 78 | サラク・カムイオッタ・イタク | | 川或は海に溺れ死の時祈詞 | 溺死者が出たときの祈詞 |
| | 47 | 1964(昭和39).7 (刊行年不明) | (1) 遺稿ノート23「サラク・カムイオッタ・カムイオルン イヨイタクコテ イタク」 →『沙流川筋の祈禱集』「サラク カムイオッタ カムイ オルン イヨイタクコテ イタク」 『アイヌの祈詞』「変死者を送る祈詞 (1) 火の神への詞」 | |
| | | 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート23「サラク・カムイ・オイタクコテ」 →『沙流川筋の祈禱集』「サラク カムイ オイタクコテ」 『アイヌの祈詞』「変死者を送る祈詞 (2) 溺死者の冥土渡し」 | |
| 1964(昭和39).7 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | | | | |
| 79 | チキムナカラ・オッタ・イタク | | 熊に食い殺され時の祈詞 | |
| 48 | | | | |
| 80 | レクチヒ・シナワ オトシ・エアツベ ヤ イタクヤシバライ | | 首ちり死の時祈詞 | |
| | 49 | | | |
| 81 | モリコロ フチ アヌレ ボタラ イタク | | 顔面神経痛の呪阻方法 | 顔面神経痛を平癒する祈詞 |
| | 66 | 1965(昭和40).7 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート20「一 カムイフチ・コイタク」 →『アイヌの祈詞』「顔面神経痛を平癒する祈詞 (1) 火の蠟神への詞」 | |

| No. | 表 題 (「伝承目録」記載のアイヌ語) (原文ママ) | | 表 題 (「伝承目録」記載の日本語・備考) (原文ママ) | 表 題 (公刊本記載など) |
|-----|-------------------------------------|---|---|----------------------|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元／リライト・引用関係等／備考 | |
| 82 | ナイ コロ カムイ アコイタク イエボ トラ イタク | 1965(昭和40).7 1966(昭和41).8.1 | 顔面神経痛の為泉の神に願ひ (1) 遺稿ノート20「第二 ナイコロカムイ・コイタク」 →『アイヌの祈詞』「顔面神経痛を平癒する祈詞 (2) 沢の神への詞」 | 顔面神経痛を平癒する祈詞 |
| | 67 | | | |
| 83 | ドレブニ カムイ アニスク ウエ°ボタ ラ イタク | 1965(昭和40).7 1966(昭和41).8.1 | 顔面神経痛人の為 入魂する 桑樹神 (1) 遺稿ノート20「第三 ドレブニカムイ・モソソ」 →『アイヌの祈詞』「顔面神経痛を平癒する祈詞 (3) 桑の木の神への詞」 | 顔面神経痛を平癒する祈詞 |
| | 68 | | | |
| 84 | ミムタル コロ カムイ アモソソウ エ°ボトラ イタク | 1965(昭和40).7 1966(昭和41).8.1 | 庭先の権神え頼む言葉 (1) 遺稿ノート20「第四 ミムタル・コロカムイ・コイタク」 →『アイヌの祈詞』「顔面神経痛を平癒する祈詞 (4) 庭の神への詞」 | 顔面神経痛を平癒する祈詞 |
| | 69 | | | |
| 85 | モシリコロ フチ カンナ アヌレ イタク | 1965(昭和40).7 1966(昭和41).8.1 | 国持火の神え二度めの言葉 (1) 遺稿ノート20「第五 イレス・フチ・コイタク」 →『アイヌの祈詞』「顔面神経痛を平癒する祈詞 (5) 火の神への詞」 | 顔面神経痛を平癒する祈詞 |
| | 70 | | | |
| 86 | ドレブニ カムイ エウンヘボキイタク | 1965(昭和40).7 1966(昭和41).8.1 | 桑の木神に感謝言葉 (1) 遺稿ノート20「第六 桑樹神呪阻神え神昇祈詞」 →『アイヌの祈詞』「顔面神経痛を平癒する祈詞 (6) 桑の木の神への詞」 | 顔面神経痛を平癒する祈詞 |
| | 71 | | | |
| 87 | タスマヘカチ エブンキネクス (一) カム イフチ コイタク | 1965(昭和40).9.5 (年月日不明) | 男性の病気の為にえんちうのかみ やとう (1) 遺稿ノート21「第一 モシリコロフチ」 →『コタン探訪帳』19「(1) 火の神への祈り」 | 〔病気の時の祈詞〕 |
| | 84 | | | |
| 88 | タスマヘカチ クス (二) ヌサコロカムイ コイタク | 1965(昭和40).9.5 (年月日不明) | たんせい びよきのために さいたん神に、 いのる (1) 遺稿ノート21「第二 ヌサコロカムイ」 →『コタン探訪帳』19「(2) 祭壇の神への祈り」 | 〔病気の時の祈詞〕 |
| | 85 | | | |
| 89 | チクベニ カムイ ニスク (三) タスマ ヘカチ | 1965(昭和40).9.5 (年月日不明) | 男性 病にやとう えんちう かみ (1) 遺稿ノート21「第三 チクベニ カムイ ニスク」 →『コタン探訪帳』19「(3) 槐樹神招魂」 | 〔病気の時の祈詞〕 |
| | 86 | | | |
| 90 | ヌサコロカムイ (四) カムイフチオロワ アソコヌレ | 1965(昭和40).9.5 (年月日不明) | (1) 遺稿ノート21「第四 モシリコロフチ/アヌレイタク」 →『コタン探訪帳』19「(4) 火の神への報告 (mosir kor huchi anure itak)」 | 〔病気の時の祈詞〕 |
| | 87 | | | |
| 91 | カムイ リワク エトコホタ (五) イレス カムイ アヌレイタク | 1965(昭和40).9.5 (年月日不明) | 更科 (1) 遺稿ノート21「第五 モシリコロフチエウン/カムイ リワクテ アヌレ」 →『コタン探訪帳』19「(5) 火の神に神の (mosiri kor huchi eun kamuy riwakute anure)」 | 〔病気の時の祈詞〕 |
| | 88 | | | |
| 92 | チクベニ カムイ アリワクテ (六) イタ ク | 1965(昭和40).9.5 (年月日不明) | 六段1組 更科先生書く (1) 遺稿ノート21「第六 チクベニ カムイ/アリワクテ」 →『コタン探訪帳』19「(6) チクベニカムイ (chikupeni kamuy ariwak te)」 | 〔病気の時の祈詞〕 |
| | 89 | | | |
| 93 | サルバ村マツエボトラ・イタク | 1966(昭和41).8.1 | 去場村の婦人の呪阻 (1) 『アイヌの祈詞』「気違い病を平癒する祈詞 其の二 (R女の場合) (1) ~ (6)」 | 〔精神病を平癒する祈詞〕 |
| | 104 | | | |
| 94 | — | 1964(昭和39).2 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート19「キムン・カムイ」 →『アイヌ祈道全集』「トツウシカムイ (大熊大神神)」(※最初の7行を欠く) 『アイヌの祈詞』「キムンカムイ (山の神)」 | 熊の神への祈詞 |
| | — | | | |
| 95 | — | 1964(昭和39).7 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート22「ボロスツプ・マツ・モシリ・ホプバ・イヨイタク・コテ・カムイオルンイタク」 →『沙流川筋の祈禱集』「ボロスツプ マツ モシリ ホプバ イヨイタク コテ カムイオル ンイタク」 『アイヌの祈詞』「葬儀における祈詞 (1) 火の神への詞」 | 死者を送るときの祈詞 (火の神に対して) |
| | — | | | |
| 96 | — | 1964(昭和39).7 (刊行年不明) 1966(昭和41).8.1 | (1) 遺稿ノート22「伯母イヨイタクコテ・イタク」 →『沙流川筋の祈禱集』「伯母イヨイタクコテ イタク」 『アイヌの祈詞』「葬儀における祈詞 (2) 死者への冥土渡し」 | 死者を送るときの祈詞 (死者に対して) |
| | — | | | |
| 97 | — | 1954(昭和29).3 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート4「急病ニ火神ニ奉ゲル祈道/火ノ神澳津姫命」 →民博報告書「inonnoytak4」 | 急病のときの祈詞 (火の神に対して) |
| | — | | | |
| 98 | — | 1954(昭和29).3 2016(平成28).3.7 | (1) 民博所蔵ノート4「火神ニ夢見ノ時 祈道/澳津姫命」 →民博報告書「inonnoytak5」 | 夢を見たときの祈詞 (火の神に対して) |
| | — | | | |
| 99 | — | 1966(昭和41).8.1 | (1) 『アイヌの祈詞』「結婚における祈詞 (1) 火の蠟神への詞」 | 結婚における祈詞 |
| | — | 1966(昭和41).8.1 | (1) 『アイヌの祈詞』「結婚における祈詞 (2) 火の蠟神への詞」 | |
| 100 | — | 1966(昭和41).8.1 | (1) 『アイヌの祈詞』「津波を防ぐ祈詞 (1) 海の支配神」 | 津波を防ぐ祈詞 |
| | — | 1966(昭和41).8.1 | (1) 『アイヌの祈詞』「津波を防ぐ祈詞 (2) 津波の神」 | |
| 101 | — | 1966(昭和41).8.1 | (1) 『アイヌの祈詞』「気違い病を平癒する祈詞 其の一 (S女の場合) (1) ~ (6)」 | 精神病を平癒する祈詞 |
| | — | | | |
| 102 | — | 1952(昭和27).11.16 | (1) 知里真志保ノート「イケマ」 | イケマを使う時の祈詞 |
| 103 | — | 1957(昭和32).1.12 | (1) 『アイヌのふるさとに歌を求めて』トラック7「オロイタク」 | オロイタク |
| | — | | | |

| No. | 表 題 (「伝承目録」記載のアイヌ語) (原文ママ) | | 表 題 (「伝承目録」記載の日本語・備考) (原文ママ) | | 表 題 (公刊本記載など) | |
|--------------------|-------------------------------|--|---|--------------------------------|---------------|--|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元/リライト・引用関係等/備考 | | | |
| その他の物語 (伝説・言い伝えなど) | | | | | | |
| 104 | 50 | ビタルバコタン・シンコ・ニシバ・コロイ ソイタク | ビタルバ (緑町) ある昔活し | シンコさんの話 | | |
| | | 1964(昭和39) | (1) 遺稿ノート29 「門別町内で、ある話 (シンコさん)」 | | | |
| 105 | 51 | スウンコツ・コタンタ・アン・ニシバ・ヌ プレサン・コロ・イソイタク | 紫雲古に住む ヌプレサンの活し | 沙流川の伝説 (ヌプレサン) | | |
| | | 1964(昭和39) | (1) 遺稿ノート29 「沙流川の伝説」 | | | |
| 106 | 52 | スウンコツ・ウン・イエアングル・コロ イソイタク | 紫雲古津のイエアングルの活し | 沙流郡の話 (イエアングル) | | |
| | | 1964(昭和39) | (1) 遺稿ノート29 「沙流門別にあつた古い話」 | | | |
| 107 | 105 | フリカムイメノコ・メノコ・ライケ | カユシピンとオタカンボトと二人で退治・伝 脱 | [フリ退治の伝説] | | |
| | | 1959(昭和34).9.4 1971(昭和46).9 1964(昭和39) | (1) 『コタン探訪帳』12 「フリー伝説」 → 『アイヌ伝説集』「沙流川の巨鳥」 (2) 遺稿ノート29 「不孝と孝行の話」 | | | |
| 108 | — | — | — | [アソロベツのモクコレ婆さんがオオカミに出会っ た話] | | |
| 109 | — | 1962(昭和37).11.10 | (1) 『アイヌ・モシリ』12 「アオヤモクテ・ユーカラ/アイヌ・モシッタ・ホロケウ・イソイタク」 | ウバシクマ 「登別の伝説」 | | |
| | | 1960(昭和35).10.16 | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウバシクマ 登別の 伝説」 | 沙流川の文化神 | | |
| 110 | — | 1959(昭和34).9.4 1971(昭和46).9 | (1) 『コタン探訪帳』12 「オキクルミ」 → 『アイヌ伝説集』「沙流川の文化神」 | | | |
| | | — | — | 三石の焼串岩 | | |
| 111 | — | 1959(昭和34).9.5 1971(昭和46).9 | (1) 『コタン探訪帳』12 「Kotan Kar kamuy/三石のイマニチ」 → 『アイヌ伝説集』「三石の焼串岩」 | | | |
| | | — | — | [アエオイナカムイの伝説] | | |
| 112 | — | 1961(昭和36).3.30 | (1) 『コタン探訪帳』12 「蓬」 (アエオイナカムイの伝説) | 紫雲古津の伝説 | | |
| 113 | — | 1959(昭和34).9.5 | (1) 『コタン探訪帳』12 「紫雲古津の伝説」 | 津波伝説 | | |
| 114 | — | 1959(昭和34).9.5 | (1) 『コタン探訪帳』12 「津波伝説」 | オマンルパロの伝説 | | |
| 115 | — | 1962(昭和37).11.20 | (1) 扇谷昌康『北海道地方史研究』45 「佐増太のオマンルパロ」 「オマンルパロの伝説」 | | | |
| 歌 | | | | | | |
| 116 | — | 1959(昭和34).7.11 | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ アヨロコタン」、「ウポボ アヨロコタン (ウコウク)」 | アヨロコタン | | |
| | | 1961(昭和36).5.20-21 | (2) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ アヨロ・ウポボ」 | | | |
| | | 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (3) 遺稿ノート28 「1 アーヨロ・ウーウウ・ホウワ」 (4) 遺稿ノート40 「アヨロウポボ」 | | | |
| | | — | — | チュブカワカムイラン | | |
| 117 | — | 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 遺稿ノート28 「2 ツブカアワーカムイラン」 (2) 遺稿ノート40 [チュブ カワ カムイ ラン] | | | |
| | | — | — | アトウイソカタ | | |
| 118 | — | 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ アトウイソ・カ・タ」 (2) 遺稿ノート28 「3 アアードイソーオウーカタア」 (3) 遺稿ノート40 [アディソウー カタ] | | | |
| | | — | — | ボンランコカムイ | | |
| 119 | — | 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ ボンランコカムイ」 (2) 遺稿ノート28 「4 ボンランコー・オオ・カムイーヒヤオルン」 (3) 遺稿ノート40 「ボンランコカムイ」 | | | |
| | | — | — | ボンレブンカムイ | | |
| 120 | — | 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ ボンレブンカムイ」 (2) 遺稿ノート28 「5 ボン・レブン・カムイ・ヘイヨウ」 (3) 遺稿ノート40 [レブンカムイ] | | | |
| | | — | — | ニシスルケ | | |
| 121 | — | 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ ニシスルケ」 (2) 遺稿ノート28 「6 ニシ・スッスルケエスッスルケエー」 (3) 遺稿ノート40 「ニシスルケ」 | | | |
| | | — | — | ノカンカイボ | | |
| 122 | — | 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ ノカン・カイボ」 (2) 遺稿ノート28 「7 エーコイカアウン」 | | | |
| | | — | — | カネボンクトシントコ | | |
| 123 | — | 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ カネボンクトシントコ」 (2) 遺稿ノート28 「8 カネボン・クト シントコ」 (3) 遺稿ノート40 「クドシントコ」 | | | |
| | | — | — | カヤマウ (レバ) | | |
| 124 | — | 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ カヤマウ」 (2) 遺稿ノート28 「9 ヘシ カヤ マフ ホオチウ」 (3) 遺稿ノート40 「レバ」 | | | |
| | | — | — | ワシベトウンチャシ | | |
| 125 | — | 1964(昭和39).3.30 | (1) 遺稿ノート28 「10 レーラ・マフカ・ソビウ」 | | | |
| 126 | — | 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 | (1) 『沙流アイヌの歌謡』「ウポボ ワシベトウン・チャシ」 (2) 遺稿ノート28 「11 アウワバアアアウワバ」 | | | |

| No. | 表 題 (「伝承目録」記載のアイヌ語) (原文ママ) | | 表 題 (「伝承目録」記載の日本語・備考) (原文ママ) | 表 題 (公刊本記載など) |
|-----|---------------------------------|---|---|-----------------------|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元/リライト・引用関係等/備考 | |
| 127 | — | 1964(昭和39).3.30 | 遺稿ノート28「12 キナアースツ・ヘイヨウー」 | |
| 128 | — | 1959(昭和34).7.11 1961(昭和36).5.20-21 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1)『沙流アイヌの歌謡』「ウボボ ホワオ」 (2)『沙流アイヌの歌謡』「ウボボ コノユン・ノユン」 (3) 遺稿ノート28「13 ヒヤオーシノトーオオ」 (4) 遺稿ノート40〔シノト ヒヤオ〕 | |
| 129 | — | 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 遺稿ノート28「14 フブザオーホレレエー」 (2) 遺稿ノート40〔フブザオー ホレレレ〕 | フブチャオ |
| 130 | — | 1964(昭和39).3.30 (年月日不明) | (1) 遺稿ノート28「15 フン・チイカプ・フントリイー」 (2) 遺稿ノート40〔ハンチカプ〕 | フントリフンチカプ |
| 131 | — | 1964(昭和39).3.30 | 遺稿ノート28「16 ウシシ キナア ホーホオー」 | |
| 132 | — | 1961(昭和36).5.20-21 | (1)『沙流アイヌの歌謡』「ウボボ タマクチ」 | タマクチ |
| 133 | — | 1960(昭和35).10.16 | (1)『沙流アイヌの歌謡』「ウボボ オプタテシケ プルブルケ」 | オプタテシケ プルブルケ |
| 134 | — | 1959(昭和34).7.11 (年月日不明) | (1)『沙流アイヌの歌謡』「イユタ・ウボボ」 (1) 遺稿ノート40〔(文字欠) ロウ ワウオウ ホイヤア〕 | イユタ・ウボボ (白つき歌) |
| 135 | — | (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40〔(文字欠) アンベー トノト〕 | |
| 136 | — | (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40〔(文字欠) ント ホリカシ カムイ〕 | |
| 説明 | | | | |
| 137 | アベカム・ソソノ・モトコロ イソイタク 72 | 1965(昭和40).8.8 | 火の神の根本の説明 (1) 遺稿ノート31「アベカムイ/火の神 訳」 | 〔火の神について〕 |
| 138 | オйнаカムイ・アイヌモシリ・オラン・モトホ 73 | 1965(昭和40).8.8 1965(昭和40).11 | 伝承の神が下界降り根本 (1) 遺稿ノート31「アエオйна神の訳」 (1) 遺稿ノート35「第二号 アエオйнаカムイ」 | 〔アエオйнаカムイについて〕 |
| 139 | メノコ・アアタマワ・ポコロ 74 | 1965(昭和40).8.8 1965(昭和40).11.13 | 女に呪阻して、子供生し法 (1) 遺稿ノート31「アアタマ/呪阻法」 (1)『コタン探訪帳』19「子さづけ呪術 (aatama)」 | 〔子授けの呪術について〕 |
| 140 | カムイノミ 75 | 1965(昭和40).8.8 | 神に祭る方法 (1) 遺稿ノート31「カムイノミ ニ (神に捧げ御酒礼拝)/アチクカ」 | 〔神への祈り方 (酒の捧げ方) について〕 |
| 141 | モシリ ホバ 76 | 1965(昭和40).8.8 | 不幸の時の仕方 (1) 遺稿ノート31「モシリ (国) ホバ (去) 不幸」 | 不幸の時の仕方 |
| 142 | アコシラッキ・カムイ 77 | 1965(昭和40).8.8 1965(昭和40).11.13 | 守り神の説明 (1) 遺稿ノート31「アコ (私) シラッキ (守) カムイ」 (1)『コタン探訪帳』19「守神」 | 〔シラッキカムイについて〕 |
| 143 | ピリカ ヌワブ 78 | 1965(昭和40).8.8 | 案産の説明 (1) 遺稿ノート31「ピリカ (良い) ヌワブ (案産)」 | 〔安産のための祈りについて〕 |
| 144 | テエタ アミブ 79 | 1965(昭和40).8.8 1965(昭和40).11.13 | 着物の説明 (1) 遺稿ノート31「アミブ 着物」 (1)『コタン探訪帳』19「着物」 | 着物の説明 |
| 145 | アエヤイカムイ・シヌカレ 80 | 1965(昭和40).8.8 | 神祭の説明 (1) 遺稿ノート31「アエヤイカムイ問答集」 | 〔アエヤイカムイの説明〕 |
| 146 | オクカヨ・メノコ・エサバムエブ 81 | 1965(昭和40).8.8 1965(昭和40).11.13 | 男女の頭巾の説明 (1) 遺稿ノート31「アエサバムエブ 男の冠り 女の頭巾」 (1)『コタン探訪帳』19「鉢巻」 | 男女の頭巾の説明 |
| 147 | アシニクワ・エイソイタク 82 | 1965(昭和40).8.8 1965(昭和40).11.13 | 墓標の説明 (1) 遺稿ノート31「アシニ 墓標」 (1)『コタン探訪帳』19「墓標」 | 墓標の説明 |
| 148 | アエニヌイベ・エイソイタク 83 | 1965(昭和40).8.8 1965(昭和40).11.13 | 男女の枕の説明 (1) 遺稿ノート31「アエニヌイベ (枕)」 (1)『コタン探訪帳』19「枕」 | 枕の説明 |
| 149 | チクニ ウビシレヘ 113 | 1966(昭和41).7 (年月日不明) | 植物の教 (1) 遺稿ノート32「植物語い」 (1) 遺稿ノート40「木類の名前」 | 植物語彙 |
| 150 | — | 1965(昭和40).11 | (1) 遺稿ノート35「エサマン 魔法」 | 〔エサマンについて〕 |
| 151 | — | 1965(昭和40).11 | (1) 遺稿ノート35「アエドンネブ 魔物・化物」 | 〔化け物について〕 |
| 152 | — | 1965(昭和40).11 | (1) 遺稿ノート35「説明/ユウーカラ 第1第2第3」 | 〔ユウーカラについて〕 |
| 153 | — | (年月日不明) | (1) 遺稿ノート40〔熊送りの説明〕 →『アイヌ祈道全集』「熊送る祈詞 まえがき」 | 〔熊送りについて〕 |
| その他 | | | | |
| 154 | ウエ ^ラ ランカラブ・イタク 13 | 1959(昭和34).8.30 | 会釈見 (いさく) 事業の説 (1)『アイヌのふるさとに歌を求めて』トラック15「挨拶」 | 挨拶 |
| 155 | — | 1937(昭和12).4 | (1) 知里真志保「アイヌ民俗研究資料 (第二)」「いちめ文句」 | 言葉遊び |

| No. | 表題（「伝承目録」記載のアイヌ語） （原文ママ） | | 表題（「伝承目録」記載の日本語・備考） （原文ママ） | 表題（公刊本記載など） |
|-----|-----------------------------|------------------------------------|--|--------------|
| | 「伝承目録」 記載番号 | 筆録・刊行年月日 | 筆録・録音・掲載元／リライト・引用関係等／備考 | |
| 156 | — | — (年月日不明) 1960(昭和35).10 | (1) 知里真志保ノート〔虹の祈詞〕 →知里真志保「アイヌに伝承される歌舞詞曲に関する調査研究」〔虹に追いかけられた時の呪文〕 | 呪文（虹に追われたとき） |
| | — | 1959(昭和34).4.27 1965(昭和40).3.20 | (1) 『アイヌ・モシリ』6「アシリバ オッタ イランカラブ イタキ」 →『ウタサ・カンピ』「アシリバ オッタ イランカラブ イタキ」 | 新年の挨拶（書簡） |
| 158 | — | 1965(昭和40).3.20 | (1) 『ウタサ・カンピ』「一九五九年四月十七日」 | 書簡 |
| 159 | — | 1965(昭和40).3.20 | (1) 『ウタサ・カンピ』「一九五九年六月二十七日」 | 書簡 |
| 160 | — | 1965(昭和40).3.20 | (1) 『ウタサ・カンピ』「一九五八年十月三十日」 | 書簡 |
| 161 | — | 1965(昭和40).3.20 | (1) 『ウタサ・カンピ』「一九五九年八月八日」 | 書簡 |

(2) 鍋沢元蔵氏略年譜

| 年（元号） | 年齢 | できごと | |
|-----------|---------|--------|--|
| 1886 | 明治19 | 0歳 | 6月14日 沙流郡紫雲古津村（現平取町紫雲古津）で生まれる。 |
| 1898 | 明治31 | 12歳 | 大雨による沙流川の洪水の被害を受け、紫雲古津などの人びとが川の東側に移る。鍋沢家も新平賀（現日高町福満）に移転。 |
| 1899～1900 | 明治32～33 | 13～14歳 | このころから彫刻の仕事始めたという。 |
| 1918 | 大正7 | 32歳 | 新平賀の人々が、前年に新平賀尋常小学校から他に転任した教員・江賀寅三の再任を求める陳情書を浦河支庁長に提出。鍋沢元蔵氏も嘆願者に名を連ねる。 |
| 1921 | 大正10 | 35歳 | このころ、英雄叙事詩の筆録ノート2冊を旭川に来ていた金田一京助に見せる。 |
| 1931 | 昭和6 | 45歳 | このころ、旭川でキリスト教伝道に従事していた金成マツの代わりに、1年間、教会の「留守番」として息子とともに旭川に住む。 |
| 1959 | 昭和34 | 73歳 | 5月4日に放送されたNHKテレビ番組「ここに鐘は鳴る」（ゲスト：金田一京助）に出演。英雄叙事詩「エテシケモシリ」を口演する。 |
| 1959～1961 | 昭和34～36 | 73～75歳 | このころ、近藤鏡二郎によるアイヌ音楽・口承文芸の調査（『沙流アイヌの歌謡』）に協力。 |
| 1959～1963 | 昭和34～38 | 73～77歳 | このころ、釧路の山本多助らによるアイヌ語の同人誌『アイヌ・モシリ』に寄稿。 |
| 1962 | 昭和37 | 76歳 | 3月 自宅が火災で全焼。家にあったノートはすべて焼失するが、直後にアイヌ語での物語の筆録を再開。 |
| 1965 | 昭和40 | 79歳 | 門別町郷土史研究会より『アイヌ叙事詩クドネシリカ』発刊。 |
| 1966 | 昭和41 | 80歳 | 門別町郷土史研究会より『アイヌの祈詞』発刊。 11月 北海道文化財保護功労賞を受賞。 |
| 1967 | 昭和42 | 81歳 | 7月12日 死去。 |

- 参考資料
- ・門別町郷土史研究会編 1969. アイヌの叙事詩. 門別町郷土史研究会.
 - ・増田又喜 2010. アイヌのふるさとに歌を求めて. 文芸社.
 - ・沙流アイヌの歌謡（北海道立図書館所蔵音声資料. 請求記号 T/SA/O-6-1～T/SA/O-11-11）.
 - ・梅木孝昭編 1986. 江賀寅三遺稿 アイヌ伝道者の生涯. 北海道出版企画センター.

Bibliography of Motozo NABESAWA:

A Catalogue of Literature about Motozo NABESAWA, Who Was Known as the Ainu Person That Recorded Folklore in Writing, Including His Handwritten Notes, Publications, Recordings, and Folk Artifacts

OGAWA Masahito, ENDO Shiho, OSAKA Taku

OGAWA Masahito : Ainu Culture Group, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum
 ENDO Shiho : Ainu Culture Group, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum
 OSAKA Taku : Ainu Culture Group, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum